

仙台市文化財調査報告書第420集

# 南小泉遺跡

第68次発掘調査報告書

2014年3月

仙台市教育委員会



仙台市文化財調査報告書第420集

# 南小泉遺跡

第68次発掘調査報告書

2014年3月

仙台市教育委員会



## 序 文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日ごろからご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。市内には、旧石器時代から近世に至るまで数多くの埋蔵文化財が残っています。当教育委員会といたしましては、市民の皆様からのご理解・ご協力のもと、これらの文化財を保存・活用し、次世代へ継承していくように努めているところです。

本報告書は仙台市立遠見塚小学校のプール改築工事に伴い、平成 24 年度に実施しました南小泉遺跡第 68 次発掘調査成果をまとめたものです。

遠見塚小学校は、南小泉遺跡内に所在し、仙台市内最大の前方後円墳である国史跡遠見塚古墳が隣接しております。平成 21・22 年度に実施した遠見塚小学校の校舎改築工事に伴う発掘調査では、古墳時代の竪穴住居跡のほか、中世以降と考えられる掘立柱建物跡などが確認されております。今回の調査では、中世の竪穴建物跡などの遺構が見つかり、古墳時代から中近世の時期の遺物が出土しました。

本報告書が学術研究はもとより、市民の皆様にも広く活用され、地域の歴史と文化財に关心を抱く契機になれば幸いです。

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災では、仙台市内も甚大な被害を受けました。現在仙台市は「ともに、前へ仙台～3.11からの再生～」を掲げて復興計画を進めているところです。そうした中、本報告書刊行にあたり、多くの方々のご協力、ご助言をいただきましたことを深く感謝申しあげる次第です。

平成 26 年 3 月

仙台市教育委員会

教育長 上田 昌孝

## 例　　言

1. 本書は仙台市立遠見塚小学校のプール改築工事に伴い、平成 24 年度に実施した、南小泉遺跡第 68 次発掘調査の成果についてまとめたものである。
2. 本書の作成業務は仙台市教育委員会が株式会社吉田建設に委託して行った。
3. 報告書の作成にあたっては、仙台市教育委員会生涯学習部文化財調査指導係主査浜光朗・荒井 格・庄子裕美の監理の下、株式会社吉田建設が行った。
4. 原稿の執筆は下記のとおり分担し、これに庄子と荒井が補足した。

庄子 裕美 第 1 章 1 第 6 章 1	松井 智 第 1 章 2 ~ 第 5 章
中俣 茂 第 5 章 (出土遺物の記述)	第 6 章 2 は庄子と松井が協議の上、松井が執筆した。
5. 石器石材は「標準原色図鑑全集 6 岩石鉱物」(1977 年 保育社)を参考に、松井が経験的知識をもとに判定した。
6. 発掘調査及び報告書作成に際し、次の方からご指導・ご助言をいただいた。(敬称略)  
田中則和
7. 本調査の実施に際し、仙台市立遠見塚小学校及び仙台市教育委員会総務企画部学校施設課の協力を得た。
8. 発掘調査や報告書作成時の図面・写真・出土遺物などの全ての資料や記録は、仙台市教育委員会が保管している。

## 凡　　例

1. 第 1 図は国土地理院発行の 5 万分の 1 地形図「仙台」(平成 14 年)を、第 2 図は仙台市作成の都市計画基本図(平成 18 年)をそれぞれ修整して使用した。
2. 本書で使用した土色の記載は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財團法人日本色彩研究所監修「新版標準土色帖」(2006 年版)に基づいた。
3. 本書中の座標値は、日本測地系平面直角座標第 X 系を基準とし、標高値は T.P. (東京湾平均海面) を用いた。  
なお、座標値と海拔高度は、平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災後のものを使用している。
4. 本書に掲載した遺構図の縮尺は、遺構配置図は 1/100、個別遺構平面図・断面図は 1/40、1/60、1/100、1/150 として掲載した。
5. 本書に掲載した遺物実測図の縮尺は、土器類は 1/3、石器(石礫)は 1/1、磨製石斧は 1/2、石製品は 1/3 (管玉・石製模造品は 1/2) を原則とし掲載した。
6. 遺構については以下の略号を使用し、種別毎に連番とした。なお、本報告書で「堅穴建物跡」とした遺構は、平面形が一辺 3 m 前後の隅丸方形を呈する堅穴状の遺構である。検出面から床面までの深さは 40 ~ 50cm で、床面には周溝と壁柱穴を伴っている。また、付属施設として、底面が建物側に傾斜する張出し部が敷設されている。堅穴建物跡を構成する柱穴は「P」、それ以外のピットは「Pi」を表記した。  
S A : 柱列跡 S B : 挖立柱建物跡 S D : 溝跡 S I : 堪穴建物跡 S K : 土坑 S X : 性格不明遺構  
S R : 自然流路跡
7. 土層名については基本層をローマ数字、遺構内堆積層をアラビア数字で表記した。
8. 遺構図で使用したスクリーントーンの凡例は、その都度挿図中に示した。
9. 出土遺物の登録には次の遺物記号を使用し、種別毎に通し番号を付した。  
A : 繩文土器 B : 弥生土器 C : 土師器(非クロロ) D : 土師器(クロロ調整・赤焼土器) E : 須恵器  
F : 丸瓦 I : 陶器 J : 磁器 K : 石器・石製品 P : 土製品
10. 遺構観察表内の規模・遺物観察表内の法量で、( ) で示した数値は残存値を示し、- は計測不能を示した。
11. 土器・石器の実測図にスクリーントーンを貼付したものは次の状態を示している。



黒色処理



摩耗



敲打痕（強）



敲打痕（中）



敲打痕（弱）

12. 本文中の灰白色火山灰(山田・庄子 1980)は、これまでの仙台市域の調査報告や東北中北部の研究から、「十和田 a 火山灰 (To - a)」と考えられている。

## 目 次

第1章 調査に至る経緯と調査要項 .....	1
1. 調査に至る経緯 .....	1
2. 調査要項 .....	1
第2章 地理的環境と歴史的環境 .....	2
1. 地理的環境 .....	2
2. 歴史的環境 .....	2
第3章 調査の方法と経過 .....	3
1. 調査の方法 .....	3
2. 調査の経過 .....	4
第4章 基本層序 .....	5
第5章 検出遺構と出土遺物 .....	7
1. 堅穴建物跡 .....	7
2. 掘立柱建物跡 .....	17
3. 柱列跡 .....	19
4. 土坑 .....	20
5. 溝跡 .....	34
6. 性格不明遺構 .....	41
7. ピット .....	44
8. 自然流路跡 .....	44
9. 遺構外出土の遺物 .....	47
第6章 総括 .....	48
1. 堅穴建物跡について .....	48
2. まとめ .....	49
参考文献 .....	49

写真図版

報告書抄録

## 挿図目次

第1図	周辺の遺跡	2	第19図	SK 土坑（1）	23
第2図	調査区位置図	4	第20図	SK 土坑（2）	24
第3図	柱状模式図・グリッド配置図	5	第21図	SK 土坑（3）	25
第4図	遺構全体図	6	第22図	SK 土坑（4）	26
第5図	SI1 壓穴建物跡	7	第23図	SK 土坑出土遺物（1）	31
第6図	SI1 壓穴建物跡出土遺物	9	第24図	SK 土坑出土遺物（2）	32
第7図	SI2 壓穴建物跡	9	第25図	SK 土坑出土遺物（3）	33
第8図	SI2 壓穴建物跡出土遺物	11	第26図	SD 溝跡（1）	35
第9図	SI3 壓穴建物跡	11	第27図	SD 溝跡（2）・SX 性格不明遺構（1）	37
第10図	SI3 壓穴建物跡出土遺物	12	第28図	SD 溝跡（3）	38
第11図	SI4 壓穴建物跡	13	第29図	SD 溝跡出土遺物（1）	39
第12図	SI5 壓穴建物跡	15	第30図	SD 溝跡出土遺物（2）	40
第13図	SI6 壓穴建物跡	16	第31図	SX 性格不明遺構（2）	41
第14図	SB1・2 挖立柱建物跡	17	第32図	SX10 性格不明遺構出土遺物	43
第15図	SB1 挖立柱建物跡	18	第33図	Pit13 ピット出土遺物	44
第16図	SB2 挖立柱建物跡	18	第34図	SR1 自然流路跡	45
第17図	SA1 柱列跡	19	第35図	SR1 自然流路跡出土遺物	46
第18図	SA2 柱列跡	19	第36図	遺構外出土遺物	47

## 写真図版目次

写真図版1	調査区全景・壓穴建物跡群	51	写真図版9	溝跡	59
写真図版2	基本土層・壓穴建物跡	52	写真図版10	溝跡・性格不明遺構・自然流路跡	60
写真図版3	壓穴建物跡・掘立柱建物跡	53	写真図版11	壓穴建物跡・土坑出土遺物	61
写真図版4	掘立柱建物跡・柱列跡	54	写真図版12	土坑出土遺物	62
写真図版5	土坑	55	写真図版13	土坑出土遺物	63
写真図版6	土坑	56	写真図版14	溝跡出土遺物	64
写真図版7	土坑	57	写真図版15	溝跡・性格不明遺構・ピット出土遺物	65
写真図版8	土坑・溝跡	58	写真図版16	自然流路跡・V層出土遺物	66

## 第1章 調査に至る経緯と調査要項

### 1. 調査に至る経緯

南小泉遺跡第68次調査は、仙台市立遠見塚小学校のプール改築計画に伴う埋蔵文化財の事前調査である。

遠見塚小学校は、南小泉遺跡内のほぼ中央にあり、国史跡遠見塚古墳の西側に隣接している。

遠見塚小学校では耐震化を目的とした校舎等の改築工事が計画され、仙台市教育委員会学校施設課より、平成21年6月3日付、教秘施第543号で「埋蔵文化財の発掘通知の進捗について」(平成21年7月1日付、教生文第150-7号により県通知を伝達)が提出されている。この通知に基づいて、平成21年度に校舎部分、22年度に屋内運動場部分の本発掘調査が実施され(第62次調査)、古墳時代中期と平安時代の竪穴住居跡、中世以降の掘立柱建物跡などが確認されている(仙台市教委2012)。また、遠見塚小学校の南側では昭和63年度(第17次)と平成8年度(第30次)に発掘調査が実施され、古墳時代中期から後期の竪穴住居跡、中世の屋敷を区画する溝跡・掘立柱建物跡などで構成される屋敷跡が確認されている(仙台市教委1990・1998)。

今回のプール改築工事範囲についても、このような周辺の調査結果から古墳時代から中世以降にかけての遺構と遺物が確認される可能性が高いと考えられ、本発掘調査を実施した。

### 2. 調査要項

遺 蹤 名	南小泉遺跡(宮城県遺跡登録番号 01021 仙台市登録番号 C-102)
所 在 地	宮城県仙台市若林区遠見塚一丁目 22番地 1号
調 査 主 体	仙台市教育委員会
調 査 原 因	仙台市立遠見塚小学校のプール改築計画に伴う発掘調査
調査対象面積	839m <sup>2</sup>

#### 平成24年度調査体制

調査担当	仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係	主査 庄子裕美	専門員 篠原信彦
調査組織	株式会社イビゾク	主任調査員 服部英世	調査員 稲垣裕二
調査期間	平成24年9月27日～平成25年1月17日		
整理期間	平成25年1月18日～平成25年3月26日		

#### 平成25年度調査報告書作成刊行体制

調査担当	仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係	主査 主濱光朗	主査 荒井 格
		主事 庄子裕美	
調査組織	株式会社吉田建設	主任調査員 松井 智	調査員 中俣 茂
整理期間	平成25年5月15日～平成26年3月31日		

## 第2章 地理的環境と歴史的環境

### 1. 地理的環境

南小泉遺跡は仙台市の東部に位置する。若林区の南小泉・遠見塚・古城・霞ノ目の各地区を含む東西約2km、南北1kmを範囲とし、約158haに及ぶ広大な面積の遺跡である。

仙台市周辺の地形は西から東にかけて山地、丘陵地、台地、平地部分に分けられる。南小泉遺跡の所在する仙台市東部の沖積平野は、北は宮城県宮城郡七ヶ浜町から南は亘理郡山元町にかけて三日月形に広がる低地である。仙台市域では、この平野は地理的条件などから、広瀬川以北は霞ノ目低地、広瀬川と名取川の合流地点付近では川間の河地を郡山低地、名取川以南は名取低地の3つに区分されている。南小泉遺跡は、霞ノ目低地にあたる沖積平野の自然堤防上に立地し、遺跡内の標高は7~14mである。

### 2. 歴史的環境

南小泉遺跡は、縄文時代から近世までの複合遺跡である。昭和14年から行われた霞ノ目飛行場拡張工事の際に、弥生時代から古墳時代にかけて多くの遺構や遺物が発見されたことをきっかけに、広く認識されるようになった。



国土地理院 平成14年「仙台」1:50,000を一部改変

No.	遺跡名	種別	年代	No.	遺跡名	種別	年代
1	南小泉遺跡	遺跡群、祭祀場	縄文~平安	21	小堀内遺跡	祭祀場	平安~古墳
2	石垣城跡	石垣	古墳、平安~中世、近世	22	櫛山古墳	円錐形、多孔隙、須佐跡	古墳~平安
3	高坂塚古墳	前方後円墳	古墳	23	北日丸城跡	城跡	平安
4	吉田城古墳	円墳	古墳	24	内竹原遺跡	遺跡	平安~中世
5	佐倉長谷遺跡	集落跡	古代~近世	25	高野町引佐遺跡	遺跡	平安~中世
6	新井岡遺跡	集落跡、祭祀跡、汎合施設	縄文、古墳、平安~近世	26	中字木古墳	古墳	平安
7	新井古墳	円墳	古墳	27	高野町古墳	古墳	古墳
8	河内城跡	城跡	古墳	28	鶴久島跡	河川跡、水田跡、須佐跡	平安~古墳~近世
9	中字木集落跡	集落跡	古墳、平安	29	井手跡	祭祀場	古墳~平安~近世
10	中字木高塚古墳	墓	古墳、古墳、平安~近世	30	荒井寺跡	城跡	平安~中世
11	青森古墳	木田跡	衛生~平安	31	青井古墳跡	城跡	平安
12	麻糸谷分岐古墳	分岐跡	古墳、平安	32	大字月出跡	祭祀場	平安
13	麻糸谷古墳	分岐跡	古墳、平安	33	足守古墳跡	祭祀場	平安~中世
14	河内字木古墳	集落跡	平安~中世	34	御野古墳跡	祭祀場	平安
15	桑原青葉高塚古墳	墓	古墳、平安~近世	35	高崎遺跡	祭祀場	平安
16	志賀遺跡	祭祀場	古墳、平安	36	河原遺跡	祭祀場	古墳、平安~平安
17	日向城跡	城跡	古墳	37	藤田新田遺跡	祭祀場	古墳、平安
18	御津1号古墳	散布地	古墳、古代	38	三云寺古墳	祭祀場	平安
19	御津2号古墳	散布地	古墳、古代	39	荒井山遺跡	祭祀場	古墳、古墳
20	神體遺跡	古墳跡	古代	40	井手古墳跡	木田跡	衛生

第1図 周辺の遺跡

現在まで 67 次に及ぶ発掘調査が行われ、東北地方における古墳時代中期の土師器の標識遺跡となっている。

縄文時代では、第 17 次で中期後葉から後期前葉期にあたる大木 10 式～南境式の土器が出土したほか、第 19 次では晩期の遺物包含層が確認されており、大洞 A 式の縄文土器、剥片石器、礫石器などが出土している。

弥生時代では、遺構は土器棺墓が発見されたことにとどまるが、遺物は弥生時代前期～後期の壺、甕、高杯などの土器のはか、石斧、石鑿、石庖丁などの石器類が多く出土しており、東北を代表する弥生時代の遺跡となっている。南小泉遺跡の東端から約 1km 東方の中在家南遺跡で、弥生時代中期の土墳墓や土器棺墓が発見され、旧河道からは弥生時代中期から中世に至る各時期の農具や建築材などの多様な木製品が出土している。中在家南遺跡から 1.5km 東方の舟形遺跡では、弥生時代中期中葉の津波堆積物に覆われて廃絶した水田跡が検出され、両遺跡の周辺には居住域などが形成されていたと考えられている。

古墳時代には、南小泉遺跡周辺や範囲内に、遠見塚古墳や法領塚古墳、猶塚古墳などの古墳が築かれる。古墳時代前中期に造られた遠見塚古墳は全長が 110 m あり、東北地方 4 番目の規模を誇る前方後円墳で、国指定史跡にされている。

南小泉遺跡では、今回の調査区に隣接する第 62 次調査区をはじめ、数か所で古墳時代中期から後期の堅穴住居跡からなる集落跡が確認されている。

奈良時代には南小泉遺跡の北側に陸奥国分寺や国分尼寺が造営され、奈良時代末から平安時代になると、南小泉遺跡でも堅穴住居跡や掘立柱建物跡などが増加し、9 世紀を中心とする集落が營まれている。

鎌倉・室町時代では、12 世紀末には掘立柱建物と土坑群から構成される屋敷跡が、13 世紀には大溝によって 1 町四方前後の方形もしくは台形に近い平面形に区画された屋敷が成立し、一部は 14 世紀中頃に廃絶するものの、15 世紀には新たな屋敷跡が成立している。また、12 世紀末から 14 世紀の道路跡や区画溝跡も確認されており、町場が形成されている可能性が指摘されている（田中 1999）。14 世紀後半には土塁を伴う城館跡も成立する。これらの成果から、城館の周辺に方形の屋敷を構えた中世村落の景観が復元されている。また、周辺の同時期の遺跡では今泉城跡、沖野城跡、長喜城跡などの沖積地に立地している平城がある。

## 第3章 調査の方法と経過

### 1. 調査の方法

**【野外調査作業】** 計画時の調査区は南北方向に長い長方形であったが、立木の位置や敷地幅などの制約から、東西隅を調査対象から除外とした。方眼割付けは、今回の調査であらためて行った。東日本大震災により隣接する第 62 次調査区と、座標値の整合性がとりづらくなつたことなどから、新たにグリッドを設定した。

日本測地系の座標基準による 5 m 単位の方眼割付けをして、グリッド名は北から南へアルファベット（A・B・C・D…）、西から東へアラビア数字（1・2・3・4…）で表記した。これらのグリッド名を用いて検出遺構、出土遺物の位置関係を管理した。

発掘調査にあたっては、まず重機を用いて盛土と I ～ III 層を掘り下げた。IV 層は調査区東壁際で部分的にしか確認できず、遺物も出土しなかつたので、重機で掘り下げた。遺構確認面は、V 層の上面である。

検出した遺構については、調査の各段階にあわせて平面・断面などを図化した。平面の記録はトータルステーションを用いた電子平板、遺構断面の記録は実測、調査区東壁の基本土層は写真測量で行った。写真撮影は 35mm 一眼レフカメラと一眼レフデジタルカメラを使用した。全景写真は高所作業車を用いて撮影を行った。

**【整理作業】** 出土遺物は、全て通し番号を付けてラベル記入し、チャック付きボリ袋に封入、通し番号順にコンテナに収納した。

野外調査の写真は、スライドフィルムはケースに、モノクロフィルムはベタ焼きとともにアルバムに、デジタルカメラデータはリネームした上で DVD に納め、写真白帳を作成した。

遺構図は屋外調査で作成した DXF 形式の図面データを基にして、報告書図版に必要となる図面を編集した。手実測原図・平面図とも測量計算 CAD システム（ブルートレンド 福井コンピュータ株式会社）を使用して編集し、印

刷して図面ケースに収納した。

## 2. 調査の経過

現地発掘調査は平成 24 年度に、整理報告書刊行は平成 25 年度に行った。

### 平成 24 年度（現地発掘調査）

今回の調査は、遠見塚小学校のプール改築工事に先立って行ったものである。調査区は現在の屋内運動場（第 62 次調査区）の西隣りに位置する。

平成 24 年 9 月 27 日に、屋内運動場や小学校校庭と調査区を画する仮囲いを設置した後に、作業を開始した。表土の除去は、10 月 3 日から 12 日まで行った。第 62 次調査の結果を参考に、重機を使用して表土を掘り下げた。表土を除去すると、V 層を確認することができた。地表からは北側では約 1.2 m、南側では 0.7 m ほどの深さである。

遺構検出作業は 10 月 15 日から開始した。遺構確認面は V 層上面で、搅乱の掘り上げも同時に行った。

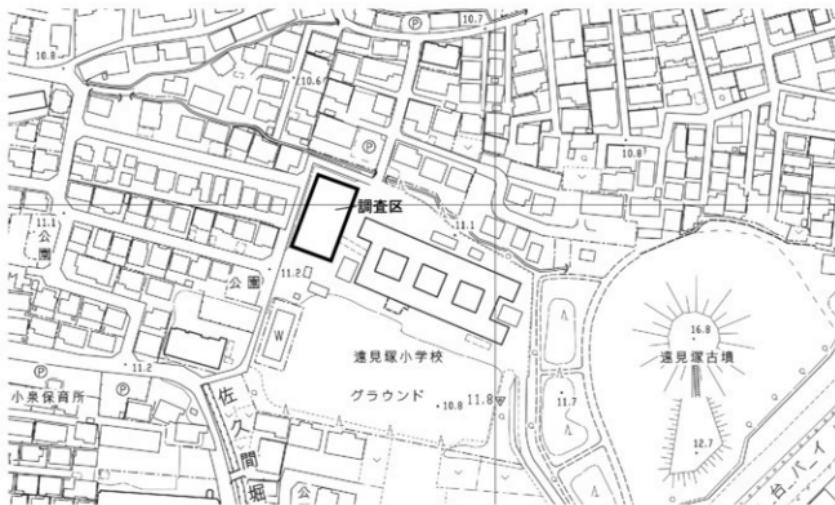
遺構の調査は 10 月 22 日から開始した。調査区中央部に位置する重複した土坑や竪穴建物跡群を中心に精査を進め、同時に周辺の遺構も並行して調査を行った。

調査区全景の写真撮影は、12 月 12 日に行なった。竪穴建物跡群が重複している状況を記録するため、SX10 性格不明遺構を掘り下げる前に行なった。撮影の後、竪穴建物跡群より古い SX10 性格不明遺構や SD12 溝跡などの調査区北側の溝跡や流路跡を調査した。

撤収は、平成 25 年 1 月 7 日から行い、11 日に埋戻し、17 日にフェンス撤去を終え、現地作業を終了した。

### 平成 25 年度（整理報告書作成刊行）

平成 25 年 5 月 20 日から出土遺物の水洗作業に着手した。水洗が終了した後、注記マシンを使用して注記した。注記の終了した遺物から接合作業に着手した。接合が終了した後、登録遺物を選定し、復元・補強を行なった。報告書に掲載する遺物を抽出し、遺物の実測を行い、作図・点検を終えたものからトレース・拓本・写真撮影に進んだ。遺物整理と並行して遺構の図面合わせ・点検・編集を行い、遺構個別図を作成した後、遺物図と併せてレイアウトし、原稿執筆・編集を行なった。

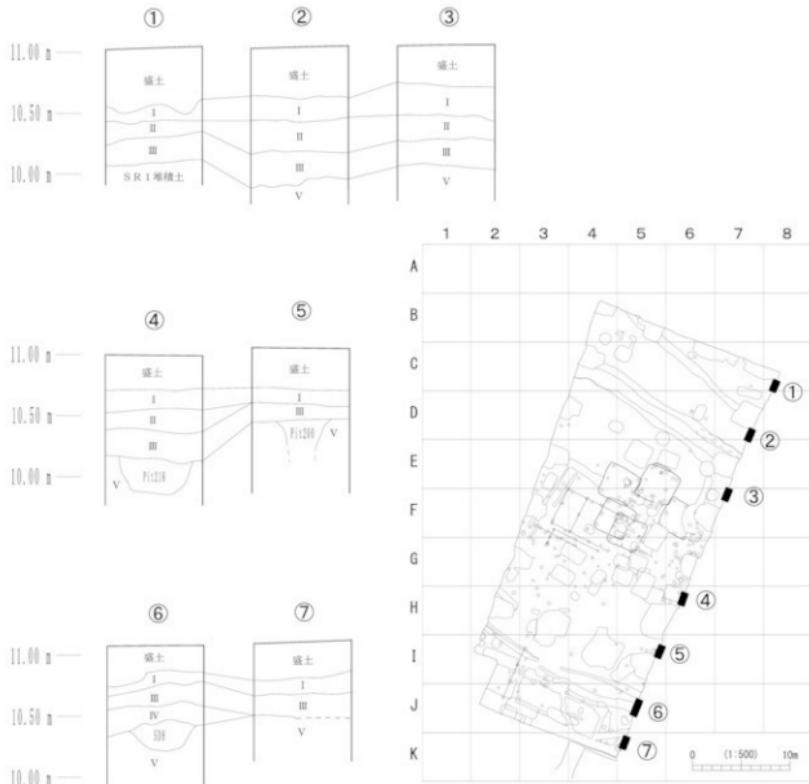


第 2 図 調査区位置図

## 第4章 基本層序

基本層序は、第62次調査の結果をもとに把握した。断面観察の結果、盛土とI～V層を確認できたが、IV層は調査区東壁際の南側に部分的に残存するのみである。

盛土は小学校建設時と考えられる造成地である。I層は、厚さ約20～30cmの灰色シルト質粘土で、水田の耕作土である。II層は、厚さ約15～25cmの灰黄褐色シルトである。2cmほどの明黄褐色ブロック土を多量に含み、搅拌されている。畑の耕作土と考えられる。III層は、厚さ約30cmのにぶい黄褐色細砂である。畑の耕作土と考えられる。V層上面に溝状の耕作痕（耕作溝）が残っていた。IV層は、厚さ約20cmの灰黄褐色土である。断面観察の結果からは、上面から掘り込む遺構は確認できなかった。第62次調査におけるIVa～IVd層のいずれかに対応すると考えられる。V層は、明黄褐色シルトである。V層上面で遺構を検出した。V層上面が検出された標高より、南にいくにつれて地形が高くなっていることが考えられる。



第3図 柱状模式図・グリッド配置図



第4図 遺構全体図

## 第5章 検出遺構と出土遺物

### 1. 壇穴建物跡

今回の調査では壇穴建物跡は6基検出した。F5 グリッドを中心として東西・南北ともに約10mの範囲でそれぞれ重複して確認された。平面形は隅丸方形で、規模は3.28～3.75m、深さはSI1の約20cmのほかは40～50cmである。長軸方向は、SI1を除き、北から27°～30°東偏しており、SI1の短軸方向が24°東偏であることから、ほぼ同軸方向を向いていると考えられる。SI1を除く5基は周溝を作っている。SI3・4には、床面の部分的な範囲に炭化物が堆積し、焼けている箇所も確認されている。またSI1・3・4には溝を作った土坑状の張出し部が付随する。SI2は張出し部は検出されていないが、張出し部に伴うと考えられる溝跡が確認された。張出し部の方向は、SI4は西壁側に、SI1～3は南壁側にある。

#### SI1 壇穴建物跡（第5・6図）

【位置・確認】調査区のF・G4・5グリッドに位置する。

【重複】重複するSI2より新しく、Pit180・187・213・268やSK14・15より古い。

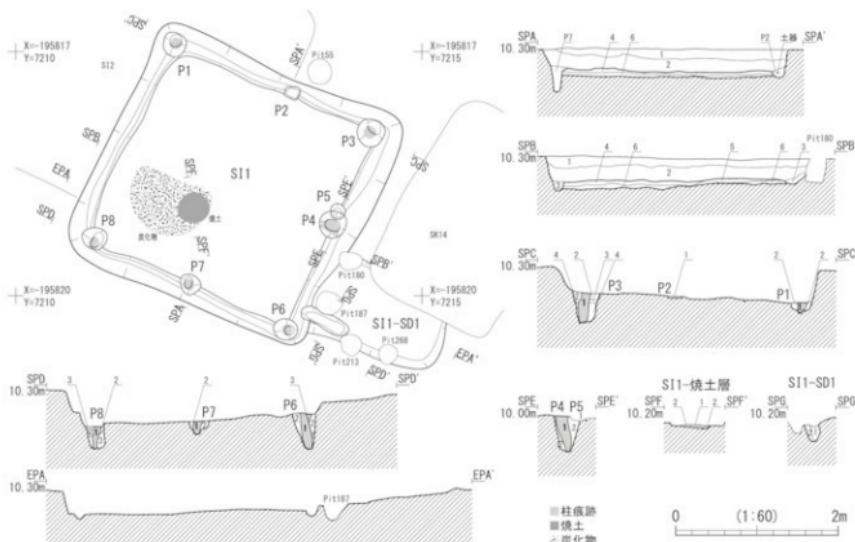
【規模・形態】平面形は隅丸方形で、東辺に張出し部（旧SK34）を確認した。方形部分の規模は、3.28×3.02m、深さは0.42mである。

【長軸方向】N-66°-Wである。

【堆積土】6層に分層した。3層は周溝堆積土、4・5層は貼床、6層は掘り方理土である。1～3層は、基本層V層起源の黄褐色ブロック土を含む人為堆積である。

【壁面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁高は30～42cmである。

【床面】4・5層上面を床面としている。床面は平坦である。床面の南西部では炭化物と焼土を検出した。炭化物の範囲は1.0×0.69mの不整形形で、厚さは約3cmである。焼土は炭化物の下や周囲で部分的に確認できたが、焼け結まつておらず、弱い被熱の痕跡と考えられる。



第5図 SI1 壇穴建物跡

SI1 壁穴建物跡 堆積土貯記表

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
壁穴建物施設上	1	HYRS-2 黄褐色	シルト	黄褐色土ブロック (3mm 程度) を含む。炭化物 (10mm 程度) を少量含む。(柱根跡)
	2	HYRS-2 黄褐色	シルト	にじみ、黄褐色土ブロック (3mm 程度) を多量含む。炭化物 (3mm 程度) を少量含む。
	3	HYR4-2 黄褐色	シルト	にじみ、黄褐色土ブロック (10mm 程度) を含む。炭化物 (10mm 程度) を少量含む。(柱頭)
	4	HYRS-2 黄褐色	シルト	にじみ、黄褐色土ブロック (10mm 程度) を含む。炭化物 (10mm 程度) を少量含む。(柱頭)
	5	HYRS-2 黄褐色	シルト	にじみ、黄褐色土ブロック (3mm 程度) を多量含む。他の層にへり跡を残している。(柱底)
	6	HYRS-1 黄褐色	シルト	明黄色土ブロック (3mm 程度) を多量含む。炭化物 (5mm 程度) を少量含む。(振り方陣上)

SI1 壁穴建物跡 施設堆積土貯記表

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
P1	1	HYRS-2 黄褐色	シルト	黄褐色土ブロック (10mm 程度) と炭化物 (10mm 程度) を少量含む。(柱根跡)
	2	HYRS-2 黄褐色	シルト	黄褐色土ブロック (3mm 程度) を含む。炭化物 (5mm 程度) を少量含む。(振り方陣上)
P2	1	HYR4-1 黄褐色	シルト	明黄色土ブロック (3mm 程度) を含む。炭化物 (3mm 程度) を少量含む。
	2	HYR4-1 黄褐色	シルト	にじみ、大きめ 10mm 程度のにじみ、黄褐色土ブロックを含む。(柱根跡)
P3	1	HYR4-1 黄褐色	シルト	明黄色土ブロック (3mm 程度) を含む。
	2	HYR4-1 黄褐色	シルト	にじみ、黄褐色土ブロック (3mm 程度) を含む。(柱根跡)
P4	1	HYR4-1 黄褐色	シルト	明黄色土ブロック (3mm 程度) を含む。
	2	HYR4-1 黄褐色	シルト	にじみ、黄褐色土ブロック (3mm 程度) と炭化物を少量含む。(柱根跡)
P5	1	HYR4-1 黄褐色	シルト	明黄色土ブロック (3mm 程度) を含む。
	2	HYR4-1 黄褐色	シルト	明黄色土ブロック (3mm 程度) を含む。(柱根跡)
P6	1	HYR4-1 黄褐色	シルト	明黄色土ブロック (3mm 程度) を少量含む。(柱根跡)
	2	HYR4-1 黄褐色	シルト	明黄色土ブロック (20mm 程度) と黄褐色土ブロック (20mm 程度) を含む。(振り方陣上)
P7	1	HYR4-1 黄褐色	シルト	(振り方陣上)
	2	HYR4-1 黄褐色	シルト	明黄色土ブロック (3mm 程度) を少量含む。炭化物 (5mm 程度) を少量含む。(柱根跡)
P8	1	HYR4-2 黄褐色	シルト	炭化物 (5mm 程度) を少量含む。(柱根跡)
	2	HYR4-2 黄褐色	シルト	明黄色土ブロック (20mm 程度) を少量含む。(振り方陣上)
	3	HYRS-2 黄褐色	シルト	明黄色土ブロック (20mm 程度) を少量含む。(振り方陣上)

SI1 壁穴建物跡 施設観察表(1)

遺構名	平面形	規模 (cm)	深さ (cm)	備 考
P1	円形	18 × 18	15	
P2	圓丸方形	38 × 34	4	
P3	円形	38 × 34	44	
P4	円形	33 × 32	65	15 より古い。
P5	円形	20 × 19	5	P4 より新しい。
P6	扇円形	30 × 26	43	
P7	円形	27 × 27	18	
P8	不規則円形	31 × 27	27	

SI1 壁穴建物跡 施設観察表(2)

遺構名	アグリッド	方向	規模 (cm)			層位	土 色	土性	備 考	重 観
			全長	上端幅	下端幅					
SI1-SDI	G5	N40°-W	63	15 ~ 20	10 ~ 14	30	1	HYRS-1 黄褐色	シルト	にじみ、黄褐色土ブロック (10mm 程度) を多量含む。炭化物 (5mm 程度) を少量含む。
							2	HYR6-4 にじみ、黄褐色	シルト	明黄色土ブロック (20mm 程度) を含む。炭化物 (5mm 程度) を少量含む。

SI1 壁穴建物跡 燃土層

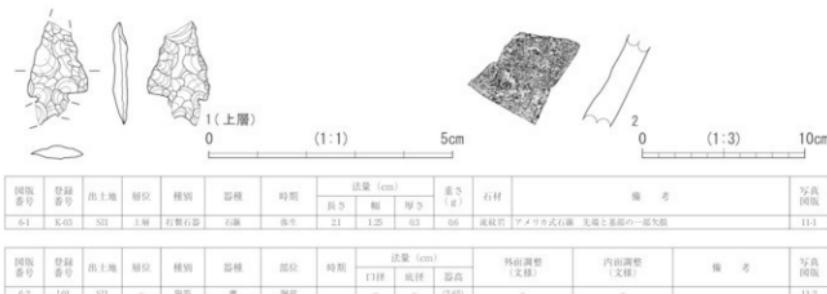
層 位	土 色	土 性	備 考
1	TSYR1-2 黄褐色	シルト	塊けしまして焼成している。
2	TSYR5-2 黄褐色	シルト	褐色土ブロック (10mm 程度) を少量含む。

【柱穴】床面で 8 基の柱穴を検出した。全て壁穴建物跡の壁際で確認された。規模は直径 18 ~ 38cm、深さは 4 ~ 45cm である。平面形は円形、橢円形、圓丸方形、不整橢円形である。このうち P1・3・4・6 ~ 8 は柱痕跡 (径 14 ~ 24cm) を確認した。

【周溝】周溝は全盤で確認した。幅は 12 ~ 15cm、深さは 6 ~ 12cm である。

【その他の施設】張出し部の規模は 1.7 × 1.04 m で、接続部分に向かって緩やかに傾斜している。張出し部の底面には、断面形が U 字形の溝跡 SII - SDI が付随する。溝跡 SII - SDI は、長さ 0.63 m、上端幅 0.15 ~ 0.2 m、下端幅 0.1 ~ 0.14 m、断面形は U 字形で、深さは 0.2 m である。堆積土は 2 層である。

【出土遺物】遺物は土師器片などが出土した。堆積土からの出土が大半で、床面直上から遺物は出土しなかった。そのほか石器（第 6 図-1）、陶器（第 6 図-2）が出土している。石器は、アメリカ式石器で、先端と基部の一部を欠損している。石材は流紋岩である。陶器は壺の胴部である。



第6図 SI1 竪穴建物跡出土遺物

## SI2 竪穴建物跡（第7・8図）

【位置・確認】F4・5 グリッドに位置する。

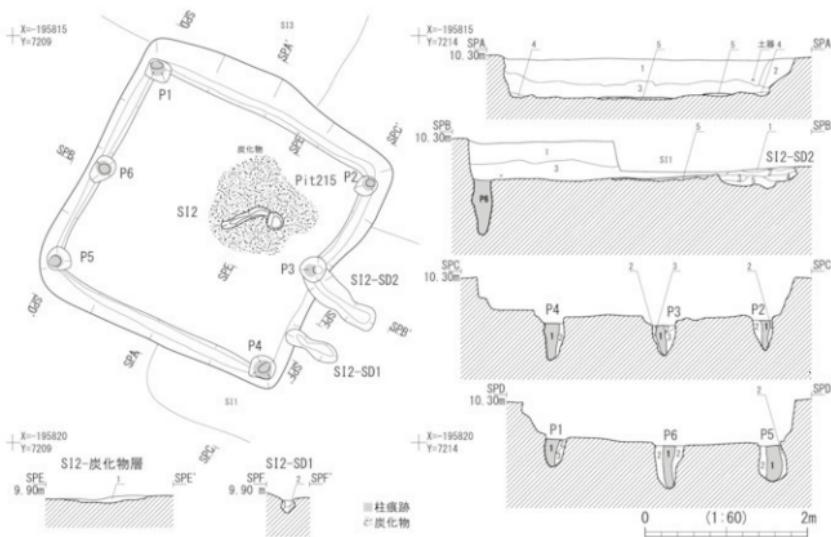
【重複】重複する SI3 より新しく、SI1 より古い。

【規模・形態】平面形は隅丸方形だが、北辺の中央部がやや外側に膨らむ。方形部分の規模は 3.6 × 3.25 m、深さは 0.5 m である。

【長軸方向】N = 27° - E である。

【堆積土】5 層に分層した。4 層は周溝堆積土、5 層は貼床である。1 ~ 3 層は、基本層 V 層起源の黄褐色ブロック土を含む人為堆積である。

【壁面】北壁以外は床面からほぼ垂直に立ち上がる。北壁は床面から垂直に立ち上がり、途中で傾斜する。壁高は 39 ~ 51cm である。



第7図 SI2 竪穴建物跡

## SI2 壓穴建物跡 堆積土貯蔵表

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
壓穴建物跡上	1	HTYRS-3にない黄褐色	シルト	明黄色地土ブロック（10mm程度）、炭化物（10mm程度）を含む。
	2	HTYRS-2 黄褐色	シルト	明黄色地土ブロック（30mm程度）を多量、範地色土ブロック（30mm程度）を少量含む。
	3	HTYRS-3にない黄褐色	シルト	明黄色地土ブロック（30mm程度）を含む、炭化物（10mm程度）を含む。
	4	HTYRS-2 黄褐色	シルト	明黄色地土ブロック（30mm程度）を含む、炭化物を含む。（同様）
	5	HTYRS-1 黄褐色	シルト	こぶしも以下のにない黄褐色土を多量に含む。硬くしまっている。（堅床）

## SI2 壓穴建物跡 施設堆積土貯蔵表

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
SI2 建物跡	1	HTYRS-3にない黄褐色	シルト	HTYRS-1 船底色シルトが混在する。礁土ブロック（30mm程度）を少量含む。
	1	HTYRS-2 黄褐色	シルト	こじら・深根土ブロック（10mm程度）を含む。炭化物（5mm程度）を少量含む。（舟底跡）
	2	HTYRS-2 黄褐色	シルト	こじら・深根土ブロック（30mm程度）を含む。（刷り方跡）
	3	HTYRS-3にない黄褐色	シルト	明黄色地土ブロック（30mm程度）を少量含む。
P1	1	HTYRS-1 黄褐色	シルト	明黄色地土ブロック（30mm程度）を含む。炭化物（5mm程度）を少量含む。
	2	HTYRS-2 黄褐色	シルト	こじら・深根土ブロック（30mm程度）を含む。（刷り方跡）
P2	1	HTYRS-1 黄褐色	シルト	明黄色地土ブロック（30mm程度）を含む。炭化物（5mm程度）を少量含む。（舟底跡）
	2	HTYRS-1 黄褐色	シルト	明黄色地土ブロック（30mm程度）を多量含む。炭化物（5mm程度）を少量含む。（よりほりあり跡）（刷り方跡）
P3	1	HTYRS-2 黄褐色	シルト	明黄色地土ブロック（30mm程度）を含む。炭化物（5mm程度）を少量含む。（舟底跡）
	2	HTYRS-2 黄褐色	シルト	明黄色地土ブロック（30mm程度）を含む。（刷り方跡）
P4	1	HTYRS-2 黄褐色	シルト	明黄色地土ブロック（30mm程度）を含む。（舟底跡）
	2	HTYRS-2 黄褐色	シルト	こじら・深根土ブロック（10mm程度）を含む。（舟底跡か？）
P5	1	HTYRS-2 黄褐色	シルト	こじら・深根土ブロック（10mm程度）を含む。炭化物（5mm程度）を少量含む。（刷り方跡）
	2	HTYRS-1 黄褐色	シルト	こじら・深根土ブロック（10mm程度）を含む。（舟底跡）
P6	1	HTYRS-2 黄褐色	シルト	こじら・深根土ブロック（10mm程度）を多量、炭化物（5mm程度）を少量含む。（刷り方跡）
	2	HTYRS-2 黄褐色	シルト	こじら・深根土ブロック（10mm程度）を少量含む。（刷り方跡）

## SI2 壓穴建物跡 施設観察表(1)

道構名	平面形	規模 (cm)	深さ (cm)	備 考
P1	丸大方形	30 × 27	34	
P2	不整円形	29 × 23	47	
P3	不整円形	33 × 32	59	SI2-S2D2 より新しい。
P4	不整円形	31 × 27	49	
P5	不整円形	31 × 26	69	
P6	不整円形	37 × 26	71	

## SI2 壓穴建物跡 施設観察表(2)

道構名	グリッド	方向	規模 (cm)	層位	土 色	土性	備 考	重 級
			全長					
SI2-S2D2	F5	N43° - W	70	14 ~ 24	5 ~ 10	16	1 HTYR1-1 船底色	シルト 明黄色地土ブロック土（10mm程度）を含む。炭化物（5mm程度）を少量含む。
				2	2 HTYR1-2 船底色	シルト にない黄褐色土ブロック土（10mm程度）を含む。		
				25	1 HTYR7.4 (2) 5.0m (基盤)	シルト 明黄色地土ブロック土（20mm程度）上との混土壤。炭化物（5mm程度）を少量含む。	SI2に伴う。 SI2-S2D2 より新しい。	SI2-S2D2 に伴う。
					2 HTYR5-2 黄褐色	シルト にない黄褐色土ブロック（10mm程度）を少量含む。		
					3 HTYR5-2 黄褐色	シルト にない黄褐色土ブロック（10mm程度）を少量含む。		
					4 HTYR5-2 黄褐色	シルト にない黄褐色土ブロック（10mm程度）を少量含む。		
					5 HTYR5-2 黄褐色	シルト にない黄褐色土ブロック（20mm程度）を多量に含む。		

## SI2 壓穴建物跡 施設観察表(3)

道構名	グリッド	平面形	規模 (cm)	深さ (cm)	層位	土 色	土 性	備 考	重 級
Pit215	F5	小形円形	23 × 21	21	1	HTYR5-2 黄褐色	シルト	内側に炭化物が見られる。 炭化物を削除し、表面を露出。	SI2-S2D2 に伴う。
					2	HTYR5-2 黄褐色	シルト		

【床面】基本層V層及び5層上面を床面としている。床面はほぼ平坦である。床面は、SX10堆積土範囲外にあたる地山面が硬化しており、建物使用時に硬化したと推測される。北東部では炭化物を検出した。

【柱穴】床面で6基の柱穴を検出した。全て堅穴建物跡の壁際で確認された。規模は径29~37cm、深さは47~71cmである。平面形は隣丸方形・不整円形・不整梢円形である。全ての柱穴で柱痕跡（径15~23cm）を確認した。

【周溝】周溝は北壁、南壁、西壁、東壁の北側で確認した。幅は12~18cm、深さは5cmである。

【その他の施設】東壁の南側でSI2-SI1とSI2-S2を検出した。これらの溝跡は、他の堅穴建物跡で確認された張出し部に伴う溝跡と考えられる。SI2-SI1は長さ0.7m、上端幅0.14~0.24m、下端幅0.05~0.1m、深さ0.18mである。堆積土は2層である。SI2-S2は長さ0.87m、上端幅0.25~0.35m、下端幅0.05~0.15m、深さは0.25mである。堆積土は5層である。Pit215は、平面形は不整円形で、規模が0.23×0.21mで、断面形はU字形で、深さ0.18mである。堆積層は2層である。中央部では炭化物集中範囲を確認した。範囲の形状は1.1×1.4mの不整円形で深さは8cmである。

【出土遺物】遺物は1・3層から土師器片が出土した。床面上から遺物は出土しなかった。そのほか土製品（第8図-1）と陶器（第8図-2）が出土している。土製品は土玉である。中心に直径5mm程度の孔が穿たれる。陶器は壺の胴部である。

図版番号	登録番号	出土地	層位	種別	器種	部位	時期	法量(cm)			外面調整	備考	写真図版
								直径	全長	孔径			
8-1	P-01	S22	-	土製品	土玉	-		3.05	265	0.45-0.57	ユビサニ	192g	11-3
8-2	140	S22	-	陶器	壺	側部		-	-	(3.8)	-	-	11-4

第8図 SI2 竪穴建物跡出土遺物

## SI3 竪穴建物跡（第9・10図）

【位置・確認】E・F4・5 グリッドに位置する。

【重複】重複する SI4 より新しく、SI2 より古い。

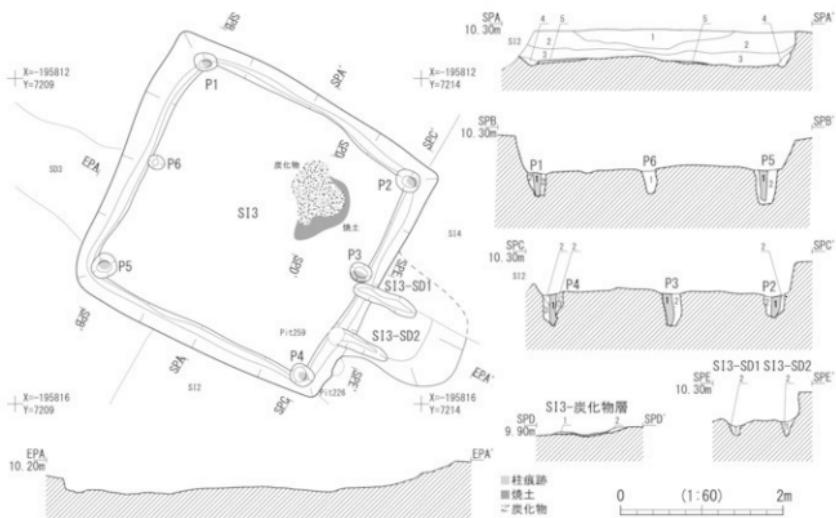
【規模・形態】平面形は隅丸方形で、東側に張出し部（III SK58）が付随していたと考えられる。方形部分の規模は 3.75 × 3.47 m、深さは 0.43 m である。

【長軸方向】N - 29° - E である。

【堆積土】5 層に分層した。4 層は周溝堆積土、5 層が貼床である。1 ~ 3 層は、基本層 V 層起源の黄褐色ブロック土を含む人為堆積である。

【壁面】壁は床面からほぼ垂直に立ち上がる。壁高は 37 ~ 44cm である。

【床面】基本層 V 層及び 5 層上面が床面である。床面は中央部が若干盛り上がるが、ほぼ平坦である。北東部では炭化物と焼土を検出した。炭化物の範囲は 0.8 × 0.65 m の不整形で、厚さは 3cm である。焼土は厚さ 3cm で、面的に



第9図 SI3 竪穴建物跡

## SI3 壓穴建物跡 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
壓穴建物跡上	1	HYRS-2 黒・黄褐色	シルト	明眞褐色土ブロック (30mm 程度) を多量に含む。炭化物 (5mm 程度) を含む。
	2	HYRS-2 黄褐色	シルト	明眞褐色土ブロック (30mm 程度) を含む。炭化物 (5mm 程度) を含む。
	3	HYR4-2 黄褐色	シルト	明眞褐色土ブロック (10mm 程度) を含む。炭化物 (5mm 程度) を少量含む。
	4	HYRS-2 黄褐色	シルト	明眞褐色土ブロック (10mm 程度) を少量含む。(同調)
	5	HYRS-1 黄褐色	シルト	こぶし大以下のに細い黃褐色土ブロックを含む。(鉛鉱)
	6	HYRS-1 黄褐色	シルト	こぶし大以下のに細い黃褐色土ブロックを含む。(鉛鉱)

## SI3 壓穴建物跡 施設堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
SDX 化物跡	1	HYR2-1 黒色	シルト	炭化物 (幅 5mm 程度) の少額のものが見られた。幅の広い木棒のようなもののが確認された。
	2	25YR4-6 小黄褐色	壤土	しまわりり、地け縫までではない。(地山 10cm) 1/4 に細い黄褐色砂質土が被敷
P1	1	HYRS-2 黄褐色	シルト	こぶし大程度土ブロック (5mm 程度) を少量含む。(柱軸跡)
	2	HYRS-2 黄褐色	シルト	5mm 程度の細い黄褐色土ブロック、細いリヨン土含む。炭化物 (5mm 程度) を微量含む。
P2	1	HYRS-2 黄褐色	シルト	明眞褐色土ブロック (5mm 程度) を含む。炭化物 (5mm 程度) を微量含む。(柱軸跡)
	2	HYR6-2 黄褐色	シルト	明眞褐色土ブロック (5mm 程度) を含む。炭化物 (5mm 程度) を微量含む。
P3	1	HYR4-1 黄褐色	シルト	明眞褐色土ブロック (5mm 程度) を含む。炭化物 (5mm 程度) を微量含む。(柱軸跡)
	2	HYR4-1 黄褐色	シルト	明眞褐色土ブロック (5mm 程度) を含む。炭化物 (5mm 程度) を微量含む。
P4	1	HYR4-1 黄褐色	シルト	こぶし大程度土ブロック (5mm 程度) を含む。炭化物 (5mm 程度) を微量含む。(柱軸跡)
	2	HYR8-1 黄褐色	シルト	こぶし大程度土ブロック (5mm 程度) を含む。炭化物 (5mm 程度) を微量含む。
P5	1	HYR7-4 こぶし大黄色	シルト	細粒白土ブロック (10mm 程度) を含む。
	2	HYRS-2 黄褐色	シルト	細粒白土ブロック (10mm 程度) を少量。灰黃褐色土ブロックを含む。
P6	1	HYRS-2 黄褐色	シルト	こぶし大程度土ブロック (5mm 程度) を含む。

## SI3 壓穴建物跡 施設觀察表 (1)

遺構名	平面形	規模 (cm)	深さ (cm)	備考
P1	楕円形	29 × 23	29	
P2	楕円形	31 × 26	28	
P3	楕円形	28 × 23	40	
P4	不規則形	30 × 25	41	
P5	不規則形	32 × 28	42	
P6	楕円形	21 × 17	29	

## SI3 壓穴建物跡 施設觀察表 (2)

遺構名	グリッド	方向	規模 (cm)	層位	土色	土性	備考	重複
			全長					
SD-SDR	P5	N47°-W	78	18 ~ 21	5 ~ 9	13	1 HYRS-2 黑・黄褐色 2 HYR7-4 こぶし大・黄褐色	シルト シルト
			28				明眞褐色土ブロック (10mm 程度) を少量。炭化物 (5mm 程度) を微量含む。NSD に伴う。	
SD-SDE	P5	N46°-W	(60)	16 ~ 21	5 ~ 9	23	1 HYRS-2 黄褐色 2 HYR7-4 こぶし大・黄褐色	シルト シルト
			35				明眞褐色土ブロック (10mm 程度) を少量。炭化物 (5mm 程度) を微量含む。NSD に伴う。	

広がっている様子が確認できた。

【柱穴】床面で 6 基の柱穴を検出した。全て堅穴建物跡の壁際で確認された。規模は径 21 ~ 32cm、深さは 29 ~ 42cm である。平面形は楕円形、不整楕円形である。このうち、P1 ~ 5 で柱痕跡 (径 13 ~ 22cm) を確認した。

【周溝】周溝は全壁で確認した。幅は 7 ~ 15cm、深さは 4 ~ 6cm である。

【その他の施設】張出し部の規模は L32 × 0.86 m で、北西に向かってなだらかに傾斜している。張出し部の底面で溝跡 SI3 - SD1・2 と柱穴 Pit259 を検出した。溝跡 SI3 - SD1 は長さ 78cm、上端幅 18 ~ 21cm、下端幅 5 ~ 9cm である。断面形は V 字形で、深さは 13cm である。堆積土は 2 層である。溝跡 SI3 - SD2 は長さ (60) cm、上端幅 16 ~ 21cm、下端幅 5 ~ 9cm である。断面形は V 字形で、深さ 23cm である。堆積土は 2 層である。

【出土遺物】遺物は土師器片が出土した。床面直上から遺物は出土しなかった。張出し部から土師器の壺の底部 (第 10 図-1) が出土した。外面はヘラケズリ、内面はヘラミガキ調整され、黒色処理が施される。



回収番号	登録番号	出土堆	層位	種別	器種	部位	時期	法量 (cm)	外山調整 (文様)	内山調整 (文様)	備考	写真回数	
回収番号	登録番号	出土堆	層位	種別	器種	部位	時期	口径	底径	器高			
104	C-08	SD1	-	土師器	壺	底	-	-	32	(15)	ヘラミガキ	内面黑色処理	115

第 10 図 SI3 壓穴建物跡出土遺物

## SI4 竪穴建物跡（第11図）

【位置・確認】E・F5・6グリッドに位置する。

【重複】重複するSI5・6、SK59・60より新しく、SI3より古い。

【規模・形態】平面形は隅丸方形で、南側に張出し部が付随していたと考えられる。方形部分の規模は $3.74 \times 3.63\text{ m}$ 、深さは $0.42\text{ m}$ である。

【長軸方向】N -  $28^\circ$  - Eである。

【堆積土】6層に分層した。6層は周溝堆積土である。1～5層は、基本層V層起源の黄褐色ブロック土を含む人為堆積である。

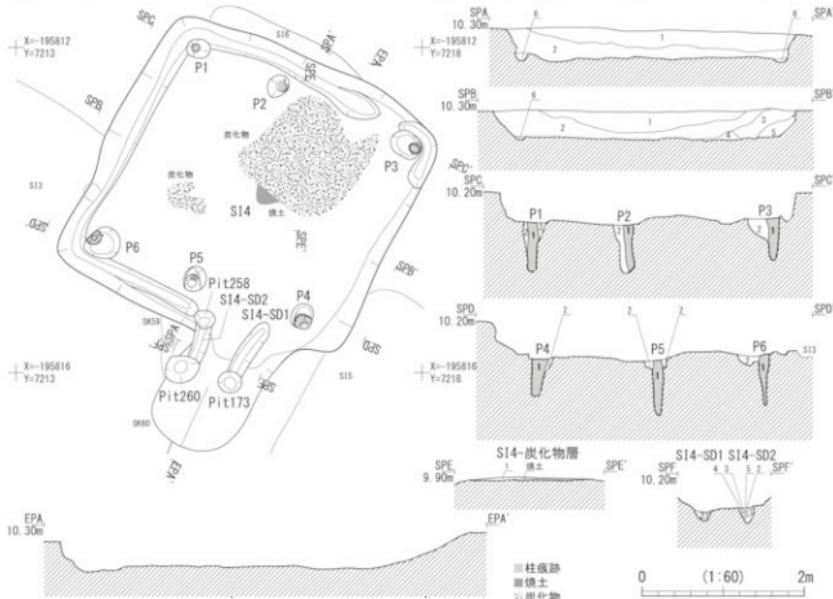
【壁面】壁は床面から傾斜して立ち上がる。壁高は $30\sim 33\text{ cm}$ である。

【床面】基本層V層上面が床面である。床面はほぼ平坦である。北東部で炭化物範囲と焼土を検出した。炭化物の範囲は直径 $1.26\text{ m}$ の不整形で、厚さ $2\text{ cm}$ である。焼土は厚さ $2\text{ cm}$ で、炭化物の南西部下で面的に広がっている様子が確認できた。

【柱穴】床面で6基の柱穴を検出した。全て竪穴建物跡の壁際で確認された。規模は径 $29\sim 46\text{ cm}$ 、深さは $48\sim 70\text{ cm}$ である。平面形は梢円形・不整梢円形である。全ての柱穴で柱痕跡（径 $10\sim 22\text{ cm}$ ）を確認した。

【周溝】周溝は北壁、南壁の西側、西壁、東壁の北端で確認した。幅は $15\sim 16\text{ cm}$ 、深さは $5\sim 9\text{ cm}$ である。

【その他の施設】張出し部の規模は $1.5 \times 1.12\text{ m}^2$ で、接続部分に向かって傾斜している。張出し部の底面で、溝跡SI4 - SD1・2と、柱穴Pit173・260を検出した。また、SI4 - SD2北端で柱穴Pit258を検出した。溝跡SI4 - SD1は長さ $(73)\text{ cm}$ 、上端幅 $19\sim 22\text{ cm}$ 、下端幅 $7\sim 8\text{ cm}$ 、断面形はU字形で、深さは $11\text{ cm}$ である。堆積土は2層である。溝跡SI4 - SD2は長さ $(49)\text{ cm}$ 、上端幅 $17\sim 20\text{ cm}$ 、下端幅 $7\sim 8\text{ cm}$ 、断面形はV字形で、深さ $21\text{ cm}$ である。堆積土は5層である。Pit173は、平面形は梢円形で、規模が $29 \times 26\text{ cm}$ 、深さ $45\text{ cm}$ である。Pit258は、平面形は不整梢円形で、規模が $43 \times 35\text{ cm}$ 、深さ $44\text{ cm}$ である。Pit260は、平面形は不整梢円形で、規模が $43 \times 35\text{ cm}$ 、深さ $44\text{ cm}$ である。



第11図 SI4 竪穴建物跡

## SI4 壁穴建物跡 堆積土貯蔵表

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
壁穴建物施設上	1	HYRS-2 黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（20mm 程度）を含む。炭化物（3mm 程度）を少量含む。
	2	HYRS-2 黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（20mm 程度）を多量に含む。炭化物（5mm 程度）を微量含む。
	3	HYRS-2 黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（20mm 程度）を多量に。炭化物（3mm 程度）を含む。
	4	HYRS-2 黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（20mm 程度）を少量含む。炭化物（3mm 程度）を少量含む。
	5	HYRS-2 黄褐色	シルト	12.5H-1 黄褐色土ブロック（20mm 程度）を多量に含む。炭化物（5mm 程度）を少量含む。
	6	HYRS-2 黄褐色	シルト	12.5H-1 黄褐色土ブロック（30mm 程度）を含む。（調査）

## SI4 壁穴建物跡 施設堆積土貯蔵表

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
SI4 実物施設	1	HYRS-1 黑褐色	シルト	23.5H-2 黄褐色ブロック（10mm 程度）をわずかに含む。しまりあり。崩れずかに含む。
	1	HYRS-2 黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（5mm 程度）を含む。炭化物（5mm 程度）を少量含む。（柱軸跡）
P1	1	HYRS-3-1 黄褐色	砂質シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を含む。（崩れ方陣）
	2	HYRS-3-2 黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を含む。（崩れ方陣）
P2	1	HYRS-2 黄褐色	シルト	12.5H-1 黄褐色土ブロック（10mm 程度）を含む。（柱軸跡）
	2	HYRS-2 黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を多量。炭化物（3mm 程度）を微量含む。（崩れ方陣）
P3	1	HYRS-2 黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を含む。全量崩壊。（柱軸跡）
	2	HYRS-3-1 黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を多量に含む。（崩れ方陣）
P4	1	HYRS-1 黑褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を多量。炭化物（3mm 程度）を微量含む。（柱軸跡）
	2	HYRS-2 黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を多量。炭化物（3mm 程度）を少量含む。（崩れ方陣）
P5	1	HYRS-2 黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を多量。炭化物（3mm 程度）を少量含む。（柱軸跡）
	2	HYRS-2 黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を多量。炭化物（3mm 程度）を少量含む。（柱軸跡）
P6	1	HYRS-1 黑褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。（柱軸跡）
	2	HYRS-2 黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を多量に含む。炭化物（3mm 程度）を微量含む。（崩れ方陣）

## SI4 壁穴建物跡 施設観察表(1)

遺構名	平面形	規模 (cm)	深さ (cm)	備 考
P1	扇円形	29 × 23	64	
P2	扇円形	31 × 24	60	
P3	扇円形	39 × 31	60	
P4	扇円形	31 × 26	68	
P5	扇円形	32 × 27	70	
P6	不規則円形	46 × 39	66	

## SI4 壁穴建物跡 施設観察表(2)

遺構名	グリッド	方向	規格 (cm)	層位		土 色	土 性	備 考	重 観	
				全長	上端幅	下端幅	深さ			
SI4-S2B	P5	N34°-E	(7D) 19 ~ 22	7 ~ 8	11	1	HYRS-1 黑褐色	シルト	ブロック（20mm 程度）を含む。	SI4 に作り、P173 より古い。 P268 より新しく。
						2	HYRS-1-2 黄褐色	シルト	ブロック（20mm 程度）を含む。	
SI4-S2D	P5	N47°-E	(4B) 17 ~ 20	7 ~ 8	21	1	HYRS-2 黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。	SI4 に作り、P173 より古く。 P268 より新しく。
						2	明黄褐色	シルト	明黄褐色土（5mm 程度）を少量含む。	
						3	HYRS-2-2 黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。	
						4	HYRS-2 黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。	
						5	HYRS-3-1 黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。	

である。P173・258・260 に柱痕跡はなかった。

【出土遺物】遺物は土師器片が出土した。床面から遺物は出土しなかった。

## SI5 壁穴建物跡 (第12図)

【位置・確認】F5・6、G6 グリッドに位置する。

【重複】重複する SI4 や SK14、SX4 より古い。

【規模・形態】平面形は隅丸形と考えられるが、北東側は攪乱に削平されている。方形部分の規模は、3.38 × (3.35) m、深さは 0.2 m である。

【長軸方向】N - 30° - E である。

【堆積土】堆積土は 1 層である。

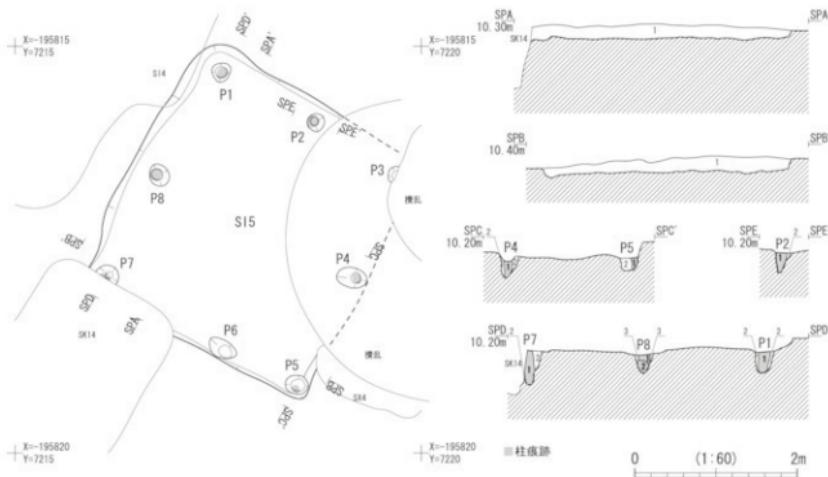
【壁面】壁は床面からほぼ垂直に立ち上がる。壁高は 9 ~ 12cm である。

【床面】基本層 V 層上面を床面としている。中央部はほぼ平坦であるが、壁面に向かって凹凸がある。

【柱穴】床面で 8 基の柱穴を検出した。全て壁穴建物跡の壁際で確認された。規模は径 21 ~ 38cm、深さは 18 ~ 59cm である。平面形は円形、椭円形、長楕円形・不整円形である。このうち P1・2・4・5・7・8 で柱痕跡（径 11 ~ 16cm）を確認した。

【固溝】検出されなかった。

【出土遺物】遺物は土師器片が出土した。堆積土からの出土が大半で、床面から遺物は出土しなかった。



## S15 竪穴建物跡 堆積土註記表

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
竪穴建物跡上	I	HYRS-2 黄褐色	シルト	明眞褐色土ブロック(30mm程度)を含む。炭化物(5mm程度)を少量含む。

## S15 竪穴建物跡 施設堆積土註記表

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
P1	1	HYRS-2 黄褐色	シルト	(柱痕)
	2	HYRS-2 黄褐色	シルト	(柱痕)・淡褐色土ブロック(10mm程度)を含む。(振り方繩)
P2	1	HYTR-1 黄褐色	シルト	(柱痕)・淡褐色土ブロック(50mm程度)を含む。(柱痕)
	2	HYTR-2 (柱) 黄褐色	シルト	淡褐色土ブロック(30mm程度)を少量含む。(振り方繩)
P3	1	ZSY3-1 黄褐色	シルト	塊山グラット面
P4	1	HYRS-2 黄褐色	シルト	明眞褐色土ブロック(3mm程度)を微量含む。(柱痕跡)
	2	HYTR-4 (柱) 黄褐色	シルト	塊山色土ブロック(30mm程度)を含む。(振り方繩)
P5	1	HYRS-2 黄褐色	シルト	塊山色土ブロック(20mm程度)を少量含む。(柱痕)
	2	HYTR-3 (柱) 黄褐色	シルト	塊山色土ブロック(10mm程度)を含む。(振り方繩)
P6	1	ZSY3-1 黄褐色	シルト	塊山グラット面
P7	1	HYRS-2 黄褐色	シルト	(柱痕)・淡褐色土ブロック(30mm程度)を含む。(柱痕)
	2	HYTR-4 (柱) 黄褐色	シルト	塊山色土ブロック(10mm程度)を含む。(振り方繩)
P8	1	HYTR-4 (柱) 黄褐色	シルト	(柱痕)・淡褐色土ブロック(10mm程度)を含む。(柱痕)
	2	HYTR-4 (柱) 黄褐色	シルト	(柱痕)・淡褐色土ブロック(10mm程度)を少額含む。(柱痕)
	3	HYTR-4 (柱) 黄褐色	シルト	塊山色土ブロック(10mm程度)を少額含む。(柱痕)

## S15 竪穴建物跡 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)	深さ (cm)	備 考
P1	不規円形	25 × 22	34	
P2	四角	21 × 21	38	
P3	四角か	21 × (18)	21	柱跡で東側が失われている。
P4	長方形	38 × 24	30	
P5	四角形	28 × 23	18	
P6	不規則円形	37 × 22	19	
P7	四角形か	(30) × (17)	59	SK14 より古い。
P8	四角形	29 × 24	28	

第 12 図 SI5 竪穴建物跡

## SI6 竪穴建物跡 (第 13 図)

【位置・確認】 E・F5・6 グリッドに位置する。

【重複】 重複する SI3 や SI4 より古い。大部分が SI4 に壊されているが、北壁の一部と東辺の周溝、柱穴が残存していた。

【規模・形態】 平面形は隅丸長方形と推測される。規模は約 3.6 × 3.3 m 以下と推測され、深さは 0.38 m が遺存していた。

【方向】SI6 - P2 と SI6 - P6 の軸で N - 29° - E である。

【堆積土】堆積土は 3 層である。

【壁面】壁高は 28 ~ 35cm 残存している。

【床面】SI4 によって削平されている。

【柱穴】床面で 8 基の柱穴を検出した。堅穴建物跡の壁際と推測されるところで確認された。規模は径 20 ~ 35cm、深さは 36 ~ 52cm である。平面形は円形・不整円形・楕円形である。このうち、P2 ~ 6・8 で柱痕跡（径 13 ~ 19cm）を確認した。

【周溝】周溝は東壁で確認した。幅は 28cm、深さ 5cm である。断面形は逆台形である。それ以外は確認されず、SI4 によって削平されたと考えられる。

【出土遺物】遺物は土師器片が P2 から出土した。



SI6 堅穴建物跡 堆積土記表

部位	層位	土色	土性	備考
堅穴建物跡壁上	1	HOTYR5-1 黄褐色	シルト	明黄色地土ブロック (10mm 程度) を多量に含む。
	2	HOTYR5-2 黄褐色	シルト	HOTYR5-1 黄褐色 (10mm 程度)、細粒土ブロック (10mm 程度) を少量含む。
	3	HOTYR6-2 黄褐色	シルト	明黄色地土ブロック (10mm 程度) を多量に含む。
	4	HOTYR5-1 黄褐色	シルト	HOTYR5-2 黄褐色 (10mm 程度) を少量含む。(柱痕跡)

SI6 堅穴建物跡 施設堆積土記表

部位	層位	土色	土性	備考
P1	1	HOTYR5-1 黄褐色	シルト	明黄色地土ブロック (10mm 程度) を多量に含む。(SI6 壁)
	2	HOTYR5-1 黄褐色	シルト	明黄色地土ブロック (10mm 程度) を多量に含む。
	3	HOTYR6-2 黄褐色	シルト	明黄色地土ブロック (10mm 程度) を多量に含む。
P2	1	HOTYR5-1 黄褐色	シルト	HOTYR5-1 黄褐色 (10mm 程度) を少量含む。(柱痕跡)
	2	HOTYR5-2 黄褐色	シルト	HOTYR5-1 黄褐色 (10mm 程度)、細粒土ブロック (10mm 程度) を少量含む。(SI6 壁)
	3	HOTYR5-1 黄褐色	シルト	HOTYR5-2 黄褐色 (10mm 程度) を少量含む。(柱痕跡)
P3	1	25Y5-1 黄褐色	シルト	黄色地土 (20%)、基底部に細粒の白色地土ブロック (20mm 程度) を 5% 含む。炭化物微量含む。(柱痕跡)
	2	25Y5-2 黄褐色	シルト	黄色地土 (20%)、基底部に細粒の白色地土ブロック (20mm 程度) を 5% 含む。炭化物微量含む。(柱痕跡)
P4	1	HOTYR5-2 黄褐色	細砂	HOTYR5-1 黄褐色 (10mm 程度)、柱痕跡 (10mm 程度)
	2	HOTYR5-1 黄褐色	細砂	HOTYR5-2 黄褐色 (10mm 程度)、柱痕跡 (10mm 程度)
P5	1	HOTYR5-2 黄褐色	シルト	明黄色地土ブロック (10mm 程度)、柱痕跡 (10mm 程度)
	2	HOTYR5-1 黄褐色	シルト	HOTYR5-2 黄褐色 (10mm 程度) を含む。(柱痕跡)
P6	1	HOTYR5-1 黄褐色	シルト	HOTYR5-2 黄褐色 (10mm 程度) を含む。(柱痕跡)
	2	HOTYR6-1 黄褐色	シルト	HOTYR5-1 黄褐色 (10mm 程度) を少量含む。(柱痕跡)
P7	1	25Y5-2 黄褐色	シルト	褐色山びき (20%)
	2	HOTYR5-2 黄褐色	細砂	炭化物 (5mm 程度) を微量含む。(柱痕跡)
P8	1	HOTYR5-3 ない・黄褐色	細砂	褐色地土ブロック (10mm 程度) を含む。
	2	HOTYR5-2 ない・黄褐色	細砂	HOTYR5-3 ない・黄褐色 (10mm 程度) を含む。

SI6 堪穴建物跡 施設観察表

遺構名	平面形	範囲(cm)	深さ(cm)	備考
P1	円形	29 × 29	36	
P2	不規円形	35 × 34	52	
P3	楕円形	31 × 25	48	
P4	楕円形	31 × 25	38	
P5	楕円形	27 × 22	48	
P6	楕円形	33 × 26	43	
P7	円形	29 × 20	280	
P8	楕円形	25 × 21	69	

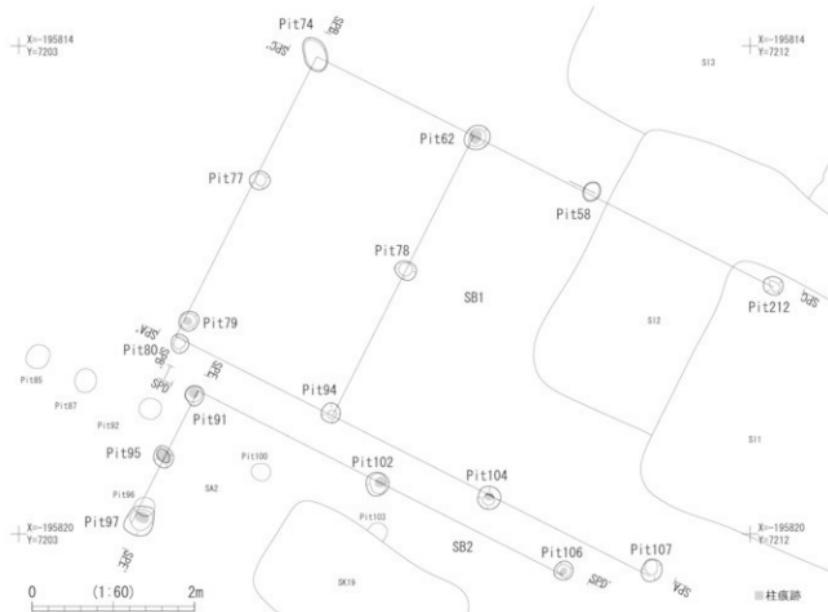
第13図 SI6 堪穴建物跡

## 2. 掘立柱建物跡

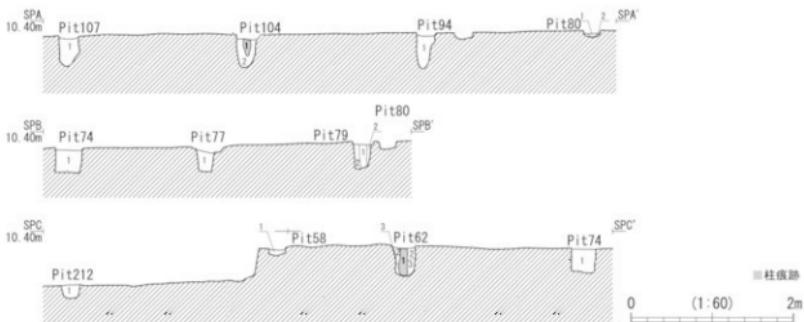
今回の調査では、掘立柱建物跡を2棟検出した。堪穴建物跡との重複関係から、堪穴建物跡より古い。桁行方向はともに北から63°西偏しており、2棟の掘立柱建物跡は近い時期と考えられる。

SB1 掘立柱建物跡（第14・15図）

E3・4、F3～5、G4 グリッドに位置する。SB1 の構成ピット Pit212 が重複する SI2 よりも古いことから、SB1 は SI2 よりも古い。柱間は3×2間以上、規模は6.4×3.9 m以上で、東に続く可能性がある。柱穴の平面形は円形・楕円形・長楕円形で、規模は直径25～45cm、深さは9～46cmである。柱痕跡は直径10～18cmである。南側の桁行の方針はN-63°-Wである。



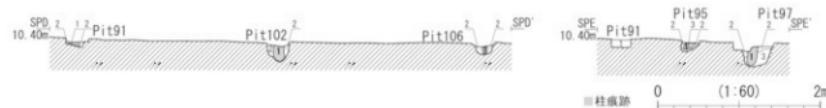
第14図 SB1・2 掘立柱建物跡



第15図 SB1 掘立柱建物跡

## SB2 掘立柱建物跡 (第14・16図)

F・G3・4 グリッドに位置する。柱間は 2 × 2 間以上、規模は 5 × 1.7 m 以上で、東と南に続くと考えられる。柱穴の平面形は円形、楕円形、隅丸長方形で、規模は直径 24 ~ 40cm、深さは 12 ~ 30cm である。柱痕跡は直径 8 ~ 12cm である。北列の方位は N = 63° - W である。



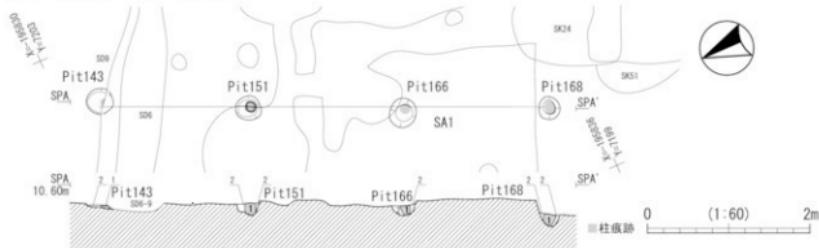
第16図 SB2 掘立柱建物跡

### 3. 柱列跡

今回の調査では柱列跡を2例検出した。SA1とSA2は11m以上離れているが、ほぼ直角方向である。また、SB1・2と同じ方位である事から、掘立柱建物跡と近い時期の柱列跡の可能性が考えられる。

### SA1 柱列跡（第 17 図）

J2～J2グリッドにかけて直線的に存在する。重複するSD6・9より古い。柱列の規模は北東端のPit143の中心から南西端のPit168の中心まで5.54mである。各柱間距離は、Pit143からPit151は1.86m、Pit151からPit166は1.9m、Pit166からPit168は1.78mである。全ての柱穴から柱痕跡が確認された。検出した柱穴の平面形はほぼ円形で、断面形はU字形である。柱穴の規模は、上端幅28～36cm、深さは9～18cmである。柱痕跡の直径は13～17cmである。方位はN-23°-Eである。



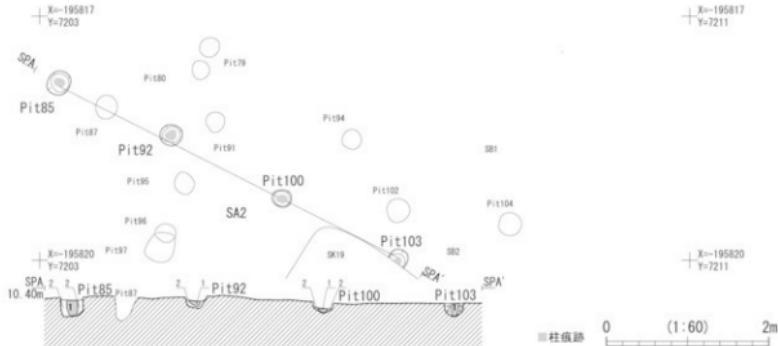
#### SA1 柱列跡 遺構觀察・堆積土註記表

品名	規格 (cm)			耐候	土色	土性	備考	直視
	上端幅	下端幅	深さ					
Pit143	(34) × 22	(32) × 26	9	1	H07S-1 黄褐色	シート	明黄褐色+プロック (30mm程度) を多少含む。(柱直視)	SD6-9より良い。表面に剥離が失われている。
	2	27	17	2	H07S-2 明黄色	シート	淡黄褐色+プロック (30mm程度) を多少含む。(柱直視)	
Pit151	32 × 30	25 × 21	18	1	H07S-1 黄褐色	シート	明黄褐色+プロック (30mm程度) を含む。(柱直視)	SD6-9より良い。表面に剥離が失われている。
	2	27	17	2	H07S-2 明黄色	シート	淡黄褐色+プロック (30mm程度) を含む。(柱直視)	
Pit166	36 × 32	23 × 21	18	1	H07S-1 黄褐色	ラミ	明黄褐色+プロック (30mm程度) を含む。(柱直視)	SD6-9より良い。表面に剥離が失われている。
	2	27	17	2	H07S-2 淡黄褐色	ラミ	淡黄褐色+プロック (30mm程度) を含む。(柱直視)	
Pit168	28 × 27	18 × 18	15	1	H07A-1 黄褐色	シート	明黄褐色+プロック (30mm程度) を多少含む。(柱直視)	SD6-9より良い。表面に剥離が失われている。
	2	27	17	2	H07A-2 明黄色	シート	淡黄褐色+プロック (30mm程度) を含む。(柱直視)	

第17図 SA1柱列跡

### SA2 柱列跡（第 18 図）

F3, G3・4 グリッドに位置する。重複する SK19 より古い。柱列の規模は南東端の Pit103 の中心から北西端の Pit85 の中心まで 4.7 m である。各柱間距離は、Pit103 から Pit100 は 162 m、Pit100 から Pit92 は 157 m、Pit92 から Pit85 は 1.51 m である。全ての柱穴から柱痕跡が確認された。検出した柱穴の平面形は円形・楕円形で、断面形は U 字形である。柱穴の規模は、上端幅 23~30cm、深さは 15~22cm である。柱痕跡の直径は 10~16cm である。方位は N-63°W である。



第18図 SA2柱列跡

## SA2 柱列跡 遺構観察・堆積土性記表

Pt名	規模(cm)			層位	土色	土性	備考	直観
	上端幅	下端幅	深さ					
Pt05	30 × 27	24 × 21	22	1	HOTB4-1 黄褐色	シルト	C4(5)黄褐色土+ブロック(10mm程度)を多量に含む。遺物(Sesse程度)を少量含む。(柱根跡)	
				2	HOTB4-1 黄褐色	シルト	C4(5)黄褐色土+ブロック(10mm程度)を多量に含む。(柱根跡)	
Pt09	27 × 26	22 × 19	15	1	HOTB4-1 黄褐色	シルト	C4(5)黄褐色土+ブロック(10mm程度)を多量に含む。(柱根跡)	
				2	HOTB5-1 黄褐色	シルト	C4(5)黄褐色土+ブロック(10mm程度)を多量に含む。(柱根跡)	
Pt100	21 × 22	20 × 18	15	1	HOTB4-1 黄褐色	シルト	C4(5)黄褐色土+ブロック(10mm程度)を多量に含む。(柱根跡)	
				2	HOTB4-1 黄褐色	シルト	C4(5)黄褐色土+ブロック(10mm程度)を多量に含む。(柱根跡)	SK19より古い。
Pt103	23 × (23)	19 × (11)	16	1	HOTB5-2 黄褐色	シルト	褐色土(10mm程度)、明黄褐色土+ブロック(10mm程度)を多量に含む。(柱根跡)	
				2	HOTB5-2 黄褐色	シルト	褐色土(10mm程度)、明黄褐色土+ブロック(10mm程度)を含む。褐色土+ブロック(10mm程度)を微量含む。(柱根跡)	

## 4. 土坑

調査区の全域で合計42基の土坑を検出した。平面形状は隅丸長方形もしくは隅丸長方形が22基、円形もしくは楕円形が14基、それ以外は不整形が3基である。長軸は0.65～3.47mとばらつきはあるものの、隅丸長方形は長軸が1m未満は2基で、1.5～3.4mが15基と、その大半が大型である。また、堆積土が人為堆積である土坑は15基あり、そのうち隅丸長方形の土坑は10基である。遺物が出土している土坑は9基あり、そのうち隅丸長方形の土坑は14・28・54から出土している。そのほか、SK15からは骨片が出土している。また、遺構検出時に土坑としていたものが、調査中に竪穴建物跡や、それに付随する施設であると判明したため、欠番としている土坑もある。

## SK1 (第19図)

C7～D7グリッドに位置する。重複するSR1より新しい。平面形は隅丸長方形で、規模は2.56×0.86mである。断面形は西側が袋状形に突出し、東側は直線的に立ち上がる。深さは28cmである。底面はほぼ平坦である。堆積土は5層で、いずれも褐灰色と明黄褐色土のブロックを多量に含む人為堆積である。

## SK2 (第19図)

D6グリッドに位置する。重複するSRIより新しい。平面形は隅丸長方形で、規模は1.66×1.03mである。断面形は長方形で、深さは28cmである。底面には多少の起伏がある。堆積土は2層に分層した。遺物は土師器の壺(第23図-1)が出土している。壺の口縁部で、口縁部には内外面ともにヨコナデ調整が施される。

## SK3 (第19図)

B・C4グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は直径12mである。断面形は皿形で、深さは23cmである。底面には多少の起伏がある。堆積土は2層に分層した。遺物は土師器の壺2点(第23図-2・3)と鉢1点(第23図-4)が出土している。壺(第23図-2)の口縁部は外反し、端部を面取りするような形でケズリ調整している。壺(第23図-3)は口縁部と頸・肩部が残存する。口縁部は外反し、折り返し口縁である。鉢(第23図-4)は、内外面ともにヨコナデ調整された後、外面にはヘラケズリの後ヘラナデ調整が、内面にはヘラミガキ調整が施される。

## SK6 (第19図)

D4・5グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は1.53×1.10mである。断面形は不整逆台形で下部は外側へ広がる。深さは89cmである。底面には多少の起伏がある。堆積土は5層であり、4層から陶器が出土している。鉢(第23図-5)の底部で、細身の高台が付く。

## SK7 (第19図)

D・E5・6グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は1.43×1.36mである。断面形は逆台形状で、深さは36cmである。底面は中央部が窪み、多少の起伏がある。堆積土は8層で、7層から土師器片が出土している。

## SK9 (第19図)

E6グリッドに位置する。重複するSD12より新しく、擾乱によって北東部が失われている。平面形は円形で、規

横は直径が1.59mである。断面形はU字形で、深さは78cmである。堆積土は13層に分層した。1・2層中は灰白色土ブロックを多量に含む。10層から土師器片が出土している。

#### SK10（第19図）

F6・7グリッドに位置する。重複するPit181より新しい。平面形は円形で、規模は $1.28 \times 1.24$ mである。断面形は逆台形で、深さは56cmである。底面は平坦である。堆積土は4層に分層した。

#### SK11（第19図）

E5・6グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形で、規模は $2.1 \times 1.49$ mである。断面形は逆台形である。深さは46cmである。底面はほぼ平坦である。堆積土は3層に分層した。褐色土のブロックを多量に含む人為堆積である。

#### SK12（第19図）

E5グリッドに位置する。平面形は隅丸方形で、規模は $2.45 \times 2.41$ mである。断面形は逆台形で、深さは45cmである。底面は平坦である。堆積土は3層で、1・2層は明黄褐色土ブロックを多量に含む人為堆積である。遺物は陶器の壺（第23図-6）の底部が出土している。

#### SK14（第20図）

F5・6、G5グリッドに位置する。重複するSIIとSI5、Pit214・244より新しい。平面形は隅丸長方形で、規模は $2.58 \times 1.81$ mである。断面形は逆台形で、深さは75cmである。底面で全周を巡る周溝を確認した。堆積土は5層で、いずれも褐色土と明黄褐色土のブロックを多量に含む人為堆積である。

#### SK15（第20図）

G5グリッドに位置する。重複するSII、SII-P6、SD21、Pit187より新しい。平面形は隅丸長方形で、規模は $0.96 \times 0.65$ mである。断面形は皿形で、深さは11cmである。底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層され、炭化物が多量に、骨片が少量含まれており、中世の火葬墓と考えられる。

#### SK16（第20図）

G5グリッドに位置する。重複するSK28・29・35、Pit231、SX10より新しい。平面形は隅丸長方形で、規模は $1.87 \times 1.47$ mである。断面形は逆台形で、深さは27cmである。底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分けられ、明黄褐色土のブロックを多量に含む人為堆積である。

#### SK17（第20図）

G4・5グリッドに位置する。重複するSK28より古く、Pit265、SX10より新しい。平面形は隅丸長方形で、規模は $1.99 \times 1.73$ mである。断面形は長方形で、深さは53cmである。底面は多少の起伏がある。堆積土は3層に分層した。この上部の堆積土はブロック土を多量に含む人為堆積である。遺物は青磁の碗（第23図-7）が出土している。

#### SK18（第20図）

G・H4グリッドに位置する。重複するPit111、SK48より古い。平面形は隅丸長方形で、規模は(200)×0.95mである。断面形は逆台形で、深さは47cmである。底面は平坦である。堆積土は3層に分層した。遺物は須恵器の壺（第23図-8）が出土している。焼成が甘く、全体的に赤い。底部には回転糸切の痕跡がある。

#### SK19（第20図）

G3・4グリッドに位置する。重複するSA2-Pit103、SX10より新しい。平面形は隅丸長方形で、規模は $2.51 \times 1.38$ mである。断面形は逆台形で、深さは42cmである。底面は平坦である。堆積土は2層に分層した。

SK20（第20図）

G3・4 グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形で、規模は  $2.33 \times 1.49$  m である。断面形は下部に向かって緩やかなカーブを描く逆台形で、深さは 71cm である。底面は多少の起伏があり中央部がやや窪む。堆積土は 4 層に分層した。遺物は土師器（第23図-9）が出土している。高台付の壙である。削り出して高台を作成する。内面はヘラミガキ調整の後、黒色処理が施されている。

SK22（第20図）

J4 グリッドに位置する。擾乱によって南・西側が失われている。規模は  $(2.26) \times (0.86)$  m である。断面形は皿形で、深さは 15cm である。底面は多少の起伏がある。堆積土は 1 層である。

SK23（第21図）

J3・4 グリッドに位置する。平面形は不整形長椭円形で、規模は  $3.47 \times (1.15)$  m である。断面形は逆台形で、深さは 43cm である。底面はほぼ平坦である。堆積土は 3 層に分層した。遺物は砥石（第24図-1）が出土している。凝灰岩製で、底面は 3 面ある。

SK24（第21図）

J2・3 グリッドに位置する。重複する SK51・53 より新しい。平面形は隅丸長方形で、規模は  $3.38 \times 1.34$  m である。断面形は逆台形で、深さは 55cm である。堆積土は 5 層で、明黄褐色土ブロックを多量に含む人為堆積である。

SK25（第21図）

I2 グリッドに位置する。重複する SD6、Pit147 より古い。平面形は不整円形で、規模は直径約 1m である。断面形は不整形の U 字形で、深さは 33cm である。堆積土は 4 層で、褐灰色土を主体とし、1 層には灰白色火山灰がブロック状に含まれていた。

SK28（第21図）

G4・5 グリッドに位置する。重複する SK16 より古く、SK17、Pit232・274・275、SX10 より新しい。平面形は隅丸長方形で、規模は  $1.80 \times 1.34$  m である。断面形は長方形で、深さは 36cm である。底面には多少の起伏があるが、ほぼ平坦である。堆積土は 3 層に分層した。遺物は土師器の壺（第24図-2）が出土している。口縁部のみ残存する。口縁部は外反し、外面はヨコナテ調整が施される。

SK29（第21図）

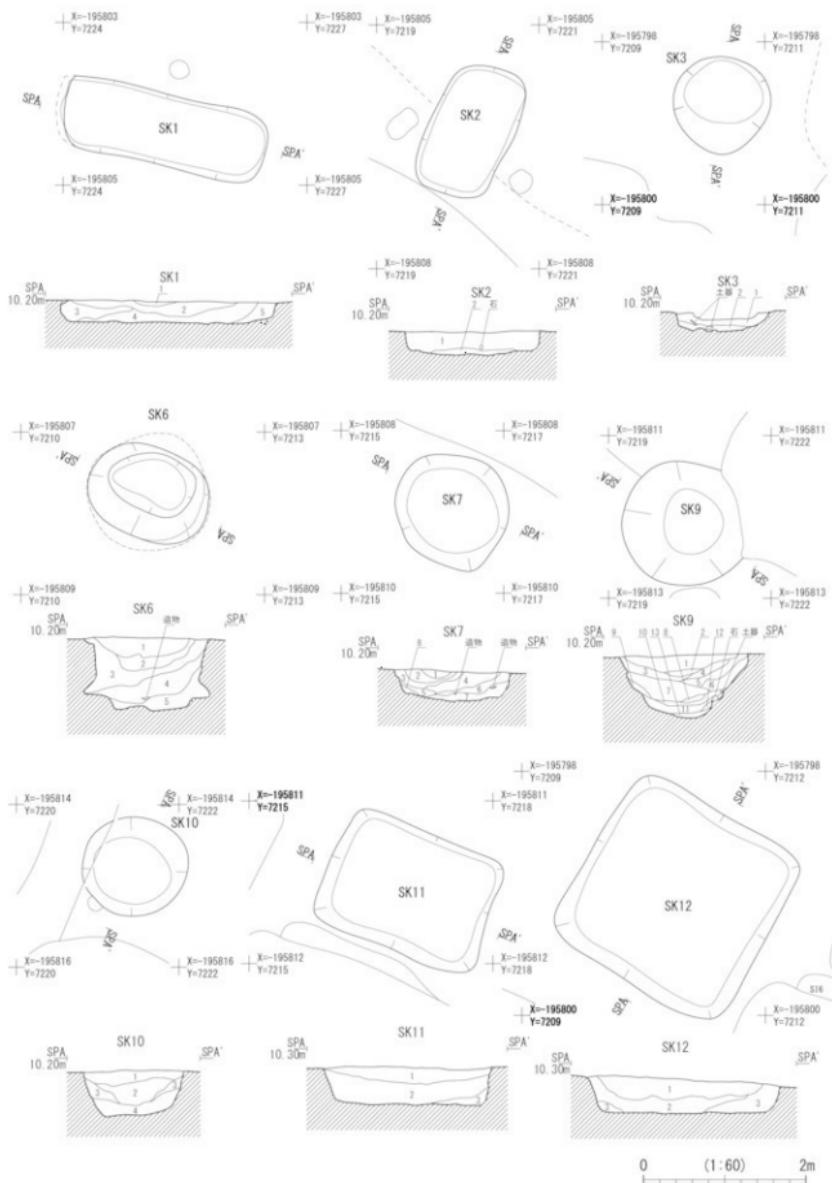
G・H5 グリッドに位置する。重複する SK16 より古く、SK35・42 より新しい。平面形は隅丸長方形で、規模は  $2.54 \times 1.80$  m である。断面形は逆台形で、深さは 47cm である。底面には多少の起伏があり、中央部が若干高く、壁面に向かって緩やかに下る。堆積土は 2 層で、ブロック土を多量に含む人為堆積である。

SK35（第21図）

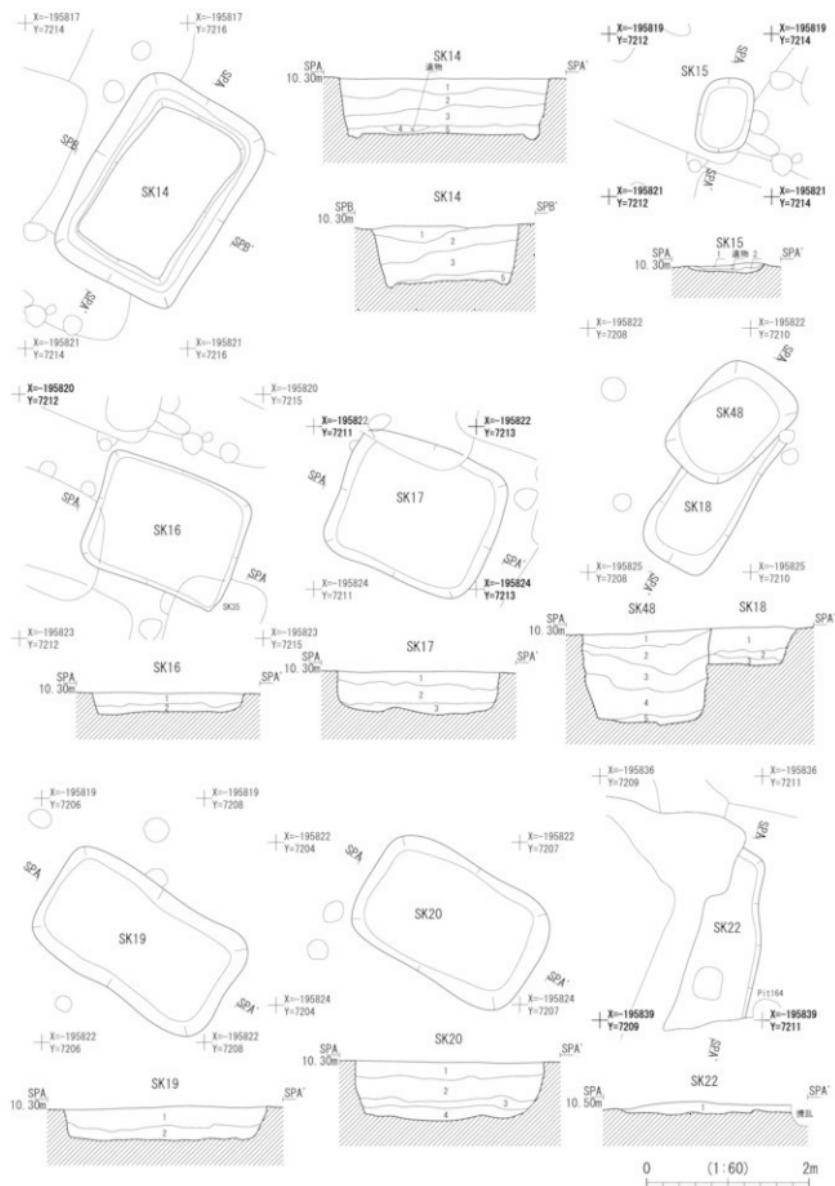
G5 グリッドに位置する。SK16・29 より古く、Pit231 より新しい。規模は  $(1.34) \times 1.10$  m である。断面形は逆台形で、深さは 35cm である。堆積土は 2 層で、1 層目は明黄褐色土のブロックを多量に含む人為堆積である。

SK36（第21図）

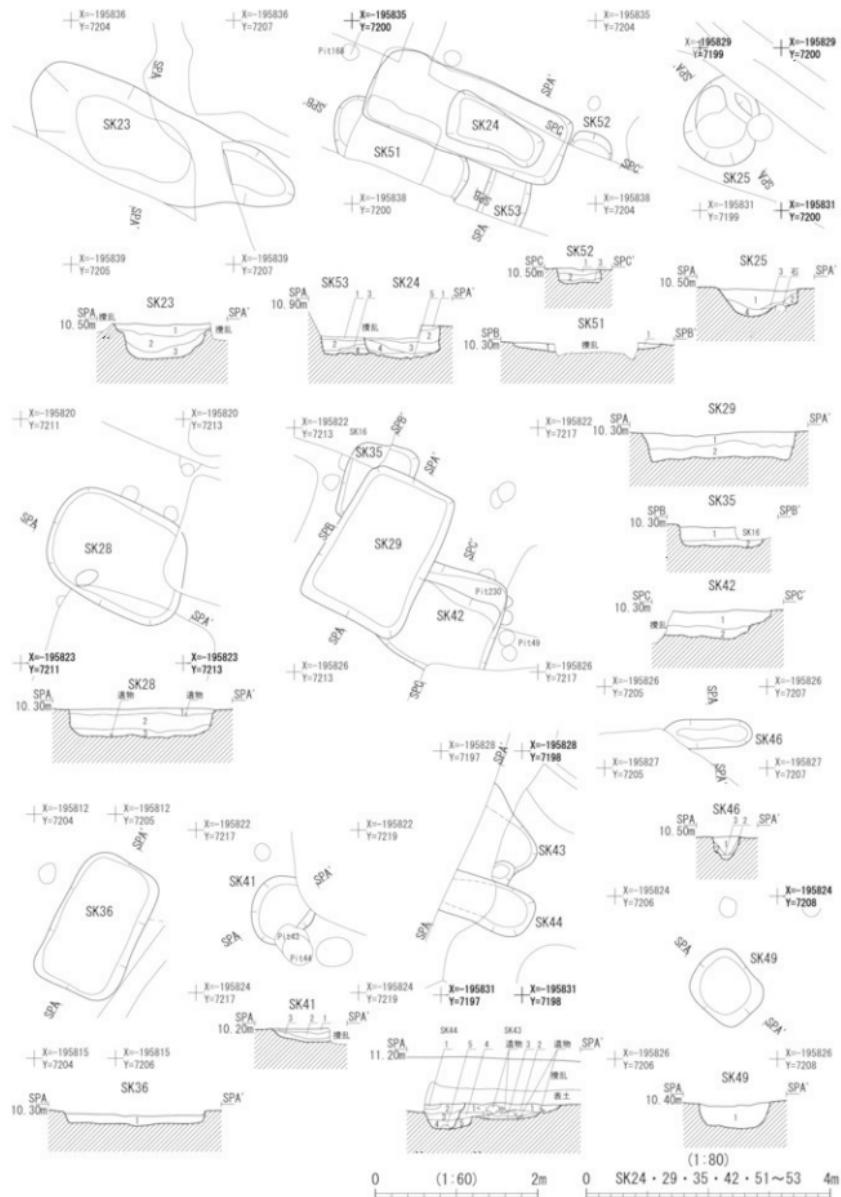
E3・F3 グリッドに位置する。重複する SX10 より新しい。平面形は隅丸長方形で、規模は  $1.75 \times 1.07$  m である。断面形は逆台形で、深さは 18cm である。底面は平坦である。堆積土は 1 层である。



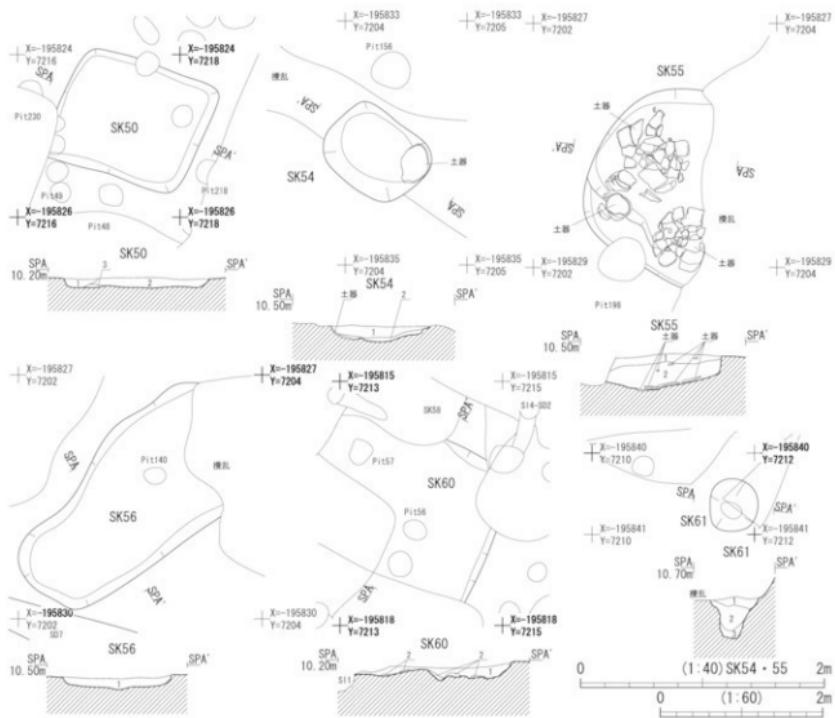
第19図 SK土坑(1)



第20図 SK土坑(2)



第21図 SK 土坑(3)



遺構名	グリッド	平面形	規模(cm)		層位	土 色	土 性	備 考	重 観
			長軸	短軸					
SK7	D・E5・6	円形	143 × 136	36	1	H0YR4-T 黄褐色	シルト	に赤い黄褐色土(30mm程度)を含む。	
					2	H0YR5-2 黄褐色	シルト	に赤い黄褐色土(10mm程度)を少量含む。	
					3	H0YR4-T 黄褐色	シルト	に赤い黄褐色土(10mm程度)を少量含む。炭化物(10mm程度)を少量含む。	
					4	H0YR5-2 黄褐色	シルト	褐風化土ブロック(30mm程度)、に赤い黄褐色土ブロック(30mm程度)を多量に含む。	
					5	H0YR4-T 黄褐色	シルト	に赤い黄褐色土(30mm程度)をひとかたまり含む。	
					6	H0YR5-2 黄褐色	シルト	褐風化土ブロック(30mm程度)を少量含む。	
					7	H0YR4-T 黄褐色	シルト	に赤い黄褐色土ブロック(30mm程度)を微量含む。	
					8	H0YR5-1 黑褐色	シルト		
SK8	E6	円形	159 × 159	78	1	H0YR5-1 黄褐色	シルト	灰白色土ブロック(30mm程度)を多量に含む。発化した糞分を含む。	
					2	H0YR5-1 黄褐色	シルト	灰白色土ブロック(30mm程度)を多量に含む。	
					3	H0YR4-T 黄褐色	シルト	灰白色土ブロック(30mm程度)、発化した糞分を含む。	
					4	H0YR5-1 黄褐色	シルト	灰白色土ブロック(30mm程度)、発化した糞分を含む。	
					5	H0YR4-T 黄褐色	シルト	灰白色土ブロック(30mm程度)、発化した糞分を含む。	
					6	H0YR5-1 黄褐色	シルト	灰白色土ブロック(30mm程度)、発化した糞分を含む。	
					7	H0YR5-1 黄褐色	シルト	灰白色土ブロック(30mm程度)を微量含む。	
					8	H0YR4-T 黄褐色	シルト	灰白色土ブロック(30mm程度)、発化した糞分を含む。	
					9	H0YR5-2 黄褐色	シルト	に赤い黄褐色土ブロック(30mm程度)を含む。	
					10	H0YR5-1 黄褐色	シルト	灰白色土ブロック(30mm程度)を少量含む。	
					11	H0YR4-T 黄褐色	シルト	発化した糞分を含む。	
					12	H0YR7-3 に赤い黄褐色	砂質シルト	褐風化土を解状に含む。	
					13	H0YR6-2 に赤い黄褐色	シルト	褐風化土ブロック(30mm程度)を少量含む。	K0H3より新しい。 これまで北東部が失われ ている。
SK10	F6・7	円形	128 × 124	56	1	H0YR4-T 黄褐色	シルト	灰褐色粘性土ブロック(100mm程度)を含む。に赤い黄褐色土ブロッ ク(100mm程度)を含む。発化した糞分を含む。	
					2	H0YR5-2 黄褐色	砂質シルト	褐風化土ブロック(100mm程度)を含む。発化した糞分を含む。	
					3	H0YR5-3 に赤い黄褐色	シルト	灰白色土ブロック(30mm程度)、に赤い黄褐色土ブロック(30mm程度) を多量に含む。	PtH3より新しい。
					4	H0YR5-4 に赤い黄褐色	シルト	灰白色土ブロック(50~100mm程度)に赤い黄褐色土ブロック(50~ 100mm程度)を含む。	
SK11	E5・6	椭丸長方形	210 × 149	46	1	H0YR5-2 に赤い黄褐色	シルト	灰白色土ブロック(30mm程度)を多量に含む。	
					2	H0YR5-3 に赤い黄褐色	シルト	褐風化土ブロック(30mm程度)を多量に含む。	
					3	H0YR5-4 に赤い黄褐色	砂質シルト	褐風化土ブロック(30mm程度)を少量含む。	
SK12	E5	椭丸方形	245 × 241	45	1	H0YR4-4 に赤い黄褐色	シルト	明黄色土(30mm程度)、褐風化土ブロック(30mm程度)を多量に 含む。	
					2	H0YR5-4 に赤い黄褐色	シルト	明黄色土(30mm程度)、褐風化土ブロック(30mm程度)を多量に 含む。	
					3	H0YR6-4 に赤い黄褐色	砂質シルト	明黄色土(10mm程度)、褐風化土ブロック(10mm程度)を少量含む。 褐風化土ブロック(50~100mm程度)に赤い黄褐色土ブロック(50~ 100mm程度)を含む。	
SK14	F5・6・G5	椭丸長方形	258 × 181	75	1	H0YR7-6 に赤い黄褐色	シルト	褐風化土ブロック(50mm程度)、多量に含む。	
					2	H0YR5-1 黄褐色	シルト	明黄色土(30mm程度)、褐風化土ブロック(30mm程度)を多量に 含む。	
					3	H0YR7-2 に赤い黄褐色	シルト	明黄色土(10mm程度)、褐風化土ブロック(10mm程度)を少量含む。 褐風化土ブロック(50~100mm程度)に赤い黄褐色土ブロック(50~ 100mm程度)を含む。	SD-5、PtH4-244 をより新しい。
					4	H0YR5-1 黄褐色	シルト	明黄色土(30mm程度)を含む。	
					5	H0YR6-6 に赤い黄褐色	シルト	褐風化土ブロック(30mm程度)を含む。	
SK15	G5	椭丸長方形	96 × 65	11	1	H0YR5-2 に赤い黄褐色	シルト	灰褐色土(30mm程度)上骨灰を含む。	SH1-SH4-PtH5、SD21, PtH7-2より新しい。
					2	H0YR4-2 に赤い黄褐色	シルト	灰褐色土(30mm程度)、多量に含む。骨灰を少量含む。	
SK16	G5	椭丸長方形	187 × 147	27	1	H0YR5-2 に赤い黄褐色	シルト	明黄色土ブロック(30mm程度)を含む。炭化物(5mm程度)を含む。	SK28-29-35、PtH25, SK10より新しい。
					2	H0YR5-2 に赤い黄褐色	シルト	明黄色土ブロック(30mm程度)を含む。	
SK17	G4・5	椭丸長方形	199 × 173	53	1	H0YR5-3 に赤い黄褐色	シルト	明黄色土(30mm程度)に赤い黄褐色土ブロック(30mm程度) を含む。	SK28より新しい。 PtH5、SK10より新しい。
					2	H0YR5-2 に赤い黄褐色	シルト	褐風化土ブロック(30mm程度)を含む。炭化物(5mm程度)を少 量含む。	
					3	H0YR5-3 に赤い黄褐色	シルト	褐風化土ブロック(30mm程度)を少量含む。	
SK18	G・H4	椭丸長方形	(200) × 95	47	1	H0YR4-2 に赤い黄褐色	シルト	明黄色土ブロック(10mm程度)を含む。炭化物(5mm程度)を少 量含む。	PtH11、SK48より古 い。
					2	H0YR5-3 に赤い黄褐色	シルト	明黄色土ブロック(30mm程度)を含む。炭化物(5mm程度)を少 量含む。	
					3	H0YR6-3 に赤い黄褐色	砂質シルト	明黄色土ブロック(30mm程度)を含む。	
SK19	G・4	椭丸長方形	251 × 138	42	1	H0YR5-2 に赤い黄褐色	シルト	明黄色土ブロック(10mm程度)を含む。炭化物(5mm程度)を微 量含む。	N3A-PtH103、SK10 より古い。
					2	H0YR4-2 に赤い黄褐色	シルト	明黄色土ブロック(30mm程度)を含む。炭化物(5mm程度)を微 量含む。	
SK20	G3・4	椭丸長方形	233 × 149	71	1	H0YR5-2 に赤い黄褐色	砂質シルト	明黄色土ブロック(30mm程度)を含む。	
					2	H0YR7-4 に赤い黄褐色	砂質シルト	明黄色土ブロック(30mm程度)、炭化物(5mm程度)を少 量含む。	
					3	H0YR5-2 に赤い黄褐色	シルト	褐風化土(20mm程度)を含む。	
					4	H0YR7-4 に赤い黄褐色	砂質シルト	d-3m以下の明黄色土ブロックを含む5m以下の炭化物を少 量含む。	
SK22	J4	不明	(220) × 160	15	1	H0YR4-T 黄褐色	シルト	明黄色土(10mm程度)を含む。	褐風化土・西側が失 われている。
					2	H0YR4-2 に赤い黄褐色	シルト	褐風化土ブロック(50mm程度)を少量、に赤い黄褐色土(10mm程度) を含む。	
SK23	J3・4	不整形長 円形	347 × (115)	43	1	H0YR5-1 黄褐色	シルト	褐風化土ブロック(50mm程度)を少量、に赤い黄褐色土(10mm程度) を含む。	
					2	H0YR4-T 黄褐色	シルト	褐風化土ブロック(50mm程度)を少量、に赤い黄褐色土(10mm程度) を少量含む。	
					3	H0YR4-T 黄褐色	シルト	に赤い黄褐色土ブロック(10mm程度)を微量含む。	

遺構名	グリッド	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸	短軸					
SK24	J2・3	横丸長方形	338 × 134	55	1	H0YR4-1 黄褐色	シルト	明黄褐色土(50mm程度)を多量に含む。炭化物(5mm程度)を微量含む。	SK31より新しい。
					2	H0YR4-1 黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック(50mm程度)を多量に含む。	
					3	H0YR4-1 黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック(20mm程度)を多量に含む。	
					4	H0YR4-1 黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック(10mm程度)を多量に含む。	
					5	H0YR7-6 黄褐色	シルト	褐色土上ブロック(10mm程度)を含む。	
SK25	II	(不規円形)	99 × (99)	33	1	H0YR5-1 黄褐色	シルト	灰白色土(灰山系)(30mm程度)を含む。	SD6, Pd47より古い。
					2	H0YR5-1 黄褐色	シルト	に赤い黄褐色土ブロック(50mm程度)を少量含む。	
					3	H0YR7-6 明黄褐色	シルト	褐色土上ブロック(10mm程度)を多量に含む。	
					4	H0YR5-2 明黄褐色	シルト	に赤い黄褐色土ブロック(50mm程度)を含む。炭化物(5mm程度)を少量含む。	
SK26	G4・5	横丸長方形	180 × 134	36	1	H0YR5-1 黄褐色	シルト	に赤い黄褐色土ブロック(20mm程度)を含む。	SK24より古い。SK27, PG22, 27A, 27B, X30より新しい。
					2	H0YR4-1 黄褐色	シルト	に赤い黄褐色土ブロック(30mm程度)を含む。炭化物(10mm程度)を微量含む。	
					3	H0YR4-1 黄褐色	シルト	に赤い黄褐色土ブロック(50mm程度)を含む。	
SK29	G5・H5	横丸長方形	254 × 180	47	1	H0YR5-2 黄褐色	シルト	明黄褐色土(10mm程度)多量、炭化物(5mm程度)を微量含む。	SK26より古い。SK25, SK42より新しい。
					2	H0YR5-2 黄褐色	シルト	明黄褐色土(10mm程度)多量、炭化物(5mm程度)を多量含む。	
SK35	G5	(横丸長方形)	(130) × 110	35	1	H0YR3-2 黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック(20mm程度)を含む。	SK24・29より古い。PG22より新しい。
					2	H0YR5-1 黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック(30mm程度)を含む。炭化物(5mm程度)を微量含む。	
SK36	E3・F3	横丸長方形	175 × 107	18	1	H0YR5-2 黄褐色	シルト	に赤い黄褐色土ブロック(30mm程度)と褐色土上ブロック(30mm程度)を含む。	SK30より新しい。
					1	H0YR5-2 黄褐色	シルト	に赤い黄褐色土ブロック(50mm程度)を含む。	
SK40	G6	(楕円形)	75 × (70)	17	2	H0YB6-2 黄褐色	シルト	に赤い黄褐色土ブロック(30mm程度)を含む。	PG43より古い。楕円で北西側が失われている。
					3	H0YR7-3 に赤い黄褐色	シルト	褐色土上(10mm程度)を含む。	
					1	H0YR5-4 に赤い黄褐色	砂質シルト	褐色土上ブロック(10mm程度)を含む。	
SK42	H5	(横丸長方形)	177 × (148)	46	2	H0YR6-4 に赤い黄褐色	砂質シルト	褐色土上ブロック(10mm程度)を含む。炭化物(5mm程度)を微量含む。	SK26より古い。SK27, PG22, 27A, 27B, X30より新しい。楕円で南西側が失われている。
					1	H0YR4-2 黄褐色	シルト	に赤い黄褐色土(10mm程度)を含む。	
					2	H0YR4-2 黄褐色	シルト	に赤い黄褐色土(10mm程度)を含む。炭化物(10mm程度)を少量含む。	
					3	H0YR5-2 に赤い黄褐色	シルト	に赤い黄褐色土(10mm程度)を含む。	
					4	H0YR6-3 に赤い黄褐色	シルト	褐色土上(10mm程度)を含む。	
SK43	H-12	不規形	(85) × (65)	30	5	H0YR6-2 黄褐色	シルト	褐色土上(10mm程度)を含む。	SK44より古い。
					1	H0YR5-2 黄褐色	シルト	に赤い黄褐色土(10mm程度)を含む。	
					2	H0YR5-2 黄褐色	シルト	に赤い黄褐色土(10mm程度)を含む。炭化物(10mm程度)を少量含む。	
					3	H0YR5-2 に赤い黄褐色	シルト	に赤い黄褐色土(10mm程度)を含む。	
					4	H0YR6-3 に赤い黄褐色	シルト	褐色土上(10mm程度)を含む。	
SK44	E2	(長椭円形)	(52) × 59	31	5	H0YR6-4 に赤い黄褐色	シルト	褐色土上(10mm程度)を含む。	SK26より古い。SK27, PG22, 27A, 27B, X30より新しい。楕円で南西側が失われている。
					1	H0YR5-2 黄褐色	シルト	炭化物(5mm程度)を含む。	
					2	H0YR4-2 黄褐色	シルト	に赤い黄褐色土(10mm程度)を含む。炭化物(10mm程度)を少量含む。	
					3	H0YR4-2 黄褐色	シルト	に赤い黄褐色土(10mm程度)を含む。	
					4	H0YR4-2 黄褐色	シルト	に赤い黄褐色土(10mm程度)を含む。	
SK46	H3・4	(長椭円形)	(107) × 35	28	5	H0YR6-4 に赤い黄褐色	シルト	炭化物(5mm程度)を微量含む。に赤い黄褐色土ブロック(30mm程度)を少量含む。	SK43より新しい。楕円で南西側が失われている。
					1	H0YR4-1 黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック(10mm程度)を含む。炭化物(5mm程度)を微量含む。	
					2	H0YR6-4 に赤い黄褐色	シルト	褐色土上ブロック(30mm程度)を含む。炭化物(5mm程度)を微量含む。	
SK48	G4	横丸長方形	137 × 109	118	3	H0YR4-1 黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック(10mm程度)を含む。炭化物(5mm程度)を微量含む。	PG43より古い。SK38より新しい。
					4	H0YR5-2 黄褐色	シルト	褐色土上ブロック(10mm程度)を少量含む。	
					5	H0YR6-4 に赤い黄褐色	シルト	褐色土上(10mm程度)を含む。	
					1	H0YR4-1 黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック(10mm程度)を含む。炭化物(5mm程度)を微量含む。	
					2	H0YR5-2 黄褐色	シルト	褐色土上ブロック(30mm程度)を含む。炭化物(5mm程度)を微量含む。	
SK49	H4	横丸長方形	88 × 75	32	3	H0YR5-2 黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック(30mm程度)を含む。炭化物(5mm程度)を微量含む。	PG43より古い。楕円で南西側が失われている。
					4	H0YR6-3 に赤い黄褐色	シルト	に赤い黄褐色土ブロック(20mm程度)を多量、褐色土上ブロック(10mm程度)を少量含む。	
					5	H0YR6-3 に赤い黄褐色	シルト	褐色土上ブロック(20mm程度)を微量含む。炭化物(5mm程度)を少量含む。	
					1	H0YR5-2 黄褐色	シルト	明黄褐色土(10mm程度)を含む。炭化物(10mm程度)を微量含む。	
					2	H0YR6-3 に赤い黄褐色	シルト	に赤い黄褐色土(10mm程度)を含む。炭化物(10mm程度)を微量含む。	
SK50	G6・H5・6	横丸長方形	179 × 146	30	1	H0YR6-2 黄褐色	シルト	に赤い黄褐色土ブロック(20mm程度)を多量、褐色土上ブロック(10mm程度)を含む。	SK42, PG43, 184, 186, 188より古い。
					2	H0YR6-3 に赤い黄褐色	シルト	褐色土上ブロック(20mm程度)を微量含む。炭化物(5mm程度)を微量含む。	
					3	H0YR6-3 に赤い黄褐色	シルト	褐色土上ブロック(20mm程度)を含む。	
SK51	J2・3	(長椭円形)	242 × (102)	13	1	H0YR7-8 黄褐色	シルト	褐色土上ブロック(30mm程度)を少量含む。	SK44より古い。楕円で中央部が失われている。
					2	H0YR8-2 黄褐色	シルト	褐色土上(30mm程度)を少量含む。炭化物(5mm程度)を微量含む。	
SK52	J3	不明	71 × (33)	25	1	H0YR4-2 黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック(30mm程度)を多量に含む。	褐色土上(30mm程度)を微量含む。
					2	H0YR5-2 黄褐色	シルト	褐色土上ブロック(30mm程度)を多量に含む。炭化物(5mm程度)を微量含む。	
					3	H0YR5-2 黄褐色	シルト	褐色土上ブロック(30mm程度)を微量含む。	
SK53	J3	不明	76 × (70)	29	1	H0YR4-1 黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック(30mm程度)を多量に含む。	褐色土上(30mm程度)を微量含む。
					2	H0YR4-1 黄褐色	シルト	褐色土上ブロック(30mm程度)を微量含む。炭化物(5mm程度)を微量含む。	
					3	H0YR5-1 黄褐色	シルト	褐色土上ブロック(30mm程度)と炭化物(5mm程度)を微量含む。	
					4	H0YR5-2 黄褐色	シルト	褐色土上ブロック(30mm程度)と炭化物(5mm程度)を微量含む。	
SK54	I・J3	横丸長方形	84 × 65	13	1	H0YR6-2 黄褐色	シルト	に赤い黄褐色土ブロック(5mm程度)をごく微量含む。	褐色土上(30mm程度)を微量含む。
					2	H0YR5-2 黄褐色	シルト	炭化物(5mm程度)をごく微量含む。	

遺構名	グリッド	平面形	規模(cm)		層位	土 色	土 性	備 考	重 観
			長軸	短軸					
SK35	H3	不明(不整形 円形)	162×(102)	28	1	HYR5-2灰黄褐色	シルト	に赤い黃褐色土ブロック(30mm程度)、炭化物(3mm程度)を少量含む。	Pit48より古く。被 及で重複が失われて いる。
					2	HYR5-2灰黄褐色	シルト	に赤い黃褐色土ブロック(30mm程度)を含む。炭化物(3mm程度)を少量含む。	
SK36	H-5	不整形	(290)×165	13	1	HYR6-4に赤い黃褐色	シルト	褐灰色土ブロック(100mm程度)を含む。	横断面の傾きよりPit 48より古く。被及で重複 がある。Pit48より古く。 被及で重複が失わ れている。
SK39	F5	不明	(80)×(40)	19	1	HYR5-2灰黄褐色	シルト	明黄色土ブロック(20mm程度)を含む。炭化物(5mm程度)を微 量含む。	Pit44, 51A, 51D, 52, Pit60より古く。SK36 より新しい。
					2	HYR5-2灰黄褐色	シルト	明黄色土ブロック(20mm程度)を含む。炭化物(5mm程度)を微 量含む。	
SK60	F5	(楕丸方形)	(245)×(195)	15	1	HYR6-1褐灰色	シルト	赤褐色土に赤い黃褐色土ブロックを多量に含む。	SD-4, SK36・50, Pit55・56・57より古 い。
					2	HYR7-4に赤い黃褐色	シルト	褐灰色土ブロック(30mm程度)を少量含む。	
SK61	K4-5	円形	65×30	31	1	HYR4-2灰黄褐色	シルト	に赤い黃褐色土ブロック(30mm程度)を含む。	被及で上層部が失わ れている。
					2	HYR4-2灰黄褐色	シルト		
					3	HYR5-2灰黄褐色	シルト		

#### SK41 (第21図)

G6 グリッドに位置する。重複する Pit43 より古い。擾乱によって北東側が失われている。規模は  $0.75 \times (0.7)$  m である。断面形は皿状形である。深さは 17cm である。堆積土は 3 層に分層した。

#### SK42 (第21図)

H5 グリッドに位置する。重複する SK29 より古く、SK50, Pit183・184・230 より新しい。擾乱により南側が失われている。平面形は隅丸方形と推測され、規模は  $1.77 \times (1.48)$  m である。断面形は U 字形で北側に段がつく。深さは 46cm である。底面には多少の起伏があるが、ほぼ平坦である。堆積土は 2 層に分層した。

#### SK43 (第21図)

H・L2 グリッドに位置する。重複する SK44 より古い。平面形は不整形で、北西部調査区外へ続く。断面形は不整形の皿状形である。深さは 30cm である。堆積土は 5 層に分層した。遺物は土器の壺(第24図-3)と須恵器の壺(第24図-4)、土製品(第24図-5)が出土している。土器の壺は外面ロクロナデ、内面はヘラミガキ調整の後、黒色処理が施されている。口縁端部が若干厚みを持つ。須恵器の壺は焼成が甘く、全体的に赤い。底部は回転系切の痕跡がある。土製品は直方体で、表面に浅い窪みがあり、断面に粘土を積んだ痕跡がある。部分的に被然痕がある。

#### SK44 (第21図)

I2 グリッドに位置する。重複する SK43 より新しい。平面形は長楕円形と推測され、北西部調査区外へ続く。規模は  $(0.52) \times 0.59$  m である。断面形は逆台形で、深さは 31cm である。堆積土は 5 層に分層した。遺物は須恵器の甕(第24図-6)が出土している。二次焼成を受けており、剥離が激しい。

#### SK46 (第21図)

H3・4 グリッドに位置する。擾乱によって南西側が失われている。規模は  $(1.07) \times 0.35$  m である。断面形は U 字形である。深さは 28cm である。堆積土は 3 层に分層した。

#### SK48 (第20図)

G4 グリッドに位置する。重複する Pit111 より古く、SK18 より新しい。平面形は隅丸長方形で、規模は  $1.57 \times 1.09$  m である。断面形は長方形で、深さは 1.18 m である。底面には多少の起伏があるが、ほぼ平坦である。堆積土は 5 層に分層した。

SK49 (第21図)

H4 グリッドに位置する。平面形は隅丸方形で、規模は  $0.88 \times 0.75$  m である。断面形は逆台形で、深さは 32cm である。底面は南東側にやや下るが、平坦である。堆積土は 1 層である。

SK50 (第22図)

G6・H5・6 グリッドに位置する。重複する SK42、Pit183・184・186・188 より古い。平面形は隅丸長方形で、規模は  $1.79 \times 1.46$  m である。断面形は皿形で、深さは 30cm である。底面は平坦である。堆積土は 3 層で、1 層目にはい黄橙色土のブロックを多量に含む人為堆積である。

SK51 (第21図)

J2・3 グリッドに位置する。重複する SK24 より古い。擾乱により中央部が失われている。規模は  $2.42 \times (1.02)$  m である。断面形は皿状で、深さは 13cm である。堆積土は 1 层である。

SK52 (第21図)

J3 グリッドに位置する。擾乱により南側が失われているが、平面形は梢円形と推測される。規模は  $0.71 \times (0.33)$  m である。断面形は長方形で、深さは 25cm である。堆積土は 3 層で、明黄褐色土のブロックやい黄橙色土のブロックを含む人為堆積である。

SK53 (第21図)

J3 グリッドに位置する。重複する SK24 より古い。規模は  $0.76 \times (0.70)$  m で、南西側調査区外に続く。断面形は長方形で、深さは 29cm である。底面はわずかに起伏がみられる。堆積土は 4 層で、1 層目に明黄褐色土のブロックが多量に含まれている。

SK54 (第22図)

I・J3 グリッドに位置する。重複する Pit196 より古い。擾乱により上層が失われている。平面形は隅丸長方形で、規模は  $0.84 \times 0.65$  m である。断面形は皿状形で、深さは 13cm である。堆積土は 2 層である。遺物は古墳時代の土師器の壺（第24図-7）と瓶（第24図-8）が出土した。東側の底面からは壺の体部が出土した。出土状況と堆積土の状況からは、原位置を保っていないと考えられる。土師器の壺は胴部から底部である。胴の径にくらべ、底径が小さめである。瓶は、底部は丸みを帯び、多孔式である。口縁部は外反して立ち上がり端部を丸くおさめる。

SK55 (第22図)

H3 グリッドに位置する。重複する Pit198 より古い。東側が擾乱で失われているが、平面形は不整梢円形と考えられる。規模は  $1.62 \times (1.02)$  m である。断面形は台形で、深さは 28cm である。堆積土は 2 層である。遺物は土師器（第24図-9～第25図-1～5）が出土した。主な器種は壺で、古墳時代のものと考えられる。堆積土中には、壺の上部が横向きで破片になって入っていた。中央の底面には壺がつぶれたように、破片となって広がっていた。出土状況からは、底面のものはほぼ原位置で壊されたと考えられる。壺は 5 点（第24図-9、第25図-1～4）が出土した。第24図-9は、ほぼ完形の壺である。調整は内外面ともに、口縁部ヨコナデ調整、体部はヘラナデの後一部ヘラミガキ調整される。丸い体部から屈曲して、口縁部は外反する。底部は厚みがあり、底面は若干窪む。瓶（第25図-5）は底部をきれいに打ち欠いており、壺から転用された瓶である。頸部でくびれ、口縁部は外反して立ち上がる。

SK56 (第22図)

I4・5 グリッドに位置する。重複する Pit140 より古い。擾乱により北東側が失われている。平面形は不整形で、規模は  $(2.90) \times 1.65$  m である。断面形は中央部が窪む皿形で、深さは 13cm である。堆積土は 1 層である。青磁の碗（第25図-6）が出土している。鎧運弁文の碗である。

## SK59

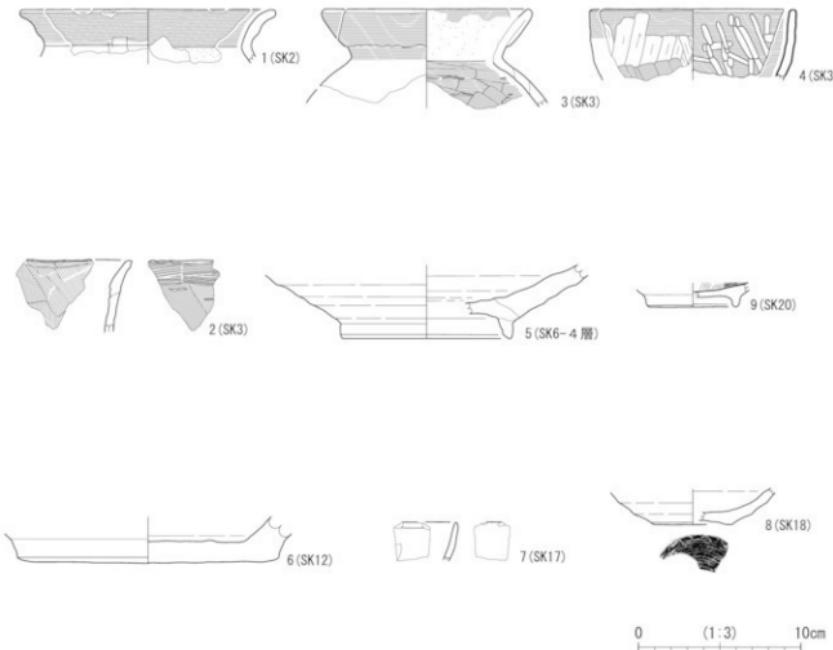
F5 グリッドに位置する。重複する SI4、SI4 - SD2、Pit260 より古く、SK60 より新しい。断面形は皿形で、深さは 19cm である。底面はかなり起伏がある。堆積土は 2 層に分層した。

## SK60（第 22 図）

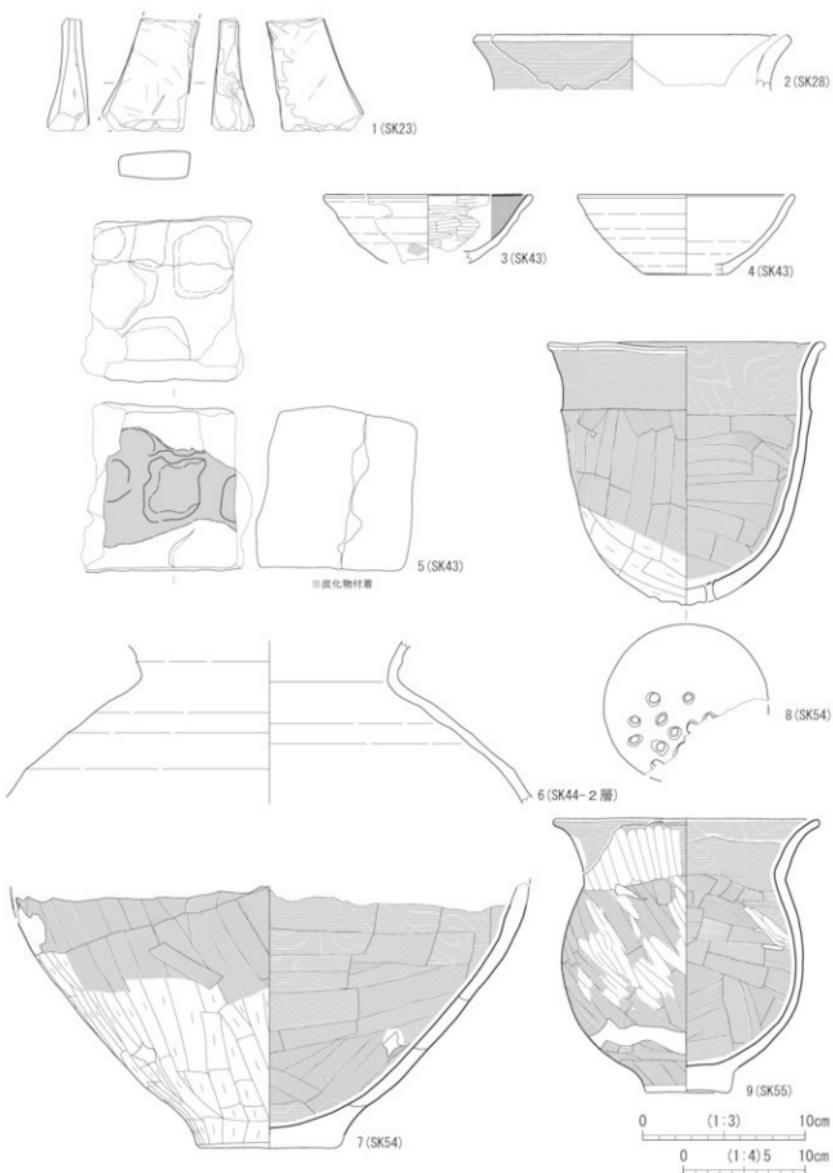
F5 グリッドに位置する。重複する SII ~ 4、SK58・59、Pit55・56・57 より古い。断面形は起伏のある皿形で、深さ 15cm である。堆積土は 2 層である。こぶし大以下のにぼい黄橙色土のブロックを多量に含む人為堆積である。遺物は土製品の土玉（第 25 図 - 7）が出土している。中心に直径 7mm 程度の孔が穿たれる。そのほか鉄滓が出土している。

## SK61（第 22 図）

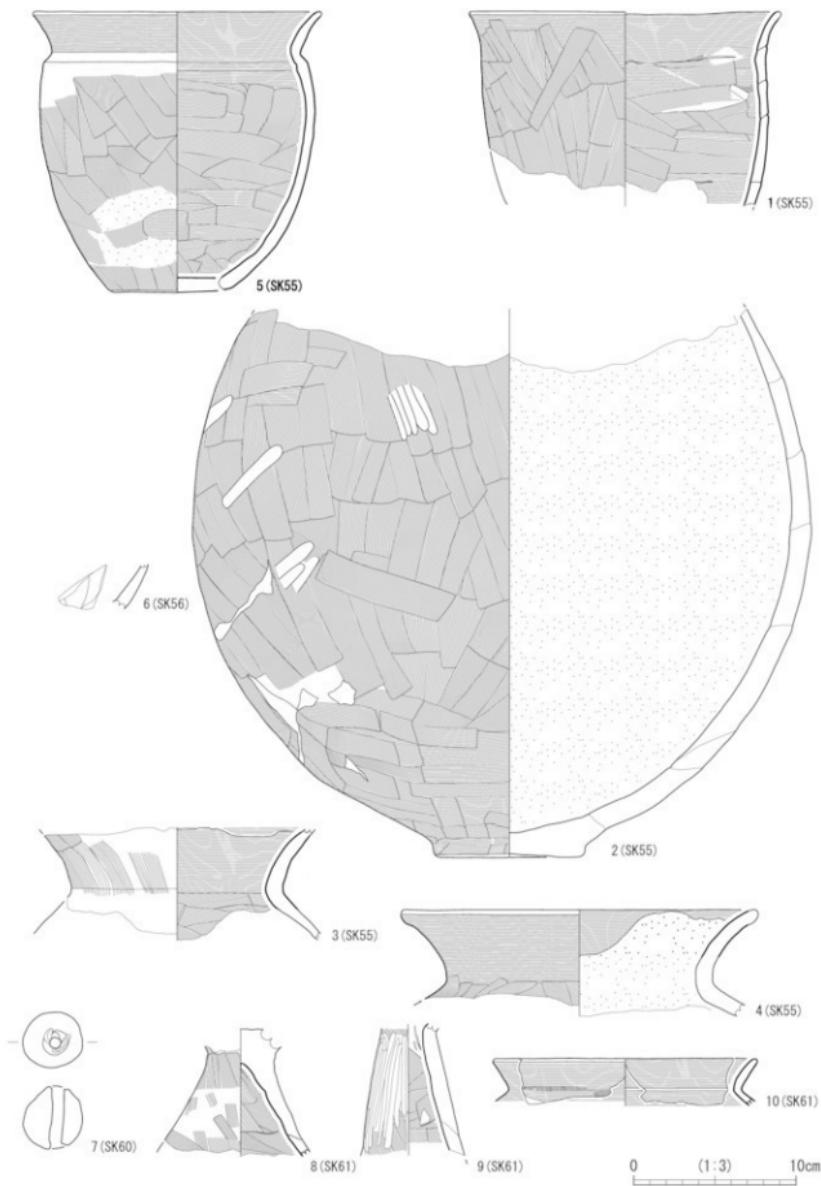
K4・5 グリッドに位置する。擾乱により上層が失われている。平面形は円形で、規模は 0.65 × 0.59 m である。断面形は漏斗形で、深さは 51cm である。堆積土は 3 層である。遺物は土師器の高坏（第 25 図 - 8・9）と甕（第 25 図 - 10）が出土している。高坏は脚部片で、8 は内外面ともにヘラナデ、一部にユビナデ調整される。9 は外面の調整はヘラナデ調整の後に縦方向のヘラミガキを施す。10 の甕は口縁部から頸部のみ残存する。調整はヨコナデであるが、頭部外面にハケ目調整が残る。



第 23 図 SK 土坑出土遺物（1）



第24図 SK 土坑出土遺物（2）



第25図 SK 土坑出土遺物（3）

国版 番号	登録 番号	出土地	層位	種別	器種	部位	時期	法量(cm)			外面調整 (文様)	内面調整 (文様)	備 考	写真 図版
								口徑	底径	高さ				
23-1	C-02	SK2	-	土師器	甕	口縁部	古墳	158	-	(33)	口縁部ヨコナデ 底部ハラナデ	ヨコナデ		11.6
23-2	C-05	SK3	-	土師器	甕	口縁部	古墳	-	-	(44)	口縁部ヨカタズリ 底部ヨコナデ 脚部ハラナデ	口縁部ヨカタズリ 口縁部ヨコハタメ 脚部ハラナデ		11.7
23-3	C-07	SK3	-	土師器	甕	口縁部～肩部		126	-	(61)	口縁部ヨコナデ 底部ハラナデ→ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 脚部ハラナデ		11.8
23-4	C-08	SK3	-	土師器	甕	口縁部		124	-	(41)	口縁部ヨコナデ 底部ハラナズリ→ハラナズ	ヨコナズリ→ハラナズ		11.9
23-5	I-03	SK6	4層	陶器	甕	底部	-	104	-	(38)	ヨクロナデ	ヨクロナデ		11.10
23-6	I-04	SK12	-	陶器	甕	底部	-	163	-	(28)	ヨクロナデ	-		11.11
23-7	J-01	SK17	-	骨器	筒	口縁部	-	-	-	(24)	-	-		11.12
23-8	D-01	SK18	-	陶器	甕	底部～近部	-	48	-	(22)	底部ヨコナデ 底部回転式切	ヨコナデ		11.13
23-9	C-06	SK20	-	土師器	高台付仔	底部	-	54	-	(34)	-	ヘラミギキ	内面黒色処理	11.14
24-2	C-07	SK28	-	土師器	甕	口縁部	古墳	192	-	(34)	ヨコナデ	洞壁により不明		11.15
24-3	D-02	SK42	-	土師器	甕	底部欠損	平安	124	-	(42)	ヨクロナデ・ナデ	ヘラミギキ	内面黒色処理	11.16
24-4	D-03	SK43	-	陶器	甕	-	(154)	5.0	4.9	-	底部ヨコナデ 脚部ハラナズ	ヨコナデ		11.17
24-6	E-01	SK44	2層	瓦器	甕	加部～近部	-	-	(100)	ヨクロナデ	ヨクロナデ		12.1	
24-7	C-09	SK54	-	土師器	甕	脚部～底部	-	8.8	-	(35)	ケズリヨハナデ	ヘラナズ	内面二次焼成	12.2
24-8	C-08	SK54	-	土師器	甕	口縁部～底部	168	-	162	-	口縁部ヨコナデ 脚部ハラナズリ	ヨコナデ		12.3
24-9	C-10	SK55	-	土師器	甕	全体	古墳	164	5.3	169	口縁部ヨコナデ→ヘリガ 脚部ハラナズ・ヨカタ	ヨコナデ		12.4
25-1	C-12	SK55	-	土師器	甕	口縁部～脚部	古墳	192	-	(319)	口縁部ヨコナデ→ 脚部ハラナズ	ヨコナデ	脚部ハラナズ	12.5
25-2	C-15	SK55	-	土師器	甕	口縁部欠損	-	92	-	(337)	脚上部ハラナズ→ヘリガ 脚部ハラナズ	内面焼成		12.6
25-3	C-13	SK55	-	土師器	甕	口縁部～脚部	古墳	169	-	(63)	口縁部ハラナズ	ヨコナデ		12.7
25-4	C-14	SK55	-	土師器	甕	口縁部	(220)	-	-	(64)	口縁部ヨコナデ 脚部ハラナズ	ヨコナデ		12.8
25-5	C-11	SK55	-	土師器	甕	底部欠損	-	175	7.2	173	口縁部ヨコナデ 脚部ハラナズ	ヨコナデ		12.9
25-6	J-02	SK56	-	骨器	筒	-	-	-	-	(27)	-	-	麻布充て	13.2
25-8	C-17	SK61	-	土師器	高所	脚部	古墳	-	-	(7.8)	ヘラナズ 脚部ヨカタ	ヨコナデ		13.5
25-9	C-16	SK61	-	土師器	高所	脚部	古墳	-	-	(8.2)	脚部ハラナズ→ヘリガ 脚部ハラナズ	ヨコナデ		13.6
25-10	C-18	SK61	-	土師器	甕	口縁部	古墳	158	-	(26)	口縁部ヨコナデ 脚部ハラナズ→ヨコナデ	ヨコナデ		13.4

国版 番号	登録 番号	出土地	層位	種別	器種	部位	時期	法量(cm)			外面調整	内面調整	備 考	写真 図版
								長さ	幅	厚さ				
24-5	F-06	SK63	-	土製品	直方体土製品	-	不明	14	139	132	-	-	脚み机あり	11.19

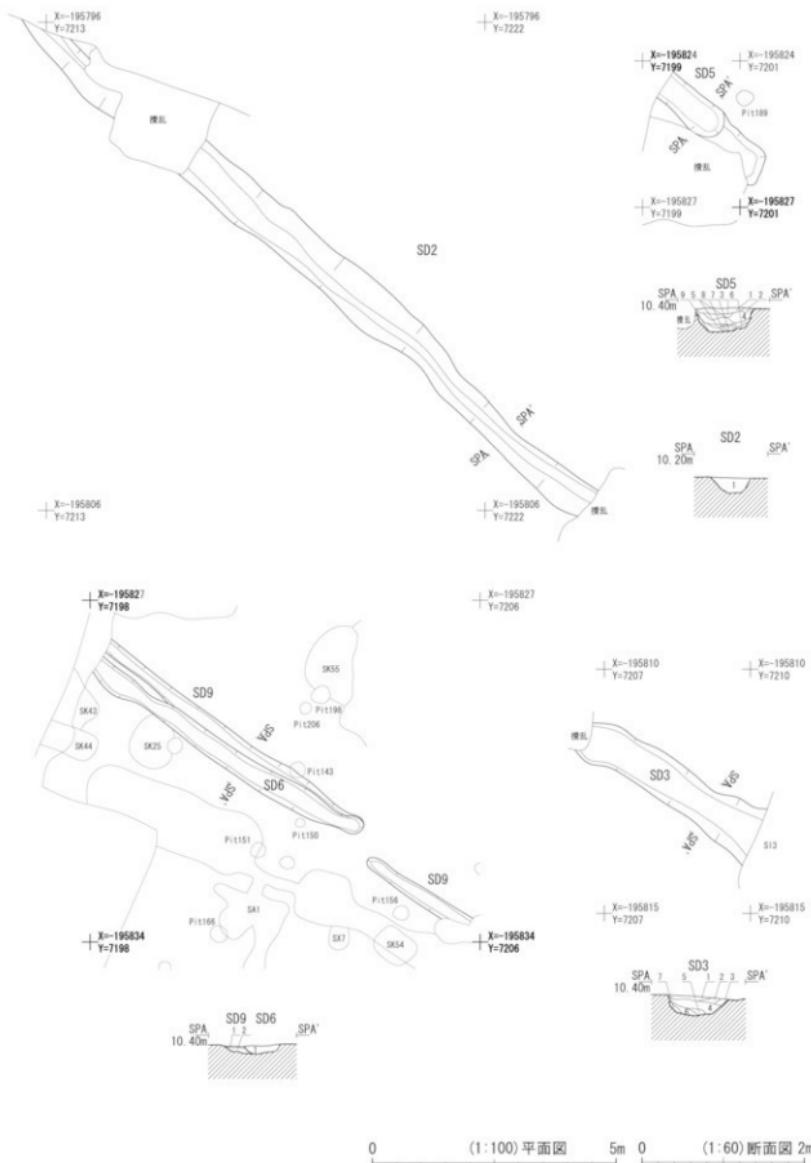
国版 番号	登録 番号	出土地	層位	種別	器種	部位	時期	法量(cm)			外面調整	内面調整	備 考	写真 図版	
								直体	全長	孔径					
24-4	K-14	SK23	-	石製品	石	-	-	(7.00)	5.85	2.55	99.6	脚底孔 脚底孔は3面下端欠損	-	脚み机あり	11.18

## 5. 溝跡

12条の溝跡を検出した。調査区の北側で検出したSD11・12・13は、南小泉遺跡第62次で確認されたSD22・25・26溝跡のつづきである。

### SD2（第24回）

北端部に位置する。重複するSR1より新しい。攪乱により北西・南東部が失われている。第62次調査で確認されたSD20の延長と考えられる。規模は、検出長14.6 m、上端幅0.5 ~ 0.96 m、下端幅0.08 ~ 0.48 mである。断面形は逆台形で、深さは約19cmである。底面は東に向かって傾斜する。



第26図 SD溝跡(1)

#### SD3（第26図）

中央部西側に位置する。重複するSI3より古い。攪乱により北西部が失われている。規模は検出長3.93m、上端幅0.74～1.26m、下端幅0.41～0.8mである。断面形は弧状形で、深さは26cmである。底面は南東に向かって傾斜する。遺物は鏡形の石製模造品（第29図-1）が出土している。

#### SD5（第26図）

南西部に位置する。攪乱により南東部が失われている。規模は検出長2.7m、上端幅0.61～0.72m、下端幅0.43～0.44mである。断面形は逆台形で、深さは30cmである。

#### SD6（第26図）

南西部に位置し、調査区外へ西に延びる。重複するSD9・Pit190より新しい。規模は検出長6.37m、上端幅0.26～0.5m、下端幅0.17～0.35mである。断面形は皿状形で、深さは10cmである。遺物は土師器の坏（第29図-2）、陶器の壺（第29図-3）が出土している。土師器の坏は、外面はロクロナデ調整、内面はヘラミガキ調整の後、黒色処理が施される。陶器の壺は、外面はナデ調整であるが、内面は剥離しており調整は不明である。

#### SD7（第27図）

南部に位置し、調査区外へ東に延びる。重複するPit193・194・201より新しい。規模は検出長8.63m、上端幅0.23～0.79m、下端幅0.14～0.57mである。断面形は皿形で、深さは12cmである。

#### SD8（第27図）

南部に位置し、調査区外へ東に延びる。重複するSX6より古い。規模は検出長8.95m、上端幅0.76～0.97m、下端幅0.44～0.72mである。断面形は皿形で、深さは19cmである。遺物は瓦（第29図-4）が出土した。丸瓦で、凸面は繩目の後の叩き痕、凹面は布目痕を残す。側縁はケズリ調整される。

#### SD9（第27図）

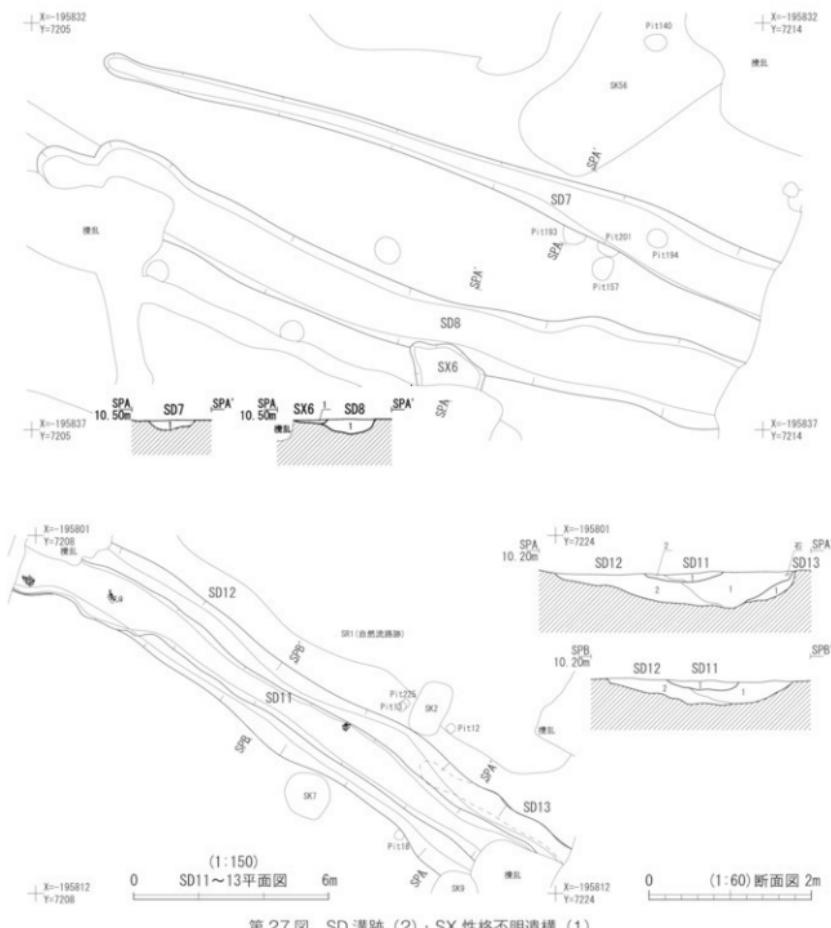
南西部に位置し、調査区外へ西に延びる。重複するSD6より古い。規模は検出長9.60m、上端幅0.25～0.35m、下端幅0.13～0.23mである。断面形は皿形で、深さは9cmである。

#### SD11（第27図）

北部に位置し、調査区外へ延びる。重複するSD12・13より新しい。第62次調査で確認されたSD22と同じ溝跡である。規模は検出長18.4m、上端幅0.87～1.64m、下端幅0.59～1.4mである。断面形は皿状形で、深さは13cmである。堆積土は2層で、浅黄橙色土のブロックを多量含む人為堆積である。遺物は底面から石製品の管玉（第29図-5）が出土している。

#### SD12（第27図）

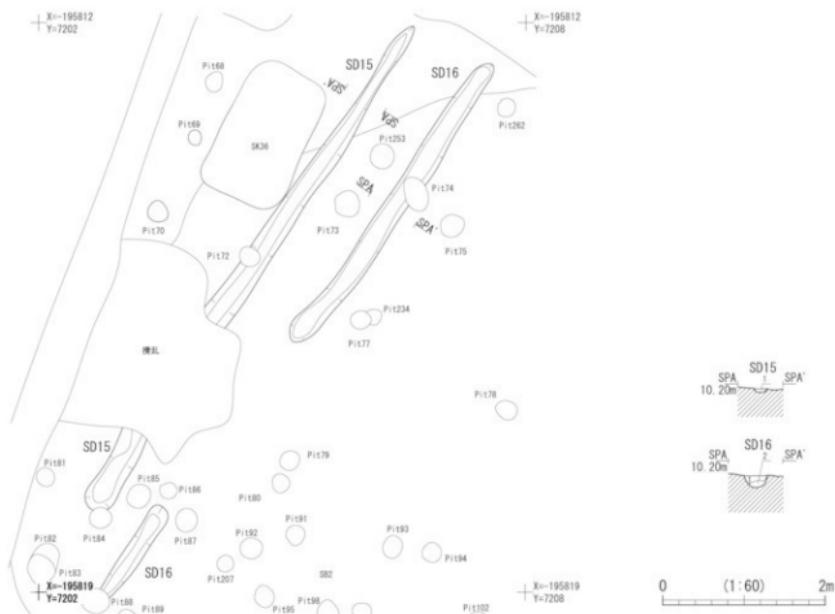
北部に位置する。重複するSD11より古く、SD13より新しい。第62次調査で確認されたSD25と同じ溝跡である。検出した規模は、検出長19.26m、上端幅2.11～3.04m、下端幅1.62～2.15mである。断面形は皿状形で、深さは33cmである。遺物は弥生土器（第29図-6）、土師器（第29図-7～10・第30図-1）や須恵器（第29図-11）、石製模造品（第29図-12～14）が出土した。弥生土器は、壺形土器の頭部と思われる。3条一単位の沈線文が施される。古墳時代の土師器の高坏7・8は坏部、9は脚部である。そのほか壺（第29図-10・第30図-1）が出土している。須恵器は器台の脚部である。突帶と突帶の間に櫛書きの波状文が施される。石製模造品の劍形12と、鏡形13・14が出土している。12は、鏡ではなく平坦だが、片面には刃の表現がなされている。13は、両面とも左穴の穿孔位置を変更している。



第27図 SD溝跡(2)・SX性格不明遺構(1)

## SD13 (第27図)

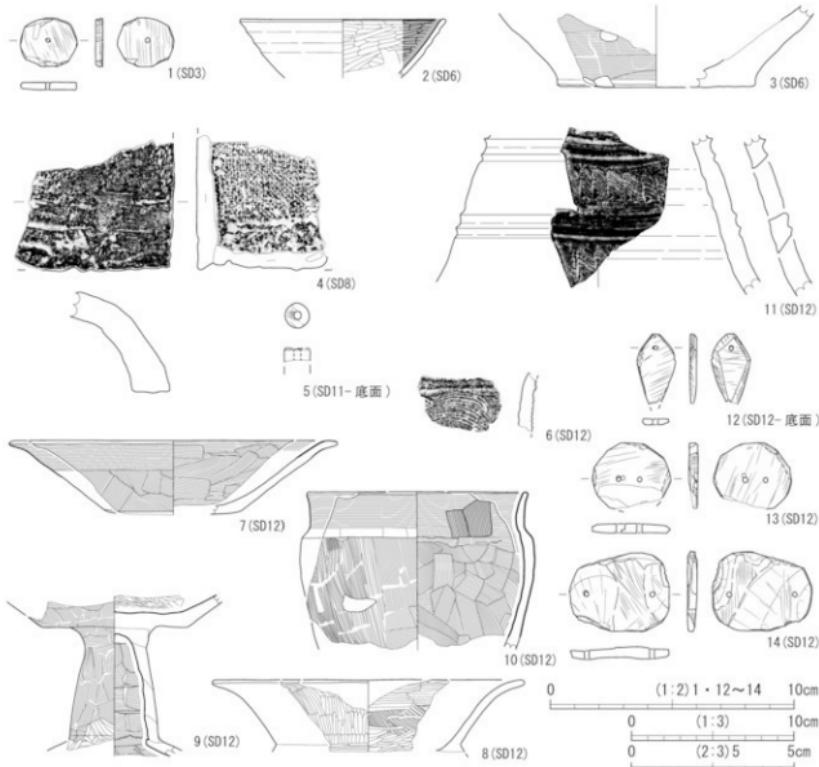
北部に位置する。重複する SD12 より古い、第62次調査で確認された SD26 と同じ溝跡である。上端の一部が SD12 の上端と重なって検出した。大半が SD12 により失われており、調査区の東側で残存していた。規模は、残存長 5.37 m、上端幅 0.38 ~ 0.64 m、下端幅 0.2 ~ 0.53 m である。深さは 37cm である。堆積土は 1 層で、褐灰色土のブロックを多量に含む人為堆積である。遺物は有孔石製品（第30図-2）が出土している。



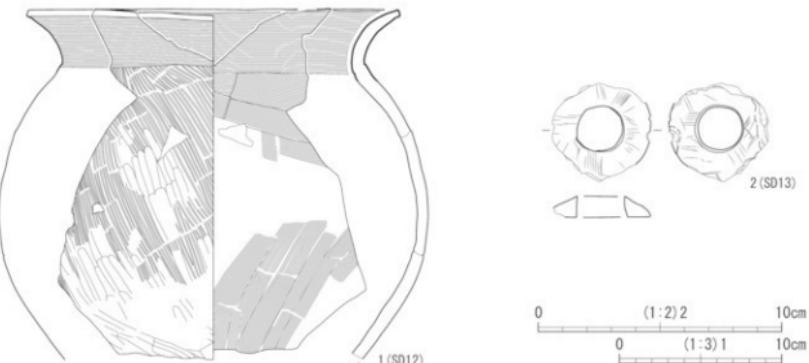
遺構名	グリッド	方向	規模(cm)			層位	土色	土性	考	重複					
			全長	上端幅	下端幅										
SD2	BS-6, CS-7, DS-7	N50°W	(160)	30~96	8~48	19	1	10Y30E-2系黃褐色	シホト	発達した鉢形を有する含む。炭化物-含む。	SH1より新しい。傾斜で北西-南東部が失われている。				
							1	10YR4-1 黄褐色	シホト	基本V型を基調とした黄褐色プロック、砂を含む。					
			(280)	74~126	41~80	26	2	10YR5-1 黄褐色	シホト	基本V型を基調とした黄褐色プロックを有する3%含む。砂を含む。					
							3	10YR5-2 黄褐色	シホト	風化ブロックを有する3%含む。砂を含む。					
							4	10YR5-1 黄褐色	シホト	基本V型を基調とした黄褐色プロックを30%含む。遺物-炭化物を含む。	SD1より古い。傾斜で北西部が失われている。				
							5	10YR5-2 黄褐色	シホト	砂や粘質繊維、砂を含む。					
							6	10YR5-2系黃褐色	シホト	風化ブロックを有する3%含む。砂を含む。					
			(270)	61~72	43~44	30	7	23YY4-1 黄褐色	シホト	基本V型を基調とした黄褐色プロック(10mm程度)を3%含む。					
SD5	H2	N40°W					1	10YR6-4 に赤い黃褐色	シホト	赤い黄褐色 1 - 10mm 程度)、炭化物-ブロック (10mm 程度) を含む。					
							2	10YR6-4 に赤い黃褐色	シホト	同上。					
							3	10YR6-3 に赤い黃褐色	シホト	褐色 1 - (20mm 程度)、を少量含む。					
							4	10YR4-1 黄褐色	シホト	褐色 1 - (20mm 程度)、を少量含む。					
							5	10YR6-3 に赤い黃褐色	シホト	褐色 1 - ブロック (10mm 程度) を少含む。	傾斜で南東部が失われている。				
							6	10YR5-2 黄褐色	シホト	褐色 1 - ブロック (10mm 程度) を少含む。					
							7	10YR7-6 黄褐色	シホト	同上。					
							8	10YR6-2 黄褐色	シホト	炭化物 (30mm 程度) を少含む。					
							9	10YR6-3 に赤い黃褐色	シホト	褐色 1 - ブロック (10mm 程度) を少含む。					
SD6	H2, D2, E2	N50°W	(627)	26~30	17~25	10	1	10YR4-2 黄褐色	シホト	赤い黄褐色 1 - (20mm 程度) を含む。	SD1-P190 2より新しい。				
SD7	D3-5, J4-5	N60°W	(862)	23~79	14~57	12	1	10YR4-1 黄褐色	シホト	明瞭褐色 1 - (10mm 程度) を少含む。	P193~194~201より新しい。				

第28図 SD溝跡(3)

遺構名	グリッド	方向	規模(cm)				層位	土色	土性	備考	重複
			全長	上端幅	下端幅	深さ					
SD6	13・4、 13・5	N44°W~ N77°W	(895)	76~97	44~72	19	1	H07R5-1 黄灰色	シート	褐黃褐色土ブロック(30mm程度)を含む。	SD6より古い。
							1	H07R4-1 黄灰色	シート	軟化した鉄分を含む。	
SD9	E2, E2・3	N35°W	960	25~35	13~23	9	2	H07R5-3 に赤黄褐色	シート	褐灰色土ブロック(30mm程度)を含む。	SD6より古い。
SD11	C4・5, D4 -7, E6・7	N56°W	(1840)	87~164	39~140	13	1	H07R6-1 黄灰色	シート	褐黃褐色土ブロック(10mm程度)と軟化した鉄分を多く含む。火薬物(5mm程度)を微量含む。	SD12~13より古い。
							2	H07R6-2 黒黄褐色	シート	淡黄褐色土ブロック(10mm程度)を多量含む。炭化物(5mm程度)を微量含む。	
SD12	C4・5, D4 -7, E6・7	N56°W	(1926)	231~304	162~215	33	1	H07R5-2 黑黄褐色	シート	褐灰色土ブロック(10mm程度)と軟化した鉄分を多量に含む。	SD11より古い。SD13より新しい。
							2	H07R5-2 黑黄褐色	シート	褐灰色土ブロック(10mm程度)と軟化した鉄分を含む。	
SD13	D6・7, E6・7	N56°W	(327)	38~64	20~53	37	1	H07R6-2 黑黄褐色	シート	褐灰色土ブロック(30mm程度)を多量に含む。	SD12より古い。
SD15	E3, F3	N35°E	(440)	14~36	9~16	5	1	H07R4-1 黄灰色	シート	灰白色土ブロック(5mm程度)を微量含む。	
SD16	E3・4, F3	N34°E	820	16~28	9~22	15	1	H07R5-1 黄灰色	シート	褐黃褐色土ブロック(10mm程度)を含む。	Pd72より古い。
							2	H07R4-1 黄灰色	シート	褐黃褐色土ブロック(10mm程度)を含む。	



第29図 SD溝跡出土遺物（1）



第30図 SD溝跡出土遺物（2）

## SD15（第28図）

中央部西側に位置する。重複する Pit72 より古い。攪乱により一部が失われている。規模は検出長 4.4 m、上端幅 0.14 ~ 0.36 m、下端幅 0.09 ~ 0.16 m である。断面形は皿形で、深さは 5cm である。

## SD16（第28図）

中央部西側に位置する。重複する Pit74 より古い。北東 - 南西方向に延びるが、南側で一部途切れる。規模は長さ 8.20 m、上端幅 0.16 ~ 0.28 m、下端幅 0.09 ~ 0.22 m である。断面形は U 字形で、深さは 15cm である。

調査 番号	登録 番号	出土地	層位	種別	器種	部位	時期	法量 (cm)			外面調整 (文様)	内面調整 (文様)	備 考	写真 図版
								口径	底径	器高				
29-2	D-01	SD6	-	土縫器	环	底部欠損		12.4	-	(10)	ロクロナデ	ハラミガキ	内面黒色処理	14-2
29-3	I-05	SD6	-	土縫器	環			-	12.1	(5.0)	ナデ	-	-	14-3
29-6	B-01	SD12	-	土縫器	環	底生中間		-	-	(3.15)	丸頭文	-	-	14-4
29-7	C-19	SD12	-	土縫器	環	环部	古墳	18.9	-	(4.4)	口縫ヨコナデ	口縫ヨコナデ	内面黒色処理	14-7
29-8	C-20	SD12	-	土縫器	環	环部	古墳	19.2	-	(4.4)	ハラミガキ	ハラミガキ	二次焼成	14-8
29-9	C-21	SD12	-	土縫器	高环	口縫部~腹部	古墳	-	-	(9.9)	环部・腰部ヨコナデ	环部・腰部ヨコナデ	内面黒色処理	14-9
29-10	C-22	SD12	-	土縫器	腰	口縫部~脚部	古墳	13.6	-	(9.7)	口縫ヨコナデ	腰部ハラミガキ	内面黒色処理	14-10
29-11	E-02	SD12	-	土縫器	腰	脚部		-	-	(9.3)	ロクロナデ	ロクロナデ	意あり	14-11
30-1	C-23	SD12	-	土縫器	腰	口縫部~脚部		23.2	-	21.0	口縫ヨコナデ	腰部ハラミ→ミガキ	内面黒色処理	15-1

調査 番号	登録 番号	出土地	層位	種別	器種	部位	時期	法量 (cm)			外面調整 (文様)	内面調整 (文様)	備 考	写真 図版
								長さ	幅	厚さ				
29-4	F-01	SD8	-	瓦	瓦	-		(8.3)	(6.1)	2.3	縄目→叩き板	布目板 ケズリ 圓錐ケズリ	-	14-6

調査 番号	登録 番号	出土地	層位	種別	器種	時期	法量 (cm)			石材	備 考	写真 図版	
							長さ	幅	厚さ (mm)				
29-1	K-07	SD3	-	石製品	石製機造品	古墳	23	2	0.3	滑石	鏡面	-	14-1
29-5	K-08	SD1	瓦面	石製品	管	古墳	(0.4)	0.8	-	滑石	鏡面欠損	-	14-2
29-12	K-09	SD12	瓦面	石製品	石製機造品	古墳	(2.9)	1.6	0.25	滑石	鏡面	-	14-2
29-13	K-10	SD12	-	石製品	石製機造品	古墳	3.2	(2.7)	0.35	滑石	鏡面	-	14-3
29-14	K-11	SD12	-	石製品	石製機造品	古墳	4.1	3.2	0.465	滑石	鏡面	-	14-4
30-2	K-12	SD3	-	石製品	木型	-	(4.05)	(4)	0.85	120	鏡灰岩 内孔あり	-	15-2

## 6. 性格不明遺構

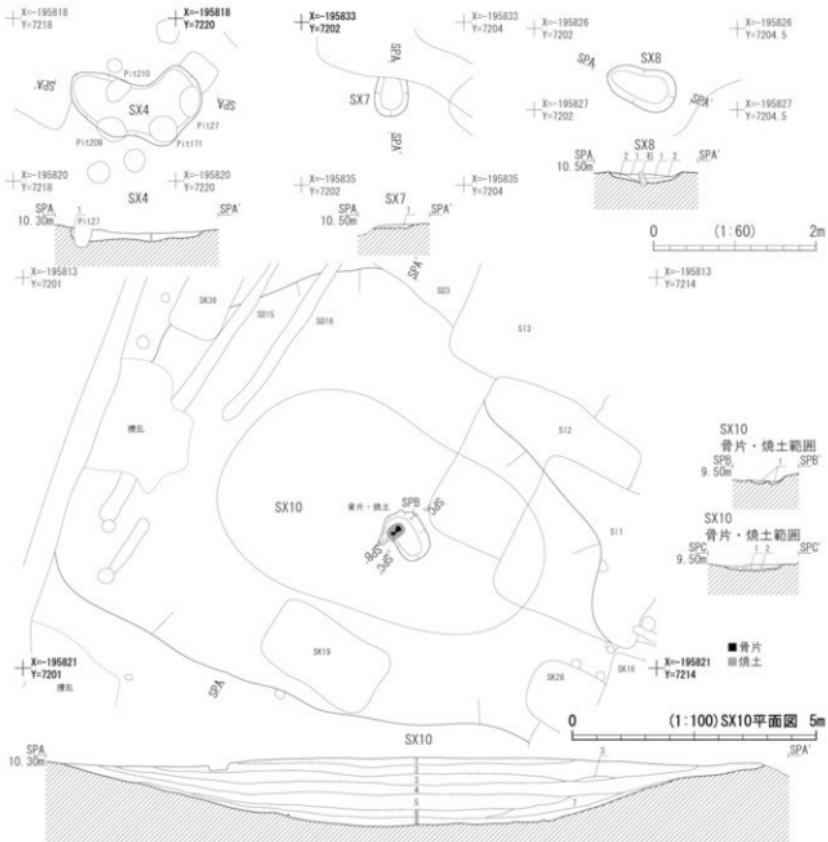
今回の調査では6基検出されており、そのうち5基を掲載した。

### SX4（第31図）

F6～G6グリッドに位置する。重複するPit27・171より古く、SI5、Pit209・210より新しい。平面形は不整形で、規模は長軸1.62m、短軸0.63～1.00mである。断面形は皿形で、深さは18cmである。堆積土は1層である。

### SX6（第27図）

J4グリッドに位置する。重複するSD8より新しい。擾乱により南部が失われている。平面形は不整形で、規模は長軸1.03m、短軸(0.65)mである。断面形は皿形で、深さは4cmである。堆積土は1層である。



第31図 SX性格不明遺構(2)

## SX7 (第31図)

I・J3 グリッドに位置する。擾乱により北部が失われている。平面形は隅丸長方形と推測され、規模は長軸 (0.42) m、短軸 0.42 m である。断面形は皿形で、深さは 5cm である。堆積土は 1 層である。

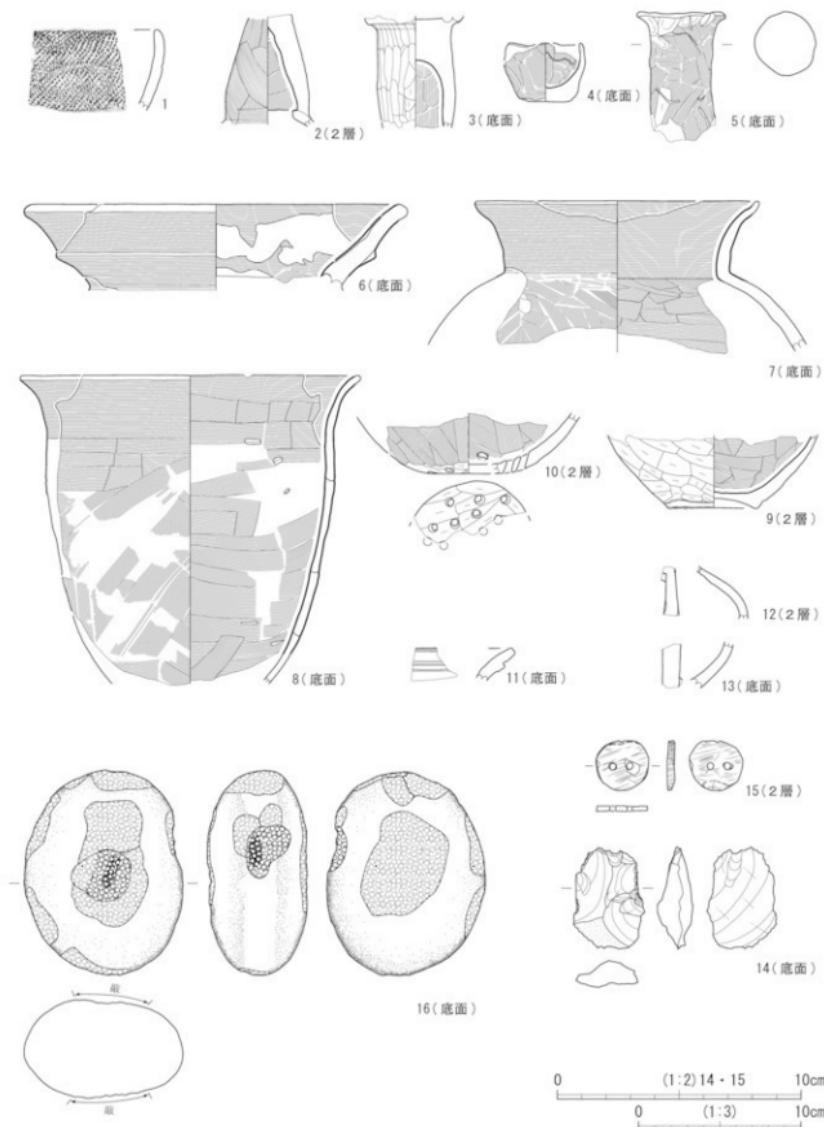
## SX8 (第31図)

H3 グリッドに位置する。平面形は不整梢円形で、規模は長軸 0.88 m、短軸 0.39 ~ 0.52 m である。断面形は弧状形で、深さは 13cm である。堆積土は 2 層に分層した。

## SX10 (第31図)

E3・4、F2 ~ 5、G3 ~ 5 グリッドに位置する。重複する竪穴建物跡や掘立柱建物跡、溝跡やビットや土坑などより古い。規模は長軸 11.58 m、短軸 8.86 m である。深さは 84cm である。8 グリッドにまたがる、断面形が皿状形の大規模な窪みである。堆積土は 8 層に分層され、自然堆積である。また、中央部の底面では、骨片や炭化物・焼土範囲を検出し、10mm 程度の骨片が多量出土している。遺物は縄文土器の深鉢の口縁部（第32図-1）、土師器の高杯（第32図-2・3）や甕（第32図-6 ~ 8）、壺（第32図-9）や瓶（第32図-10）、須恵器（第32図-11 ~ 13）、ミニチュア土器（第32図-4）、支脚（第32図-5）、石器（第32図-14）、石製模造品（第32図-15）、礫石器（第32図-16）などが出土した。1 は縄文土器の口縁部で、外面には LR 縄文が施される。2 は高杯の脚部である。脚部と据部の接続痕が明瞭に遺る。6 は甕の口縁部である。形状は外反し、二重口縁となる。7 は土師器の甕である。口縁部から頸・肩部にかけて残存する。口縁部は外反して立ち上がり、端部で若干内湾させている。8 は底部のみ欠損する。器壁は比較的薄く、口縁部は外反し端部を丸くおさめる。9 は壺の底部である。底面を窪ませた底部を持つ。10 は瓶の底部片である。内外面ともにヘラナデ調整で、外面底部にはヘラケズリを残す。底部に直径 5mm ほどの孔が空たれる。11 は須恵器の口縁部で、二重口縁となる。12・13 は須恵器の二重巻の胴部である。4 はミニチュアの土器で、内外面ともにユビナデが施されている。5 はかまどの支脚である。14 は二次加工がある剥片である。15 は鏡形の石製模造品である。16 は敲石である。表裏面の中央部分と側面に敲打痕がある。

遺構名	グリッド	方 向	規模 (cm)			層位	土 色	土性	備 考	重 観
			長軸	短軸	深さ					
SX7	F6 ~ G6	-	162	63 ~ 100	18	1	10YRS-2 黒灰褐色	シルト	褐灰色土ブロック (30mm 程度) を少量含む。	P427・I71より古い。S5, P429
SX8	H4	-	103	(65)	4	1	10YRS-1 褐灰色	シルト	明灰褐色土ブロック (30mm 程度) を含む。	SDRより新しい。標準で南部が窪んでいる。
SX7	I・J3	-	(42)	42	5	1	10YRT-4 (C4)-1 黒褐色	シルト	褐灰色土ブロック (30mm 程度) を含む。塊状ブロック (10mm 程度) を少量含む。	標準で北部が窪んでいる。
SX8	H3	N70°-W	88	39 ~ 52	13	1	10YRS-2 黒灰褐色	シルト	泥化物 (5mm 程度) を幾層。酸化した鉄分を含む。	
						2	10YRS-2 黒灰褐色	シルト	泥化物 (5mm 程度) を少量含む。	
SX10	E3・4、F2 ~ 5、 G3 ~ 5	-	11.58	8.86	84	1	10YRT-2 にぶい黒褐色	シルト	にぶい黒褐色土 (10mm 程度) を多量に含む。褐色土 (10mm 程度) を含む。酸化した鉄分を含む。	
						2	10YRS-1 褐灰色	シルト	にぶい黒褐色土 (10mm 程度) を多量に含む。褐色土 (10mm 程度) を含む。酸化した鉄分を含む。	
						3	10YRS-1 褐灰色	シルト	酸化した鉄分を多量に含む。土器を多量に含む。	
						4	10YRS-2 黒灰褐色	シルト	褐灰色土ブロック (30mm 程度) を少量含む。土器を多量に含む。	あらゆる遺構よりも古い。
						5	10YRS-2 黒褐色	シルト	にぶい黒褐色土ブロック (10mm 程度) を少量含む。	
						6	10YRS-2 黒灰褐色	シルト	にぶい黒褐色土ブロック (30mm 程度) を少量含む。	
						7	10YRS-2 黒灰褐色	シルト	にぶい黒褐色土ブロック (10mm 程度) を多量に含む。酸化した鉄分を含む。	
						8	10YRS-1 黒褐色	シルト	にぶい黒褐色土 (10mm 程度) を含む。	
SX10 骨片・土器範囲	F4	-	11.0	6.8	8	1	10YRS-1 褐灰色	シルト	黒褐色土ブロック (30mm 程度) を少量含む。骨片 (10mm 程度) を多量含む。	DAB セクション
						1	10YRS-2 黑灰褐色	シルト	褐灰色土 (50mm 程度)、炭化物 (10mm 程度)、骨片 (10mm 程度) を含む。	C-C セクション
						2	10YRS-1 黑褐色	シルト	塊土。下部は酸熱のため赤褐色化している。	



第32図 SX10 性格不明遺構出土遺物

国版 番号	登録 番号	出土地	層位	種別	器種	部位	時期	法量(cm)			外面調整 (文様)	内部調整 (文様)	備 考	写真 図版
								口径	底径	器高				
32-1	A-01	SX30	—	陶文土器	深鉢	口縁部	陶文地帯	—	—	(4.8)	上部 陶文	—	—	15-3
32-2	C-24	SX30	2層	土師器	高杯	脚部	吉墳	—	—	(高さ)	脚部ヘラナデ 脚部ヨコナデ	ハラナデ	—	15-5
32-3	C-25	SX30	高面	土師器	高杯	吉墳	—	—	(6.8)	下部ヘラナデ→ハラナデ 等	ハラナデ	—	15-7	
32-4	C-26	SX30	高面	土師器	1ニチヌア 1ニヌア	口縁部~底部	4.8	32	36	ユビナデ	ユビナデ	—	—	15-4
32-5	P-05	SX30	高面	土製品	灰陶	—	—	—	(3.0)	上半部ビオサス 下部ケイズミ→ナデ	—	直径 5cm	15-6	
32-6	C-27	SX30	高面	土師器	壺	口縁部	吉墳	22.8	—	(5.3)	ヨコナデ	ヨコナデ	—直口縁 壶蓋式	15-8
32-7	C-28	SX30	高面	土師器	壺	口縁部~肩部	17.3	—	(9.2)	口縁部ヨコナデ 脚部ナデ	口縁部ヨコナデ 脚部ヘラナデ	—	—	15-9
32-8	C-29	SX30	高面	土師器	壺	底部大根	21.0	—	(18.0)	口縁部ヨコナデ 脚部ヨコナデ 脚部ヘラナデ+ナデ	口縁部ヨコナデ 脚部ナデ+ハラナデ	内面丸石あり	—	15-11
32-9	C-30	SX30	2層	土師器	壺	底部	—	—	5.5	(4.5)	ハラナデ	ハラナデ	—	15-12
32-10	C-31	SX30	2層	土師器	壺	底部	—	—	(3.7)	脚部ヘラナデ 脚部ヨコナデ	ハラナデ	—	15-10	
32-11	E-03	SX30	底面	須世器	—	口縁部	—	—	(2.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	—	15-13	
32-12	E-04	SX30	2層	須世器	二重瓶	脚部	—	—	(3.0)	—	—	—	—	15-14
32-13	E-05	SX30	底面	須世器	二重瓶	脚部	—	—	(2.0)	—	—	—	—	15-15

国版 番号	登録 番号	出土地	層位	種別	器種	部位	時期	法量(cm)			重さ (kg)	石材	備 考	写真 図版
								長さ	幅	厚さ				
32-14	K-02	SX30	底面	打撲石器	網	網文~施文	4.15	29	1.45	12.4	奥村芳	—	—	15-16
32-15	K-13	SX30	2層	石製品	石壓搾器	古墳	22	2.06	0.203	24	滑石	滑石	—	15-17
32-16	K-08	SX30	底面	離石器	離石	網文~施文	13.7	9.8	6.1	118.4	奥山田	—	—	15-18

## 7. ピット

本調査区では、堅穴建物跡の柱穴や掘立柱建物跡、柱列跡の構成ピットを除き、214基検出された。平面形は円形・梢円形・長梢円形・不整円形、不整梢円形と、円形基調である。規模は長径9~45cm、深さは3~73cmである。断面形は概ねU字形、V字形、長方形である。そのうち柱痕跡が確認されたものは、214基のうち35基検出された。平面形は円形・梢円形・長梢円形・不整円形、不整梢円形である。規模は21~45cm、深さは7~73cmである。

Pit13から土師器の壺（第33図-1）の口縁部が出土している。接合部は厚みを持ち、口縁端部に向かい外傾する。外面はヨコナデ、頸部にユビナデ、内面はヨコナデが施されている。



国版 番号	登録 番号	出土地	層位	種別	器種	部位	時期	法量(cm)			外面調整 (文様)	内部調整 (文様)	備 考	写真 図版
								口径	底径	器高				
33-1	C-32	Pit13	—	土師器	壺	口縁部	吉墳	(21)	—	(3.3)	口縁部ヨコナデ 脚部ユビナデ	ヨコナデ	—	15-19

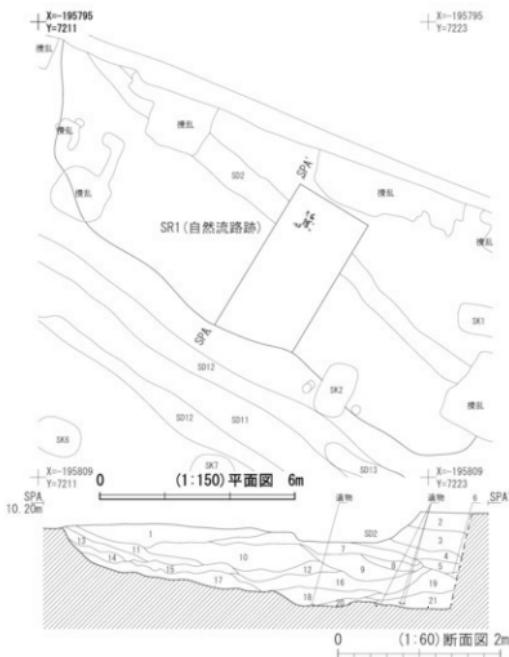
第33図 Pit13 ピット出土遺物

## 8. 自然流路跡

### SR1（第34・35図）

調査区北端部で自然流路跡を確認した。重複するそのほかの遺構より古い。調査区西側で北方に弯曲すると考えられ、東西両端部と北辺は調査区外へ続く。第62次調査で確認されたSD23と同じ流路跡である。規模は、長さ17.6m、上端幅6.0m以上である。断面形は皿形で、深さは1.14mである。堆積土は21層に分層した。遺物は弥生時代の土器（第35図-1・2）、黒耀石製の石礫（第35図-14・15）、片麻岩製の磨製石斧（第35図-16）、古墳時代の土師器の高杯（第35図-3~7）、壺（第35図-8~10）、鉢（第35図-11）、小型壺（第35図-12）、土玉（第35図-13）が出土した。1は外面にLR繩文が施される。口縁端部は内面から棒状工具で圧迫され波状を呈する。2は壺で、口縁部に2本の平行沈線が施される。口縁端部内面にナデ調整し、端部を若干細くしている。3は高杯で口縁部と裾部が欠損している。4~7は高杯脚部である。4は脚部と裾部はなだらかにつながる。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ、裾部はヘラナデ調整される。5は外面はナデ調整の後ヘラミガキ、内面はヘラナデ調整される。裾部には粘土が付け足された部分がある。6は外面は脚部がヘラミガキ、裾部がヨコナデ調整される。7は外面はヘラミガキ、

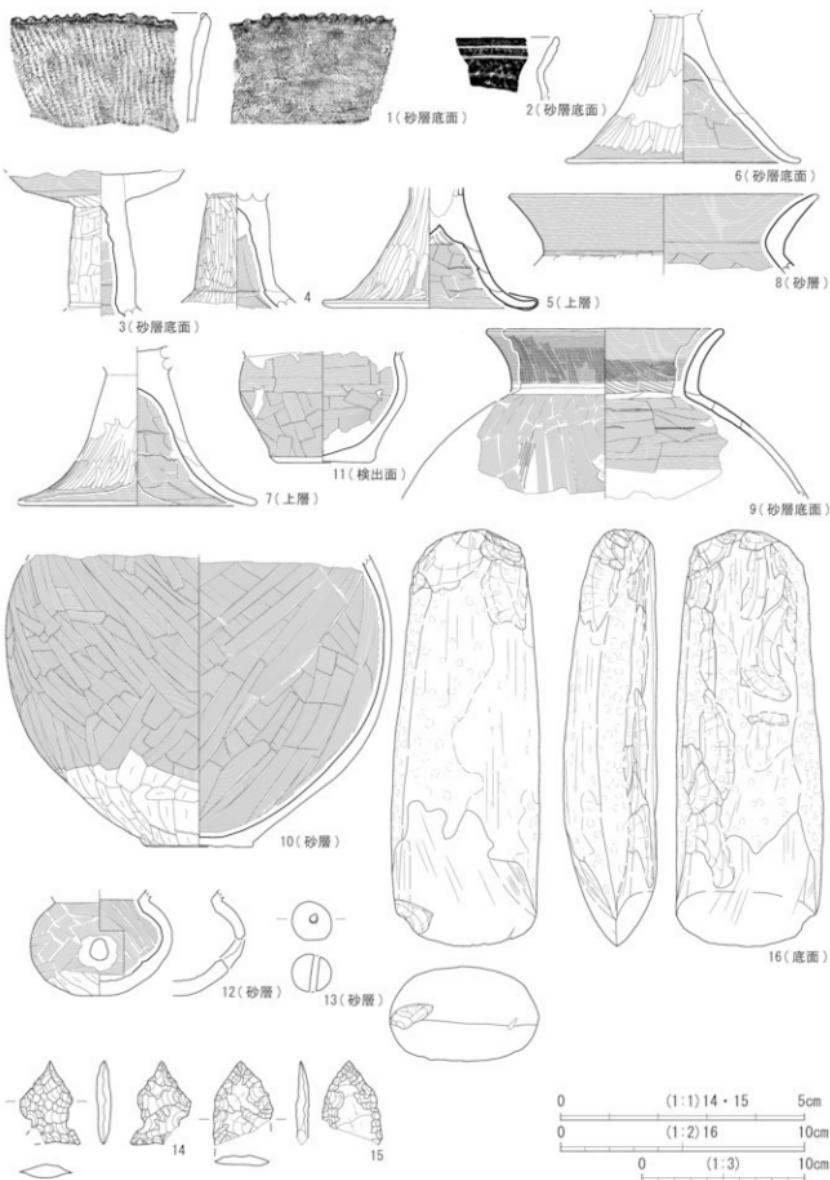
内面はヘラナデの後ユビナデ調整される。8は甕の口縁部である。接合部で厚みを持ち、口縁部は外反する。口縁部は内外面ともヨコナデ、頭部以下はヘラナデ調整される。9は甕で口縁部から肩部である。口縁部は頭部から外反する。10は胴部である。器壁は比較的薄く、丸みを持って立ち上がる。焼成は良く、硬質である。11は小型鉢である。口縁部は欠損し不明である。外内面ともにヘラナデ調整される。12は小型壺で、胴部のみ残る。焼成後、胴部に孔が1か所あけられている。外面は胴部はナデ調整の後、底部はヘラケズリ調整される。13は土玉である。中心に直径5mm程度の孔が穿たれる。14・15は黒羅石の石礫である。14はアメリカ式石礫で、基部を一部欠損している。15は基部を欠損している。16は大型蛤刀石斧である。両正面には整形時の削離痕が観察され、ほぼ全面に敲打痕とその後の研磨痕を残している。刃部は使用による欠損がある。



SR1 自然流路跡 堆積土註記表

層位	土色	土性	備考	基層
1	10YR5/1 黄褐色	シルト	無化した鉄分を多量に含む。	
2	10YR5/3 ないし 黄褐色	シルト	に赤い黄褐色土ブロック (10mm程度) を多量に含む。	
3	10YR5/3 ないし 黄褐色	シルト	に赤い黄褐色土ブロック (10mm程度) を多量に含む。炭化物 (5mm程度) を少量含む。	
4	10YR5/1 黄褐色	シルト	に赤い黄褐色土ブロック (10mm程度) を含む。炭化物 (5mm程度) を微量含む。無化した鉄分を微量含む。	
5	10YR6/2 灰黃褐色	シルト	灰白色土ブロック (10mm程度) を多量に含む。無化した鉄分を微量含む。炭化物 (5mm程度) をごく微量含む。	
6	10YR7/2 ないし 黄褐色	シルト	無化した鉄分を多量に含む。	
7	10YR7/3 ないし 黄褐色	細砂	炭化物 (5mm程度) をごく微量含む。	
8	10YR6/3 ないし 黄褐色	細砂	黄褐色 (10mm程度) や褐色土ブロック (10mm程度) を多量に含む。	
9	10YR7/2 灰黃褐色	細砂	黄褐色 (10mm程度) を含む。下は砂礫層にこれが軽く、明るい色調になる。	
10	10YR6/3 ないし 黄褐色	細砂	褐色土細砂 (幅1mほどの) を薄駆けで含む。	
11	10YR7/2 ないし 黄褐色	シルト	炭化物 (5mm程度) を微量含む。	SK1・2, SD2 より古びた。
12	10YR6/3 ないし 黄褐色	細砂	10層よりも粒子がやや粗い細砂。無化した鉄分を微量含む。	
13	10YR7/2 ないし 黄褐色	シルト	炭化物 (5mm程度) を微量含む。	
14	10YR6/1 黄褐色	シルト	無化した鉄分を微量含む。	
15	10YR6/4 (L4) 黄褐色	細砂	褐色土上ブロックを解体に含む。	
16	10YR6/4 ないし 黄褐色	細砂	厚さ20~30mmの褐色砂層を含む。	
17	10YR5/1 黄褐色	シルト	炭化物 (10mm程度)。無化した鉄分を含む。	
18	10YR6/2 灰黃褐色	細砂	褐色土細砂を解体に含む。	
19	10YR7/1 黄褐色	シルト	無化した鉄分を網状に多量に含む。	
20	10YR5/2 灰黃褐色	細砂	黄褐色 (5mm程度) を含む。	
21	10YR6/2 灰黃褐色	細砂		

第34図 SR1 自然流路跡



第35図 SR1 自然流路跡出土遺物

図版番号	登録番号	出土地	層位	種別	器種	部位	時期	法量(cm)			外面調整(文様)	内部調整(文様)	備考	写真図版
								直径	底径	高さ				
35-1	B-02	SRI	砂利充填	陶生土器	甕	口縁部	後生前期	—	—	(6.7)	LIE 菊文	ナデ	スヌ村若	16-1
35-2	B-03	SRI	砂利充填	陶生土器	甕	口縁部	後生中期	—	—	(3.8)	口縁部2本の波脚	ナデ		16-2
35-3	C-03	SRI	砂利充填	土器器	甕	C縁部・腹足	—	—	(30)	残底ヨコナギ 腹底ハラタズリ→ハラミガキ	ナデ		16-6	
35-4	C-34	SRI	—	土器器	甕	脚部	古墳	—	—	(6.05)	ハラミガキ	ナデ 脚部ハラナデ	ハラミガキ	16-3
35-5	C-35	SRI	上層	土器器	甕	脚部	古墳	—	132	(7.4)	ナゲ→ハラミガキ	ハラナデ		16-4
35-6	C-36	SRI	砂利充填	土器器	甕	脚部	古墳	—	143	(9.2)	脚底ハラミガキ 脚底ヨコナギ 脚底コロナギ	脚底上半スピナデ 脚底丁字ハラナデ 脚底ヨコナギ		16-5
35-7	C-37	SRI	上層	土器器	甕	脚部	古墳	—	142	(8.8)	脚底ハラミガキ 脚底ヨコナギ	ハラミガキ+エビナデ		16-8
35-8	C-38	SRI	砂利	土器器	甕	C縁部～腹足	古墳	188	—	(4.9)	口縁部ヨコナギ 腹底ハラミガキ	口縁部ヨコナギ 腹底ハラナデ		16-10
35-9	C-40	SRI	砂利充填	土器器	甕	口縁部～脚部	古墳	145	—	(10.5)	口縁部ヨコナギ 口縁部ハメメ→ヨコナギ 脚底ナギ 脚底ハメメ→スピナギ	口縁部ハメメ→ヨコナギ 脚底ナギ 脚底ハラナデ		16-9
35-10	C-41	SRI	砂利	土器器	甕	口縁部欠損	古墳	—	6.8	(18.6)	脚底ハラナデ 脚底ハラタズリ	ハラナデ+ナデ→ハラナデ		16-12
35-11	C-39	SRI	麻出面	土器器	甕	口縁部欠損	—	6.6	(6.8)	ハラナデ	ハラナデ			16-7
35-12	C-42	SRI	砂利	土器器	甕	脚部	古墳	—	2.7	0.5	脚底ナデ→ 脚底ハラタズリ	ナデ	後成後、脚部に穿孔	16-11

図版番号	登録番号	出土地	層位	種別	器種	部位	時期	法量(cm)			外面調整	備考	写真図版	
								直径	全長	孔径				
35-13	F-03	SRI	砂利	土製品	土玉	—	—	225	24	0.4~0.5		133g		16-15

図版番号	登録番号	出土地	層位	種別	器種	時期	法量(cm)			石材	備考	写真図版		
							長さ	幅	厚さ					
35-14	K-04	SRI	—	石製石器	石繩	後生	17.5	(12.0)	0.3	0.5	黒曜石	アメリカ式石繩 基部一部欠損		16-16
35-15	K-05	SRI	—	石製石器	石繩	後生	17	12	0.27	0.4	黒曜石	基部一部欠損		16-17
35-16	K-06	SRI	底面	碧玉製石器	大型船形石斧	後生	17.1	6.2	39	207.9	月弯石			16-18

## 9. 遺構外出土の遺物

第36図-1は土玉である。法量は3.15×2.8cmを測る。中心に直徑7mm程度の孔が穿たれる。ユビナデで整形されている。



図版番号	登録番号	出土地	層位	種別	器種	部位	時期	法量(cm)			外面調整	備考	写真図版	
								直径	全長	孔径				
36-1	P-01	F4	V層	土製品	土玉	—	—	2.8	3.15	0.6~0.8	チア・ユビナデ	221g		16-14

第36図 遺構外出土遺物

## 第6章 総括

南小泉遺跡第68次発掘調査地点は、遠見塚小学校の敷地内で、史跡遠見塚古墳の西側に位置している。今回の調査では堅穴建物跡6基、掘立柱建物跡2棟、柱列跡2列、土坑42基、溝跡12条、自然流路跡1条、性格不明遺構6基を確認した。本章では特に、検出遺構の主体を占める堅穴建物跡を中心として総括を行い、本報告のまとめとした。

### 1. 堅穴建物跡について

堅穴建物跡6基は、調査区中央部の限られた範囲で重複して検出されている。SI5とSI6の新旧関係は不明であるが、重複関係よりSI5・SI6→SI4→SI3→SI2→SI1の順に建て替えが行われたことが確認される。堅穴建物跡の軸方向は東に24°～30°偏しており、ほぼ同じ方向に造られている。また、堆積土が全て人為堆積であることから、一定の範囲内で、前の堅穴建物を取り壊して埋め戻し、新たに建て直していたものと考えられる。

堅穴建物跡の平面形は全て隅丸方形で、周溝と壁柱穴を伴っている。壁柱穴は建物の四隅とその中間の壁際で検出されている。壁柱穴には柱痕跡が確認されることが多い。

SI1、SI3、SI4には張出し部が付属している。張出し部の底面は、建物本体に向かって緩やかに傾斜しており、堅穴建物跡の出入り口と推定される。張出し部と建物本体の接続部寄りには、張出し部底面の両側に溝が敷設されている。同様の溝はSI2でも確認されており、SI2にも張出し部が付属していたものと考えられる。張出し部の位置は、SI1～3では東壁側、SI4では南壁側である。

SI1～4の床面には炭化物と焼土が堆積しており、SI3とSI4では明瞭な焼けた痕跡も確認されている。炭化物と焼土が確認された位置は中央部ではなく、SI1は建物の南西側、SI2～4は北東側であり、中央部で確認されたものはない。

堅穴建物跡の時期を決定する遺物は出土していないが、SI1とSI2の堆積土中から中世陶器の甕の破片が出土しており、今回の調査で検出された堅穴建物跡は中世以降の時期に属すると考えられる。

今回の調査で検出された堅穴建物跡に類似する遺構は、仙台市内では、養種園遺跡第2次調査で確認されている（仙台市教委 2009）。中世後半の時期とされるSI203堅穴建物跡は、張出し部は付属していないものの、壁柱穴が建物の四隅とその中間の壁際で検出され、1辺に溝を伴っており、建物の構造的に類似している。また、壁柱穴は確認されていないが、南小泉遺跡第11次調査第1号土倉跡には、3段の階段が張出し部状に付設されている（仙台市教委 1984）。

時期は桃山時代から江戸時代初期である。これらとは別に、王ノ壇遺跡と養種園遺跡第1次調査では、鍛冶関連の施設と考えられる堅穴状の遺構が確認されている。鎌倉時代前半の時期に属すると考えられている王ノ壇遺跡 SI601堅穴建物跡は壁柱穴を伴っており、床面中央のやや南寄りでは焼面が検出されている。堆積土中より羽口や鉄製品が出土している（仙台市教委 2000）。養種園遺跡第1次調査IV区 SI01堅穴建物跡は、戦国期から江戸時代初期の時期とされ、遺構全体の4分の1程度の部分的な検出にとどまっているが、壁際に柱穴を伴い、鉄滓や湯玉が出土している（仙台市教委 1997）。

中世の堅穴建物跡は日本各地で確認されているが、出土遺物が少ないとことなどから、遺構の性格については不明なところが多い。しかし、鎌倉で調査された堅穴建物跡の研究から、倉庫としての機能を持つものもあることが指摘されている（鈴木 2013）。一方、北東北で確認されている堅穴建物跡の中には出土遺物から鍛冶工房の機能を持つものもある（工藤はか 2001）。今回の調査で確認された堅穴建物跡では鉄滓や羽口などの鍛冶に関わる遺物が出土していないことから、鍛冶関連の施設というよりはむしろ、倉庫跡の可能性が考えられるが、遺構の性格については、今後の類例の増加を待って検討したい。

堅穴建物跡の周辺にはSK12やSK20などの方形の土坑が確認されている。堆積土は人為堆積で、堅穴建物跡と同様に人為的に埋め戻されている。SI1及びSI5とSK14には重複関係があり、SK14が新しい。このように新旧関係が認められる例もあるが、堅穴建物跡とほぼ同じ方向で造られていることから、近い時期に造られた遺構の可能性がある。

今回の調査地点の近辺で調査された第17次調査と第30次調査、第67次調査では、区画溝に囲まれた掘立柱建物

跡等で構成される中世の屋敷跡が確認されている。今回確認された遺構群はこれらの屋敷跡の北側に位置しており、居住の空間とは区別して造られていた可能性が考えられる。

## 2.まとめ

- (1) 南小泉遺跡は、おもに広瀬川によって形成された標高7~14 mの自然堤防上に立地している。
- (2) 今回の調査によって検出された遺構は、堅穴建物跡6基、掘立柱建物跡2棟、柱列跡2列、土坑42基、溝跡12条、自然流路跡1条、性格不明遺構6基である。重複関係等から、自然流路跡・SD11・12・13→掘立柱建物跡・柱列跡→堅穴建物跡→方形土坑という変遷が考えられる。ただし、堅穴建物跡と方形土坑の明確な新旧関係は、SI1及びSI5とSK14に重複関係が確認できるのみであり、堅穴建物群から方形土坑群への大きな変遷を考える根拠としては充分とは言い難い。今後の調査事例の蓄積を待って、あらためて検討を加える必要がある。
- (3) 堅穴建物跡は6基確認され、ほぼ同規模、同一方向に造られ、重複している。人為的な堆積状況を示していることから、一定の範囲内で建て替えが行われたものと考えられる。遺構の時期は中世もしくはそれ以降の可能性がある。
- (4) 今回の調査では、縄文時代から中世までの遺物が出土した。
- (5) 自然流路跡とSD12から、古墳時代中期南小泉式期に属する土師器や石製模造品が出土している。SX10からは古墳時代中期のものと考えられる二重甌の破片が出土しており、南小泉遺跡では第30次調査と第67次調査でも出土している。
- (6) 弥生時代の遺構は確認されなかったが、自然流路跡から弥生土器、石錐、大型蛤刃石斧など弥生時代の遺物が出土している。

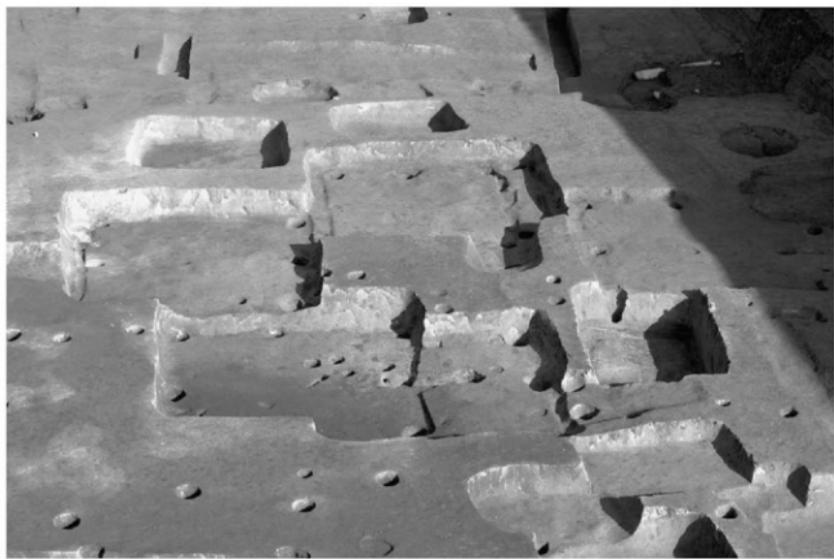
## 参考文献

- |           |   |
|-----------|---|
| 氏家和典      | 1957 「東北土師器の形式分類とその編年」『歴史』第14輯  |
| 山田一郎・庄子真雄 | 1980 「宮城県に分布する灰白色火山灰」『宮城県多賀城跡調査研究所年報1979』                                       |
| 仙台市教育委員会  | 1984 「南小泉遺跡 都市計画街路建設工事関係第3次発掘調査報告書」 仙台市文化財調査報告書第68集                             |
| 仙台市教育委員会  | 1990 「南小泉遺跡 第16~18次発掘調査報告書」 仙台市文化財調査報告書第140集                                    |
| 仙台市教育委員会  | 1996 「中在家南遺跡他」 仙台市荒井地区土地区画整理事業関係道路発掘調査報告書<br>仙台市文化財調査報告書第213集                   |
| 仙台市教育委員会  | 1997 「糞種園遺跡 発掘調査報告書 —伊達家別荘跡の調査—」 仙台市文化財調査報告書第214集                               |
| 仙台市教育委員会  | 1998 「南小泉遺跡 第30・31次発掘調査報告書」 仙台市文化財調査報告書第226集                                    |
| 田中則和      | 1999 「一地域における中世から近世へ —南小泉遺跡と糞種園遺跡(一)」<br>『六軒丁中世史研究 第6号』 東北学院大学中世史研究会            |
| 田中則和      | 2000 「一地域における中世から近世へ —南小泉遺跡と糞種園遺跡(二)」<br>『六軒丁中世史研究 第7号』 東北学院大学中世史研究会            |
| 仙台市教育委員会  | 2000 「王ノ壇遺跡 都市計画道路「川内・柳生線」関連遺跡発掘調査」<br>仙台市文化財調査報告書第249集                         |
| 工藤清泰はか    | 2001 「掘立柱堅穴 中世遺構論の課題」 高志書院  |
| 仙台市教育委員会  | 2008 「南小泉遺跡 第28次発掘調査報告書 一都市計画道路「南小泉茂庭線」一関連遺跡調査報告書」<br>仙台市文化財調査報告書第325集          |
| 仙台市教育委員会  | 2008 「南小泉遺跡他 発掘調査報告書」 仙台市文化財調査報告書第336集  |
| 仙台市教育委員会  | 2009 「糞種園遺跡第2次 保春院前遺跡 発掘調査報告書 一都市計画道路「南小泉茂庭線」一<br>関連遺跡調査報告書II」 仙台市文化財調査報告書第344集 |
| 仙台市教育委員会  | 2012 「南小泉遺跡 第62次発掘調査報告書」 仙台市文化財調査報告書第408集                                       |
| 鈴木弘太      | 2013 「ものが語る歴史 29 中世鎌倉の都市構造と堅穴建物跡」 同成社   |





調査区全景（南西から）

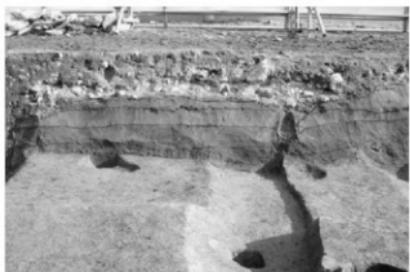


豊穴建物跡群（南西から）

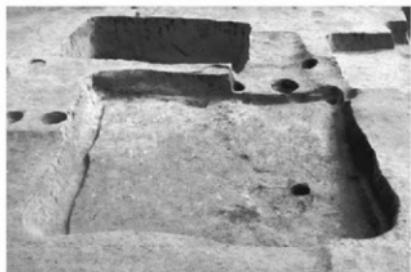
写真図版 1 調査区全景・豊穴建物跡群



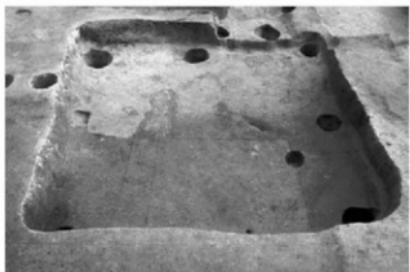
基本土層①（北西から）



基本土層⑥（北西から）



SI1 全景（北西から）



SI1 完掘（北西から）



SI2 全景（北西から）



SI2 完掘（北西から）



SI3 全景（南東から）



SI3 完掘（北西から）

写真図版 2 基本土層・竪穴建物跡



SI4 全景 (南東から)



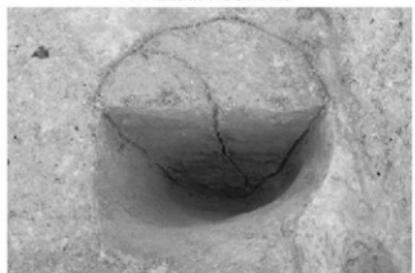
SI4 完掘 (南東から)



SI5 土層断面 (南東から)



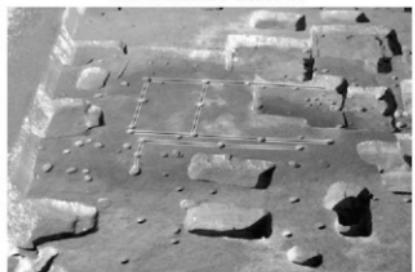
SI5 全景 (南東から)



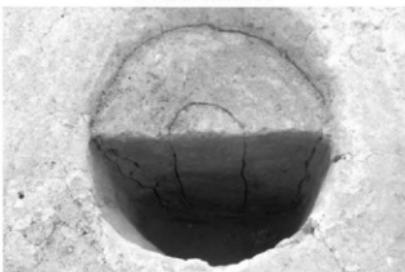
SI6-P3 土層断面 (南西から)



SI6 全景 (北東から)

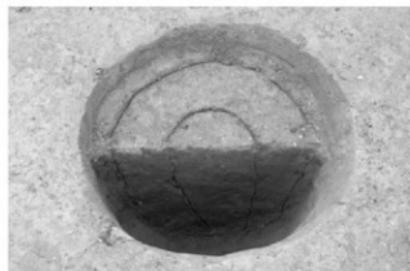


SB1・2 全景 (南西から)

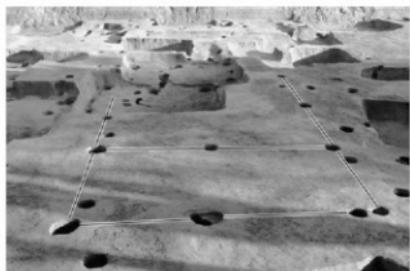


SB1-P62 土層断面 (北東から)

写真図版 3 竪穴建物跡・掘立柱建物跡



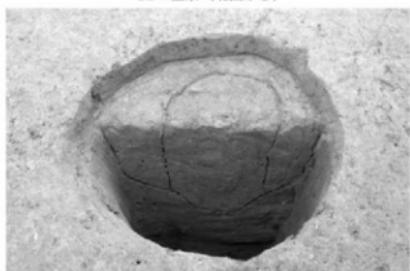
SB1-P104 土層断面 (北東から)



SB1 全景 (北西から)



SB2-P97 土層断面 (北西から)



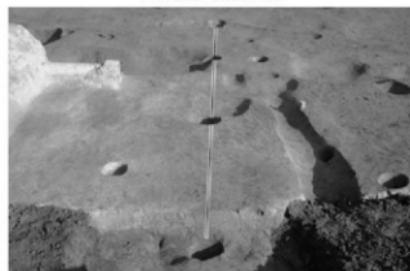
SB2-P102 土層断面 (南西から)



SB2 全景 (北西から)



SA1-P166 土層断面 (北西から)



SA1 全景 (南西から)



SA2 全景 (北西から)

写真図版 4 掘立柱建物跡・柱列跡



SK1 土層断面（南西から）



SK1 完掘（南西から）



SK11 土層断面（南西から）



SK11 完掘（北東から）



SK12 土層断面（南西から）



SK12 完掘（南西から）

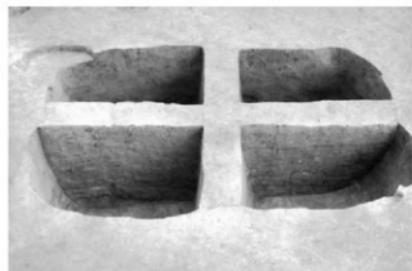


SK17 土層断面（北西から）

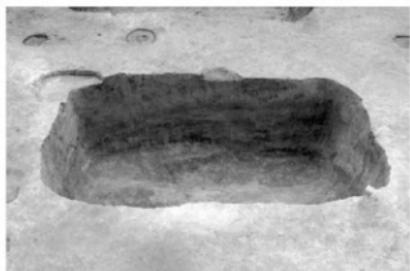


SK17 完掘（北西から）

写真図版5 土坑



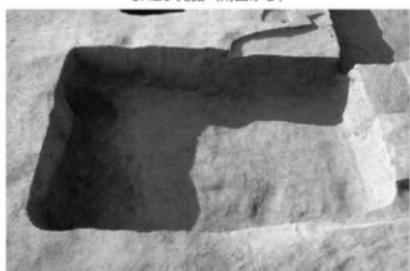
SK20 土層断面（南西から）



SK20 完掘（南西から）



SK29 土層断面（南東から）



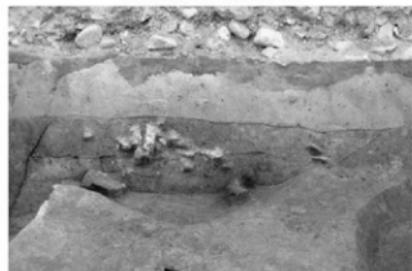
SK29 完掘（南東から）



SK42 土層断面（南西から）



SK42 完掘（北西から）

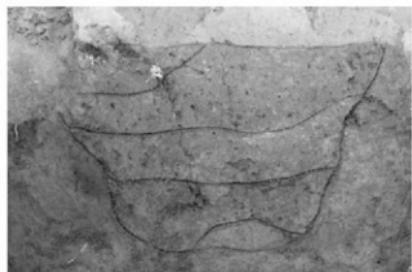


SK43 壁土層断面（南東から）



SK43 完掘（南東から）

写真図版 6 土坑



SK44 土層断面（南東から）



SK44 完掘（南東から）



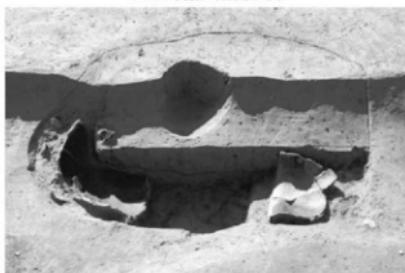
SK50 土層断面（南西から）



SK50 完掘（北西から）



SK54 土層断面（北東から）



SK54 遺物出土状況（北東から）



SK54 完掘（北東から）



SK55 土層断面（北東から）

写真図版 7 土坑



SK55 遺物出土状況（北から）



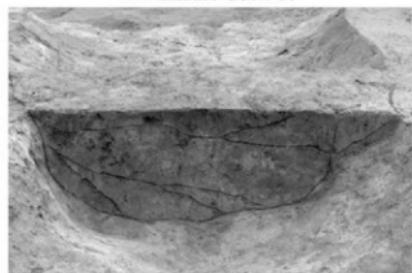
SK55 完掘（東から）



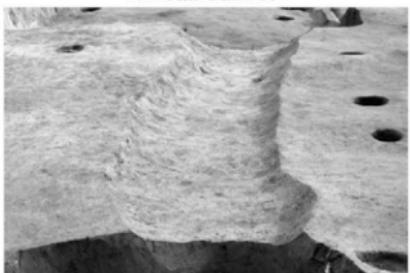
SD2 土層断面（南東から）



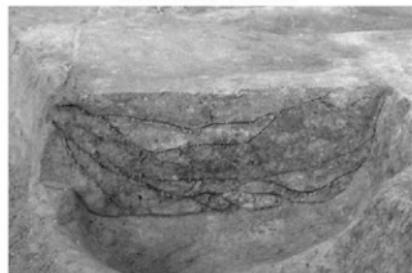
SD2 完掘（南東から）



SD3 土層断面（北西から）



SD3 完掘（北西から）

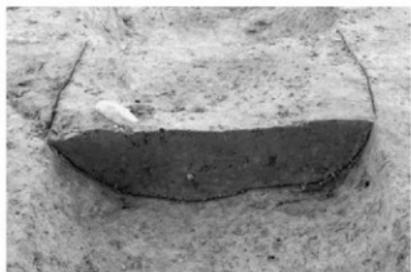


SD5 土層断面（南東から）



SD5 完掘（北西から）

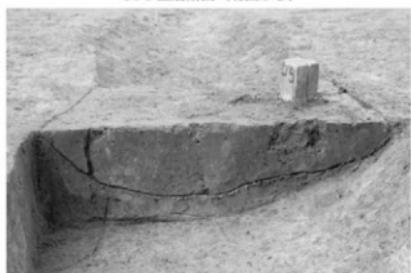
写真図版 8 土坑・溝跡



SD6 土層断面（北西から）



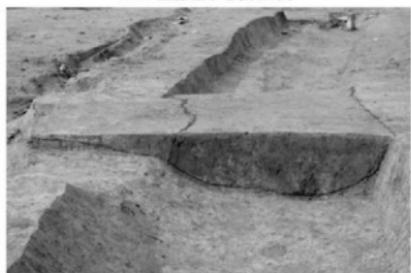
SD6 完掘（北西から）



SD7 土層断面（南東から）



SD7 完掘（南東から）



SD8・SX6 土層断面（南東から）



SD8 完掘（南東から）



SD11・12 土層断面（南東から）



SD12 遺物出土状況（南東から）

写真図版 9 溝跡



SD11・12・13 完掘（北西から）



SD16 土層断面（南西から）



SD16 完掘（北東から）



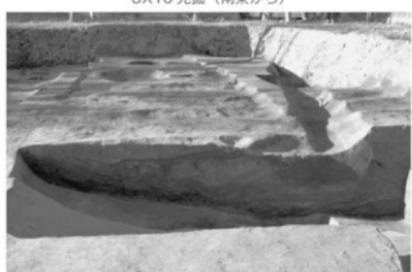
SX10 土層断面（南東から）



SX10 完掘（南東から）



SR1 確認状況（北西から）

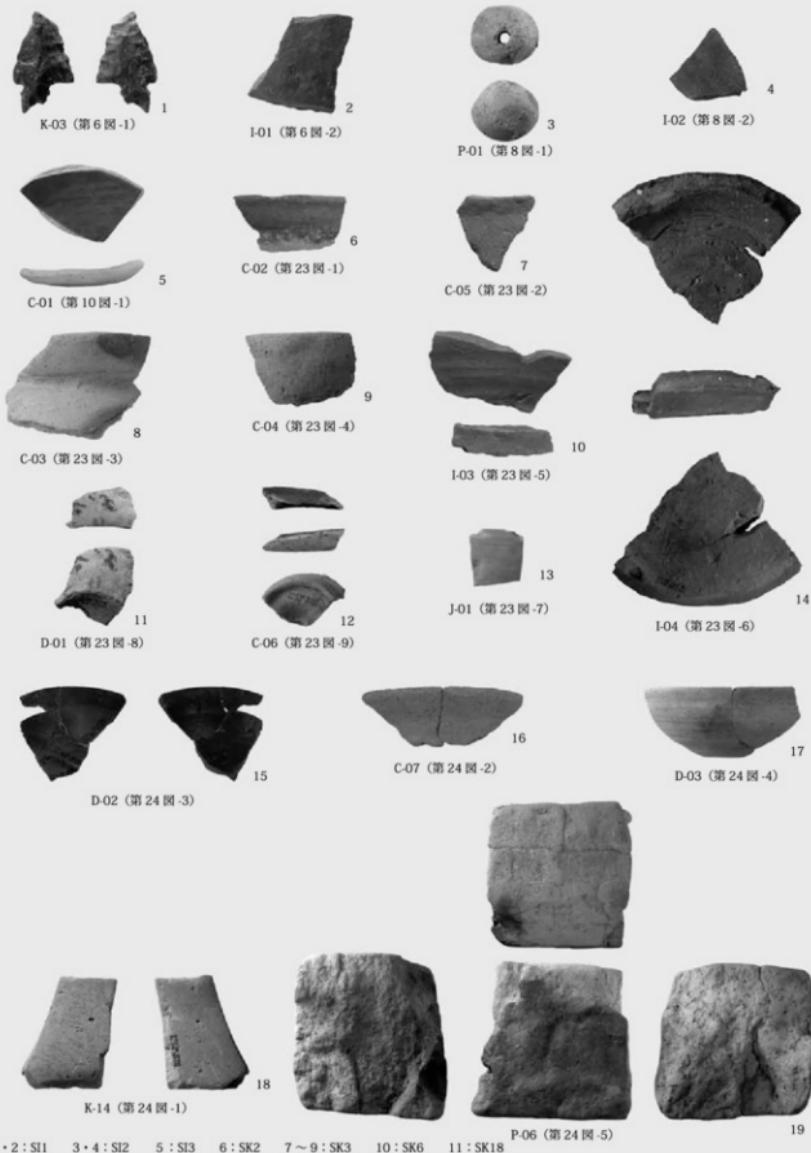


SR1 土層断面（南東から）



SR1 遺物出土状況（南東から）

写真図版 10 溝跡・性格不明遺構・自然流路跡



写真図版 11 穴窓建物跡・土坑出土遺物

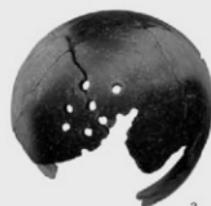


E-01 (第24図-6)

C-09 (第24図-7)



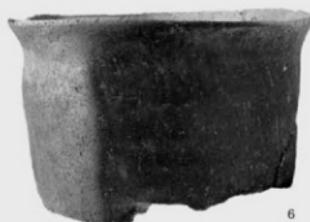
C-10 (第24図-9)



C-08 (第24図-8)



C-13 (第25図-3)



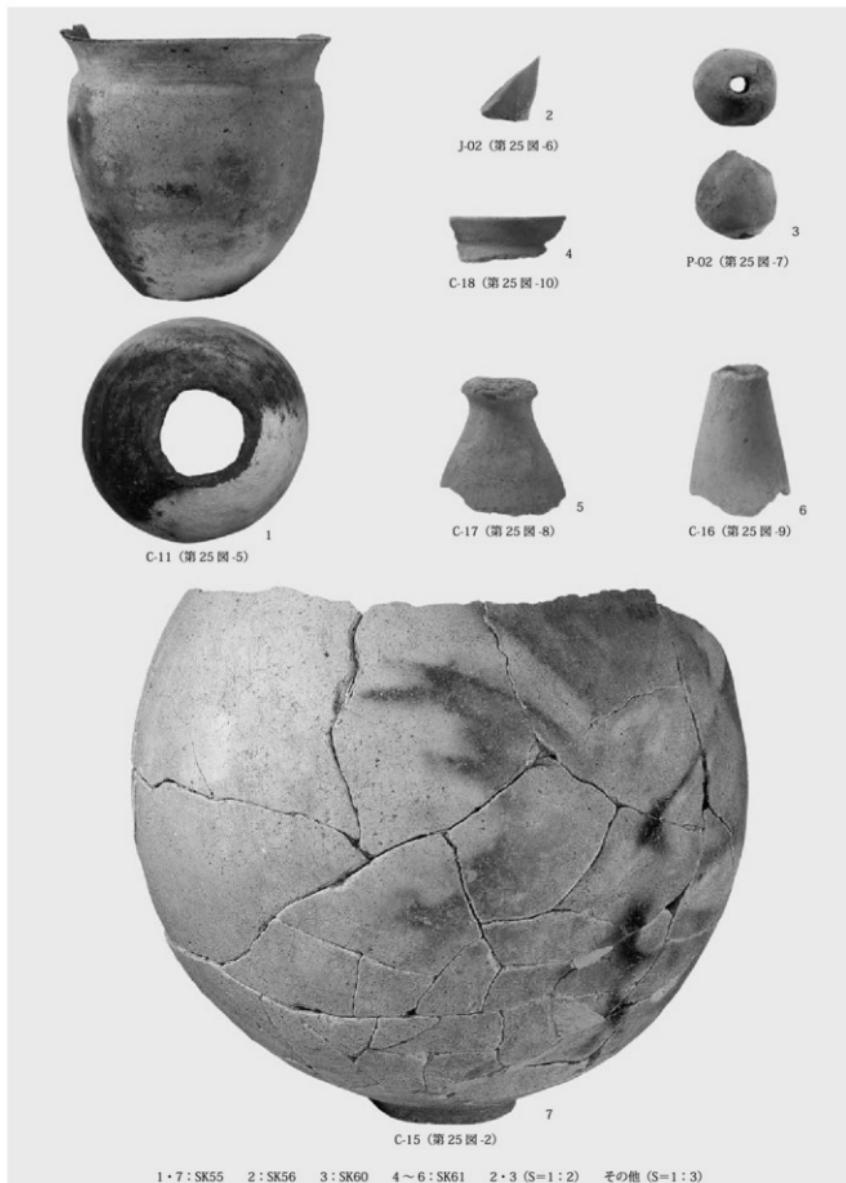
C-12 (第25図-1)



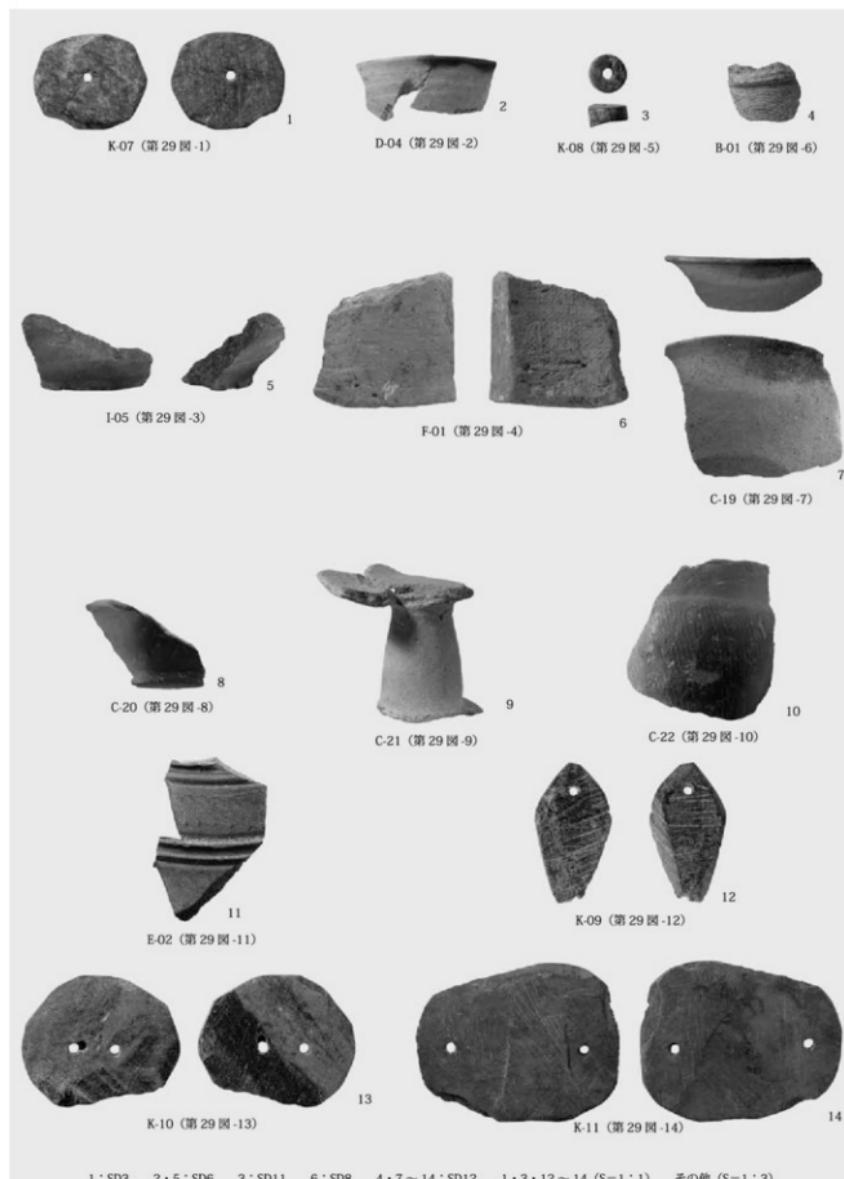
C-14 (第25図-4)

1:SK44 2・3:SK54 4～7:SK55 全て(S=1:3)

写真図版 12 土坑出土遺物

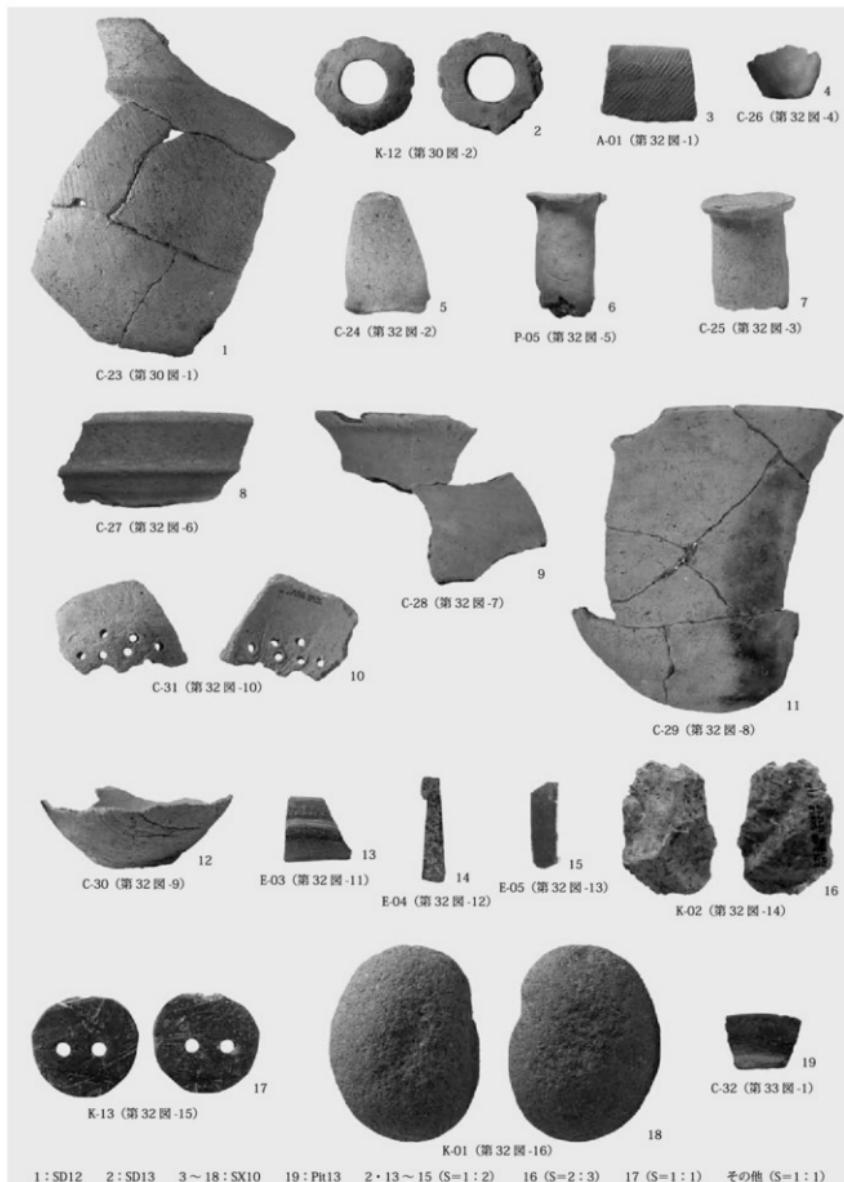


写真図版 13 土坑出土遺物

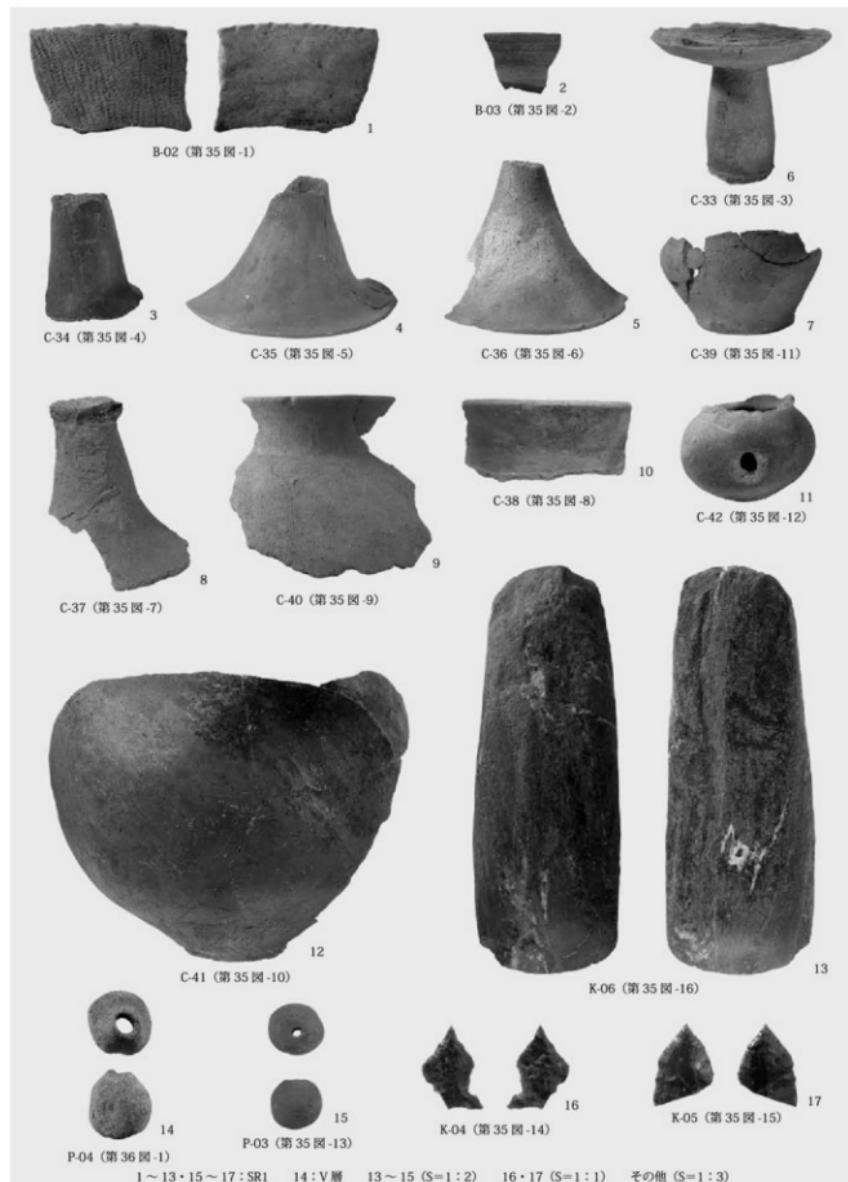


1 : SD3    2 + 5 : SD6    3 : SD11    6 : SD8    4 + 7 ~ 14 : SD12    1 + 3 + 12 ~ 14 (S=1:1)    その他 (S=1:3)

写真図版 14 溝跡出土遺物



写真図版 15 溝跡・性格不明遺構・ピット出土遺物



写真図版 16 自然流路跡・V層出土遺物

## 報告書抄録

ふりがな	みなみこいすみいせき　だい68じはくつちょうさほうこくしょ							
書名	南小泉遺跡 第68次発掘調査報告書							
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第420集							
編著者名	主演光朗 荒井 格 庄子裕美 松井 智 中俣 茂							
編集機関	仙台市教育委員会							
所在地	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25 TEL 022-214-8899							
発行年月日	2014年3月							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
南小泉遺跡	宮城県仙台市若林区遠見塚1丁目22番地1号	04100	01021	38°14'19"	140°54'44"	2012.09.27 2013.01.17	839m <sup>2</sup>	学校プール改築工事
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
南小泉遺跡	集落跡 (集落縁辺部)	縄文時代 弥生時代 古墳時代 古代～中世	土坑 掘立柱建物跡 竪穴建物跡	縄文土器 弥生土器・石器 土師器・須恵器 甕・石器 陶器・青磁	竪穴建物跡を6基検出した。			
要約	竪穴建物跡6基、掘立柱建物跡2棟、柱列跡2列、土坑42基、溝跡12条、自然流路跡1条、性格不明遺構6基を確認した。竪穴建物跡は壁柱穴と周溝を伴っており、張出し部を付属しているものが多い。 仙台市内では、王ノ塙遺跡、養種園遺跡等で竪穴建物跡が確認されており、中世の遺構と考えられている。今回の調査で検出された竪穴建物跡はこれらに類似しており、堆積土中から中世陶器が出土していることから、時期は中世の可能性が高い。							

仙台市文化財調査報告書第420集

### 南小泉遺跡

第68次発掘調査報告書

2014年3月

発行 仙台市教育委員会

宮城県仙台市青葉区一番町4-1-25  
文化財課 022(214)8899

印刷 今野印刷株式会社

宮城県仙台市若林区六丁の目西町2-10  
022(288)6123

